文部科学省委託事業

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業
（ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想）

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想
～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

令和３年度成果報告書（第１年次）

島根県立益田高等学校

島根県立津和野高等学校

～いろんな教科を
わかち合う環境から
みんなで探究～

島根県立江津高等学校

島根県立吉賀高等学校

令和４年４月
島根県教育委員会

本報告書は、文部科学省委託事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想）」における島根県の成果をとりまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等については、文部科学省の承認手続きが必要です。

成果報告に寄せて

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）の採択という文部科学省からの朗報とともに、令和３年度より本事業が始まり、１年が経過しました。構成校である益田高等学校、津和野高等学校、吉賀高等学校、江津高等学校及び各コンソーシアムの皆様、島根県教育センターや事業評価委員の諸先生方をはじめ、御協力、御指導をいただいた関係の皆様に厚くお礼申しあげます。

島根県が本事業を行う背景には、人口が県東部に偏在し、全域が中山間地域である県西部（石見地区）では特に人口減少が著しいこと、県西部にある高校は全て中小規模校であること、県西部出身の教員が少なく異動等により学校経営が安定しないこと、さらに学校内資源活用や視点が硬直化してしまうこと、などが挙げられます。また、令和 2 年度実施の島根県高校魅力化アンケートによると、CORE ネットワークの構成校において「将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う」という質問に肯定的に回答した生徒は、4 校平均で 43.5%（県平均 52.7%）と高くない状況にあります。加えて、現在のコロナ禍にあって、夢や人との絆（つながり）を絶たれる気持ちになった生徒も少なくありません。

以上のことから、「広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる４校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す」という目的のもと、『いわみオロチ COREハイスクール・ネットワーク構想～夢と絆をはぐくむふるさと創生人の育成～』と題し、本事業をスタートさせたところです。

島根県では各校にコンソーシアムが設立されていることから、１年目である令和３年度は、関係機材配備、通信環境整備、遠隔授業の試行配信を中心に取り組みました。配信予定校の先生方だけではなく、事務局の各担当指導主事や事業評価委員の皆様にも遠隔授業を実際に行っていただくなど、課題感の共有に加え、構成校・事務局・事業評価委員相互のコミュニケーションアップにもつながったものと感じています。

２年目の令和４年度は、遠隔授業の本格実施を予定しています。また、各コンソーシアムの連携を進めるとともに、島根県で構想している「しまねオンライン探究支援システム」を本事業の構成校において試行します。“いわみ（石見）”の頭文字をとって「いろいろな教科を　わかち合う環境から　みんなで探究」を合言葉に、２年目以降に向けて本事業への取組が充実発展するよう努力してまいりますので、関係の皆様には今後とも変わらぬ御指導、御助言を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

令和４年４月

島根県教育庁教育指導課長　　佐 藤　 誠

■目次

成果報告に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
研究結果説明書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

１．関係機関事業担当者会議ならびに訪問調査
・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
・資料
事業担当者会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
事業成果報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
２．４校運営調整会ならびに研修会
・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
・資料
第１回運営調整会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第２回運営調整会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第３回運営調整会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
配信教員研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
３．遠隔授業試行
・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
・資料
英語Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
倫理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
社会と情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
地理Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
数学Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
理科基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
４．その他
4.1　ＩＣＴ関連の視察ならびにイベントへの参加・・・・・・・103
4.2　GoogleClassroom での情報共有・・・・・・・・・・・・・・104
4.3　「オンライン探究支援システム」構築に向けた試行・・・・105

石見オロチＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想 ～いろんな教科をわかち合う環境からみんなで探究～

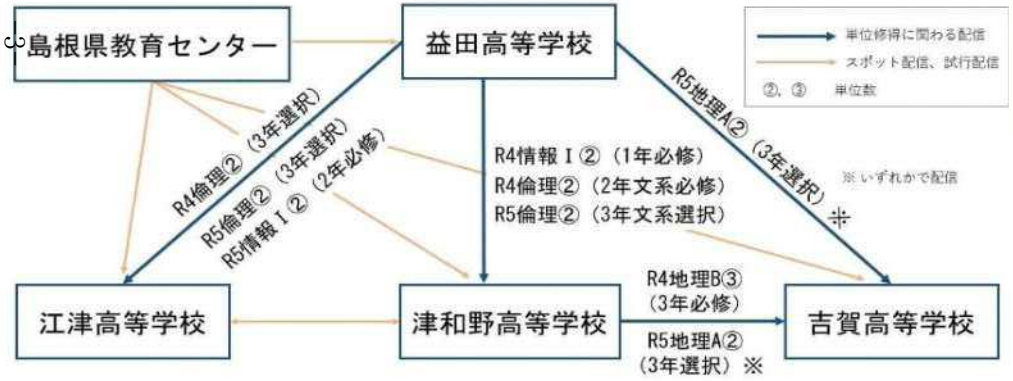
事業背景

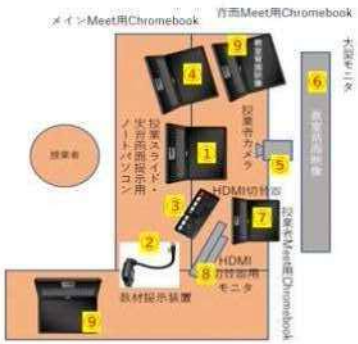
・人口が県東部に偏在し、西部（石見地区）は減少
・学校内資源の活用や視点の硬直化
・西部にある高校は全て中小規模校
・西部出身の教員が少なく、異動サイクルが早い
・高校魅力化コンソーシアム同士の連携

事業目的 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる４校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す

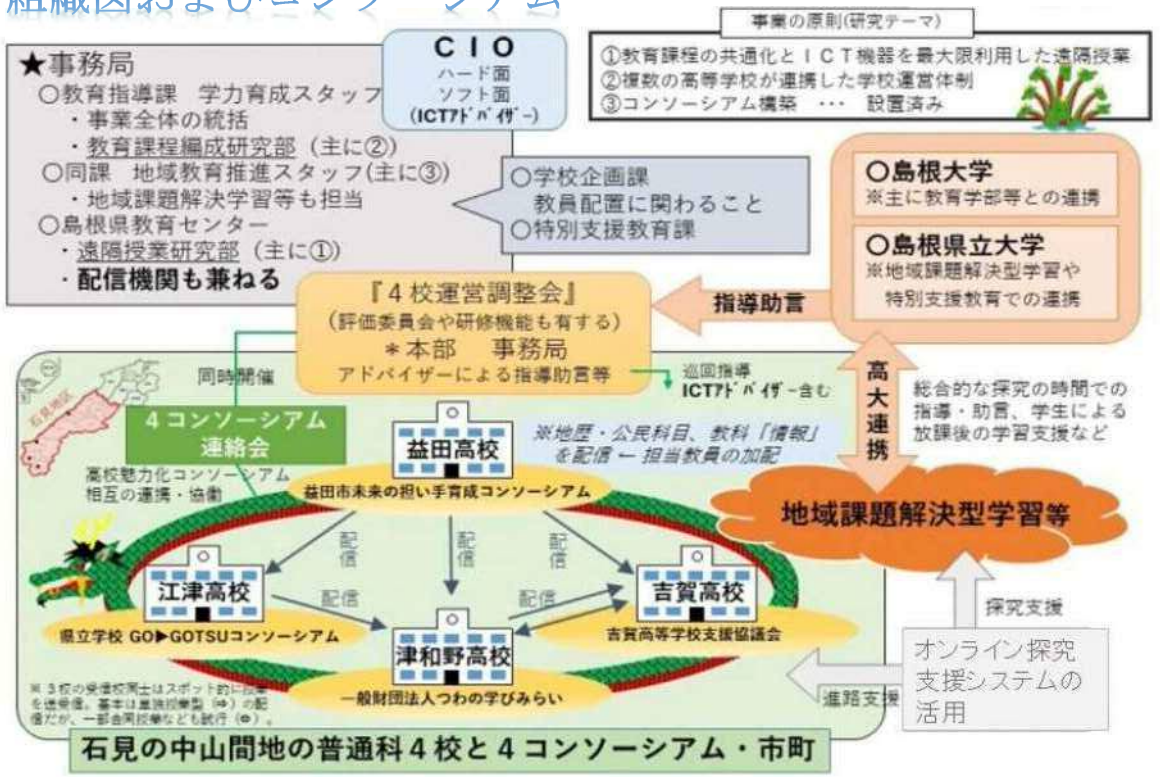
遠隔授業配信（予定）





2022年2月1日（火）地理B 島根県教育センター⇔吉賀高校配信の様子

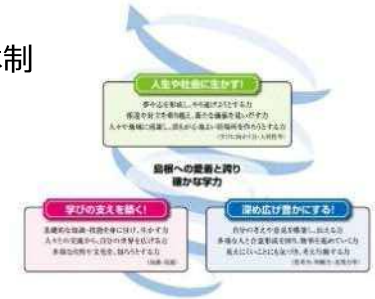
組織図およびコンソーシアム



成果ならびに課題

○配信機材構築（左の通り）
○事業評価委員ならびに事務局指導主事による配信試行
○学校外の教育資源を活用した探究的な学びと発表の場づくり
○「オンライン探究支援システム」の試行

▲生徒の見取りならびに1人1台端末でのweb会議システム接続
▲遠隔授業専用教室の変更と環境整備
▲単独校構築と複数校構築のコンソーシアム間の連携体制
▲人事ならびに学校再編部署との事業連携



「しまね教育魅力化ビジョン」
～ ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり ～
の具現化へ

（別紙様式３　別紙１）

研究結果説明書

１．事業の実施期間

令和３年７月１６日　～　　令和４年３月３１日

２．ＣＯＲＥネットワーク構成

（１）ＣＯＲＥネットワークの名称

石見オロチＣＯＲＥハイスクール

（２）ＣＯＲＥネットワークを構成する高等学校等

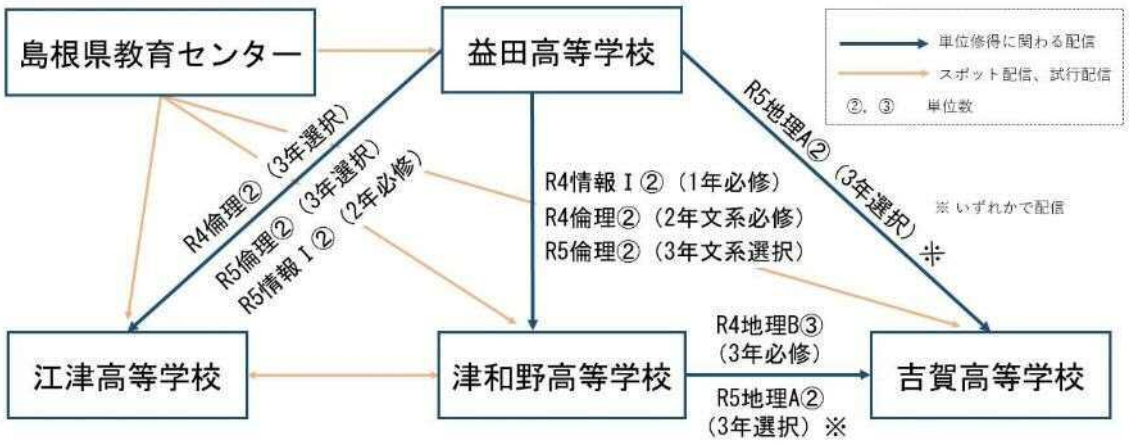
①益田高等学校（主に配信校）　　②江津高等学校（主に受信校）
③津和野高等学校（主に受信校）　　④吉賀高等学校（主に受信校）

３．調査研究結果の概要

（１）「教科・科目充実型」の遠隔授業などＩＣＴも活用した連携・協働の取組（受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。）

本県西部の学校の多くは中小規模校のため教員数が少なく、多様な選択科目の開講が単独では困難な状況にある。地歴科、理科教員は、採用された専門科目以外の科目を受け持つことが多く、負担も大きい。また、本県において教科「情報」の採用教員は２名しかおらず、各校は免許外の教員に臨時免許状を申請して指導しているのが現状である。

以上から、本事業で上記課題解決について筋道をつくりたい。一定の成果が得られれば、教員配置の最適化と高校間の共有を進める。例えば、教科「情報」の配信拠点校を設定し、専門性の高い教員による授業配信を行うことなどが考えられる。また、今回の取組は単独配信型（配信校側は生徒なし）を主とするが、対面授業を主としながらも授業の一部を共同授業（配信校・受信校側双方に生徒あり）で行う授業方式についても検討する。また、将来的には地元の高校で職業系の専門科目の一部を学べるようにすることも視野に入れる。



［遠隔授業の配信校・受信校 関係図］　*スポット授業：単位認定をせず年間一定回数配信する授業

○授業スタイル

Ａ：習熟度対応型　　･･･（スポット）英語、数学、理科等

Ｂ：未開講科目、免許外、専門外型　･･･（単位修得）地歴公民、情報

Ｃ：指導重点型　･･･（試行）遠隔による合同授業の実施

Ｄ：探究学習型　･･･　総合的な探究の時間などを複数校間で同時に実施

Ｅ：センター配信型　･･･各校からの授業配信を行う上での遠隔授業研究、試行配信

○遠隔授業方式

ａ：単独授業型（スタジオ→教室）･･･　主にこの方式で実施

ｂ：合同授業型（教室→教室、学校外）･･･　総合的な探究の時間、スポット授業

○配信方法

α：同時双方向型（受信側：担当教員、担当教員外）･･･　原則この方法で実施

β：オンデマンド型　･･･　スポット授業でオンデマンド配信を試行

（２）学校間連携を行うための運営体制に関する取組

４校運営調整会において、学校間連携をスムーズに行うための調整を行う。また、それに伴う実務に関わる担当者会（管理職、アバイザーを除く）を適宜開催する。

【組織】　◎は事務局（県教育委員会）、○はメンバー

●「４校運営調整会」

◎教育指導課学力育成スタッフ　　［統括］

◎教育指導課地域教育推進室スタッフ　　［コンソーシアムに関すること］

◎島根県教育センター 研究・情報スタッフ　［遠隔授業に関すること］

○構成４校（メンバー：管理職、各校ＣＯＲＥ担当者）

○アドバイザー

・CIO　島根県地域振興部情報政策課　山口　悟　CIO 補佐官

・事業評価委員

公立鳥取環境大学環境学部　教授　　千代西尾　祐司（ICTｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　兼務）
島根大学教育学部　　准教授　中村　怜詞
島根県立大学総合政策学部　教授　　赤坂　一念

※県教育委員会と島根大学とは高大連携で、島根県立大学と包括的連携において平成31年に協定を締結している。内容にカリキュラム開発も含まれている。

なお、この４校運営調整会に「事業評価委員会」の機能を持たせる。

●「４コンソーシアム連絡会」
◎教育指導課地域教育推進室スタッフ
〇各校に所属するコーディネーターもしくはコンソーシアム関係者等

【開催回数等】

４校運営調整会は学期に１回程度開催する。４コンソーシアム連絡会は適宜開催する。開催はオンラインを基本とする。

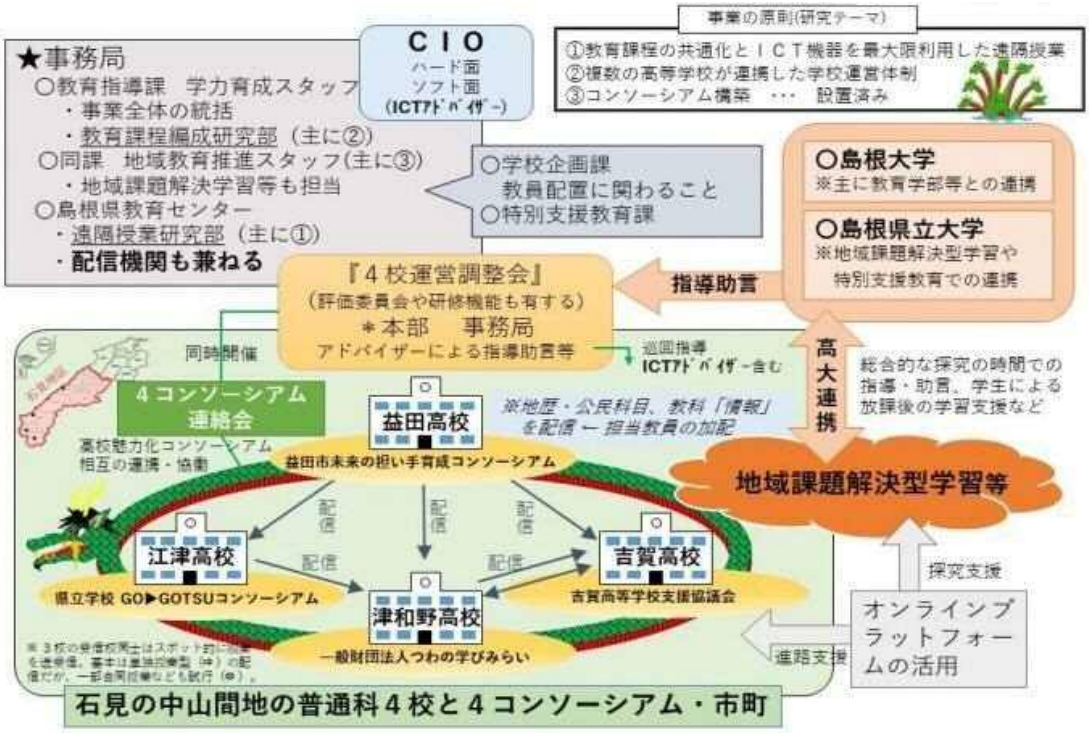
（３）市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

本県ではすでに各校が地域とコンソーシアムを形成し、ビジョンを共有しながら教育課程内外で学びの充実を図っている。一方で、各校のコンソーシアムが行っている連携の内容や成果等については、広く情報が共有されていない。本事業を機に他のコンソーシアムの取組を知り、好事例を共有することで、各コンソーシアムの連携がさらに進むと考える。

そこで、４校のコンソーシアムの協働体制や取組状況等を共有する会議を開き、各コンソーシアムの今後の取組に活かすほか、将来的には複数校での「総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）」の共同授業を実施する。

また、県教委で構築を構想している「オンライン探究支援システム」（仮称：旧「オンラインプラットフォーム」）の人材マッチング機能を４校で先行的に活用し、地域課題解決学習でのテーマ設定や学習方法等での指導助言に大学の教官や学生の知見を借りる。事業推進にあたっては地域課題解決型学習の分野に長けている島根大学教育学部の中村怜詞准教授や、地域政策学部のある島根県立大学高大連携室長の赤坂一念教授と連携を図る。

なお、令和３年度から４年間の「しまねの学力育成推進プラン」では、取組の３本柱の一つである「地域に関わる学習の充実」に小中高で取り組むこととしている。



４．調査研究の実績

（１）実施日程

月	実施内容
令和３年４月	●事業採択 ●各行への事業説明・ヒアリング
５月	●各校との事業調整 ●各校コンソーシアム役員会 ●各校で地域課題解決型学習を実施
６月	●文部科学省との委託契約締結 ●ＣＩＯ協議(遠隔授業環境・ 機器) ●各校コンソーシアム総会 ●高校魅力化アンケート ●CORE ハイスクール事業担当者会議
７月	●プレヒアリング ●遠隔配信視察（高知県教育センター） ●各校で地域課題解決型学習を実施 ●ＣＩＯ協議(配信試行を踏まえた環境検討) ●各校で地域課題解決型学習を実施 ●遠隔授業配信（試行）（島根県教育センター内）

８月	●試行用機器調達（津和野） →PC，ｿﾌﾄｳｪｱ，ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ，ﾏｲｸｽﾋﾟｰｶｰ他 ●試行用機器納品（津和野高校、益田高校） ●第１回４校運営調整会 ・事業全体説明 ・オンラインによる授業手法の共有（島根県教育センター） ・先進校視察報告（各校担当者、事務局） ・オンライン探究支援システム構想（地域課題解決型学習） ●各校で地域課題解決型学習を実施 ●遠隔授業システム機器配置（各校へ）
９月	●「英語」配信（試行）→教育センターから津和野高校へ ●各校で地域課題解決型学習を実施
１０月	●コンソーシアム役員会 ●グランドデザインＰＤＣＡ研修 ●各校で地域課題解決型学習
１１月	●「倫理」配信（試行）→益田高校から津和野高校へ ※公開授業兼ねる（訪問調査あり） ●益田高校カタリ場（益田高校コンソーシアム事業） ※公開授業兼ねる（訪問調査あり） ●COREハイスクール訪問調査（益田高校：上記の通り） ●しまね大交流会（探究学習中間発表含む） ●津和野高校オンライン探究支援システム（試行） ●各校で地域課題解決型学習
１２月	●COREハイスクールヒアリング調査 ●COREハイスクールアンケート調査 ●長崎県遠隔サミット　参加 ●第２回４校運営調整会 ・ヒアリング報告、長崎県遠隔サミット報告 ・配信試行に関する報告ならびに協議内容の共有 ・配受信設備の追加配備の検討 ・オンライン探究支援システムについて ●COREハイスクール実証地域シンポジウム　※島根県登壇 ●学校評価アンケート ●各校で地域課題解決型学習 ●遠隔授業説明 ●遠隔授業配信簡易試行（益田から江津へ）

令和４年度１月	●ＣＩＯ協議 ●各校選択科目希望調査 ●配信校・ 受信校の教材等調整 ●「情報Ⅰ」配信（試行）（教育センターから津和野高校へ） ●各校で地域課題解決型学習
２月	●「地理 B」配信（試行）（教育センターから吉賀高校へ） ●「数学 A」配信（試行）（益田高校から江津高校へ） ●しまね探究フェスタ（探究学習成果発表含む） ●高知版 CORE 遠隔教育ネットワーク構想研究発表会　参加 ●コンソーシアム役員会（各校） ●各校で地域課題解決型学習
３月	●「理科基礎」配信（試行）（益田高校から江津高校へ） ●「情報Ⅰ」配信（試行）（教育センターから津和野高校へ） ●遠隔授業配信簡易試行（益田から各校へ） ●オンライン探究支援システム 試行に向けた説明とヒアリング実施（各校） ●CORE ハイスクール事業成果報告会 ●第４回４校運営調整会 ・事業成果報告会報告 ・本年度の取り組みについての総括 ・次年度の計画 ・遠隔担当教員の研修について ・各校の指導体制について ・時間割の調整 ●遠隔授業担当教員研修（予定） ●遠隔授業システム機器追加配置（各校へ）

※学校における調査研究の実績のほか、コンソーシアムの活動等についても記入すること。
※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを付すこと。

（２）調査研究実績の説明

①「教科・科目充実型」の遠隔授業などＩＣＴも活用した連携・協働の取組
（受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。）

①-1　試行配信について

事務局が主となって行った試行配信については、【表１】のとおり６回実施した。この実施においては、高知県教育センターに視察を行い、遠隔授業についての具体的な取組を参観し、それを受けて、島根県教育センター内で試験的に配信を行った。

本県としてはGoogle Meetの会議システムを活用すること、また、7月のプレヒアリングの際に1人1台環境での遠隔授業配信について依頼されたため、9月ならびに11月の試行配信については、本県で唯一1人1台環境での教育活動が行われている津和野高校において、試行配信を行った。また、生徒が入らない形で、適宜各校間で簡易的に配信練習を行った。

なお、試行配信については、配信校である益田高校の武藤主幹教諭だけでなく、教育センターの高田企画幹、大屋指導主事、事業評価委員である公立鳥取環境大学の千代西尾教授、島根大学の中村准教授、そして、事務局の事業担当である柳樂指導主事などが授業を行い、実際に遠隔授業を行うことについての理解を直接的に深めるだけでなく、遠隔授業の研修としての意味づけを持たせることとした。

また、各校のコンソーシアムにおいて実施している地域課題解決型学習の成果発表の場として、「しまね大交流会」「しまね探究フェスタ」をオンラインで実施した。加えて津和野高校において、オンライン探究支援システムの試行的な取組を実施した。

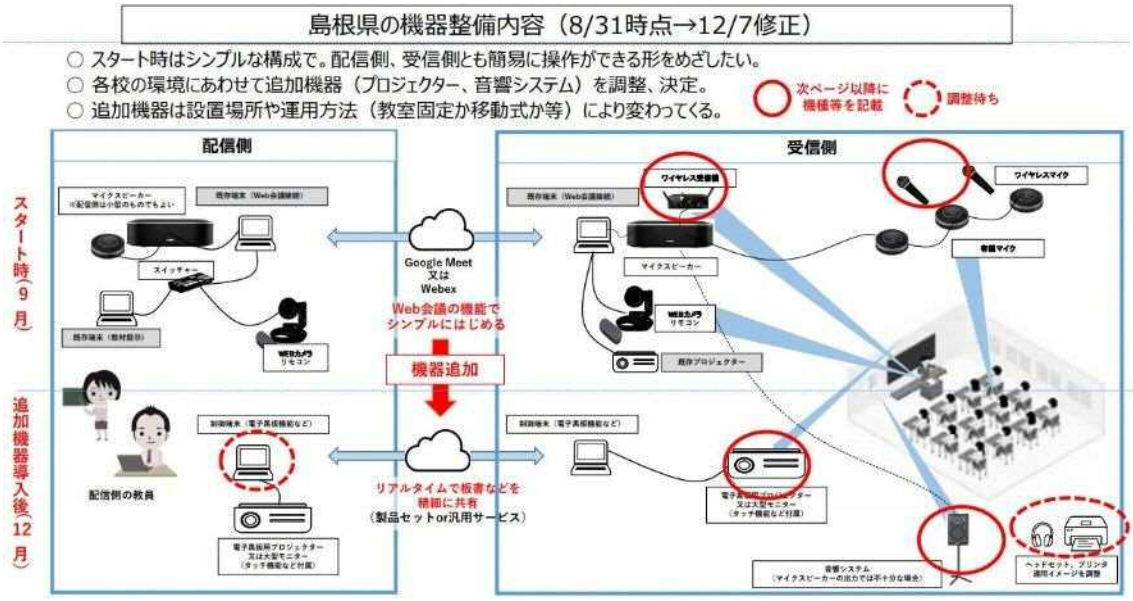
【表1】事務局が主となって実施した試行配信

年月	教科	配信校	受信校	授業者
	試行配信の主な目的			
R3.9	英語Ⅰ	教育センター	津和野高校	高田企画幹
	遠隔授業の理解、遠隔機器の確認			
R3.11	倫理	益田高校	津和野高校	武藤主幹教諭
	黒板やスライドを用いた授業			
R4.1	社会と情報	教育センター	津和野高校	大屋指導主事
	実習における遠隔授業、受信校の通信環境等確認			
R4.2	地理B	教育センター	吉賀高校	中村准教授
	Webアプリを活用した授業、受信校の通信環境等確認			
R4.2	数学A	益田高校	江津高校	柳樂指導主事
	Webアプリを活用した授業、配信校の通信環境等確認			
R4.3	理科基礎	益田高校	江津高校	千代西尾教授
	協調学習における遠隔学習、受信校の通信環境等確認			

①-2　遠隔授業に係る機材について

2回の試行配信を行う中で、『遠隔教育システム活用ガイドブック第3版』を参考にした機器整備を行うこと、また3回目以降のwebアプリを活用した授業実践によって生徒からの反応も比較的良かったことなどから、次のような機器整備を計画した。ただし、人事異動が不透明であること、担当する教員がwebアプリについて不慣れである可能性があることなどから、ホワイトボード等を用いた授業形態につい

ても含みを残すように、機器整備を検討している。



使用する機器の検討・整備状況（■は使用。◆は使用しない場合あり。×は使用予定がない）

区分	遠隔教育ガイドラインの例示機材	想定機器等（現時点のもの）	備考、製品画像等
遠隔教育システム	× ビデオ会議システム ■ Web会議システム	・Cisco Webex 又は Google Meetを想定	・解像度に制約あり（ex Google Meet 720pまで） ・精細な教材の提示は別の方法で行う必要あり
カメラ	× 専用カメラ　■ Webカメラ ◆ ビデオカメラ　◆実物投影機 ■ 映像スイッチャー	・Webカメラ ﾛｼﾞｸｰﾙ PTZ Pro（可動・リモコン付） ・映像ｽｲｯﾁｬｰ Blackmagic ATEM mini pro ※映像スイッチャー経由で既存のビデオカメラや実物投影機（HDMI出力できるもの）を使用できる	
マイク	■ ヘッドセット ■ 指向性マイク ■ 無指向性マイク	・ヘッドセットは1人1台端末との併用を想定 ・指向性マイク（ワイヤレス）XD-V35~~WMS40 PRO MINI~~*2 ・無指向性マイク（有線）YVC-MIC1000EX*2 （いずれもﾏｲｸｽﾋﾟｰｶｰｼｽﾃﾑYVC-1000に接続）	
スピーカー	× ディスプレイ内蔵スピーカー ■ 個別スピーカー × 多分岐アダプタ	・ﾏｲｸｽﾋﾟｰｶｰｼｽﾃﾑ YAMAHA YVC-1000 ※概ね40人までの会議用 ・音量やや不足。PA（音響）システム）との併用が必要。 ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙPAｼｽﾃﾑ STAGEPAS 400BT	
	■ 大型ディスプレイ ■ プロジェクタ	・ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀ（EPSON EB725WI）を想定。 タッチ機能があるもの。 ・大型ディスプレイを別途調達予定（予算確認中） あり（その場合は、共通のサービスが使えるもの）	
生徒用情報端末	■ 資料共有用端末 ■ 学習者接続用端末	・資料共有用端末はWindowsPC想定 （ただしWeb会議システムの接続はChromebookで可能） ・学習者接続用端末はChromebookを想定	
ソフトウェア	■ 協働学習用ツール ■ 電子模造紙	・Google Workspaceサービス及び協働学習用ツール ・プロジェクタ付属のサービスや、Google Jamboardなど	・スクールタクトなどの使用を検討 ・電子黒板ツールは比較検討が必要
無線LAN AP	■ 固定AP　/　□ 可搬（ﾓﾊﾞｲﾙWiFi）	・既存APを使用（フレッツ光回線に接続）	・一部、校内無線アクセスポイント整備待ち

②学校間連携を行うための運営体制に関する取組

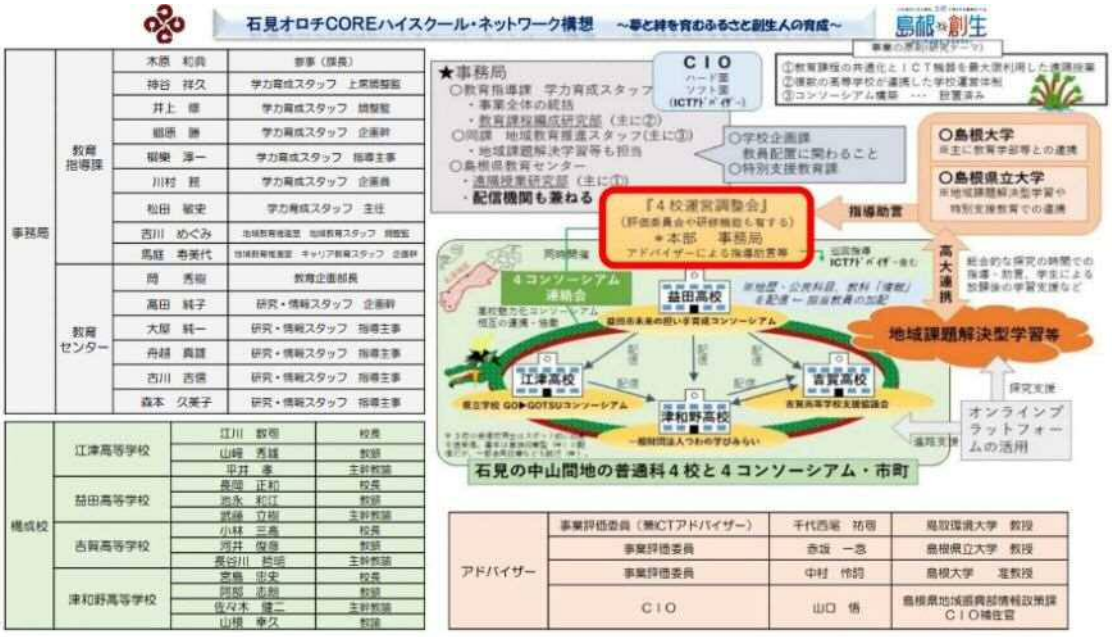
②-1 CORE ハイスクールの組織体制の構成員について

４校運営調整会を中心とした組織については既述のとおりであるが、今年度の主な構成メンバーは次図のとおりである。

島根県の県立高校における主幹教諭の役割のひとつに、各校のグランドデザインの実現に向けた教育活動の推進があり、学校のマネジメント機能の強化、ならびに他の教員への指導助言による学校全体の教育活性化などが期待されている。そのため、本事業においては、構成校の主担当はすべて主幹教諭がとりまとめているのも、本県

の特徴である。細かい調整などが必要な場合は、主幹教諭会を適宜開催することで各校間の連携に努めた。

なお、次年度より「オンライン探究支援システム」の本格実施に向けた試行が始まるため、４コンソーシアム連絡会の構成員についてもまとめる予定である。



事務局	教育指導課	木原 和典	参事（課長）
		神谷 祥久	学力育成スタッフ 上席指導監
		井上 修	学力育成スタッフ 指導監
		細原 勝	学力育成スタッフ 企画幹
		福榮 淳一	学力育成スタッフ 指導主事
		川村 誠	学力育成スタッフ 企画員
		松田 敏史	学力育成スタッフ 主任
		吉川 めぐみ	地域教育推進室 地域教育スタッフ 指導監
		馬庭 考美代	地域教育推進室 キャリア教育スタッフ 企画幹
	教育センター	岡 秀樹	教育企画部長
		高田 純子	研究・情報スタッフ 企画幹
		大原 純一	研究・情報スタッフ 指導主事
		舟越 真雄	研究・情報スタッフ 指導主事
		吉川 吉信	研究・情報スタッフ 指導主事
		森本 久美子	研究・情報スタッフ 指導主事

構成校	江津高等学校	江川 敦宏	校長
		山崎 秀雄	教頭
		平井 準	主幹教諭
	益田高等学校	長岡 正和	校長
		池永 和江	教頭
		武崎 立樹	主幹教諭
	吉賀高等学校	小林 三義	校長
		河井 俊彦	教頭
		長谷川 裕明	主幹教諭
	津和野高等学校	宮島 由史	校長
		岡部 志朗	教頭
		佐々木 健二	主幹教諭
		山根 幸久	教諭

アドバイザー	事業評価委員（兼ICTアドバイザー）	千代西尾 祐司	鳥取環境大学 教授
	事業評価委員	赤坂 一念	島根県立大学 教授
	事業評価委員	中村 怜詞	島根大学 准教授
	CIO	山口 悟	島根県地域振興部情報政策課 CIO補佐官

②-2 事業評価委員による遠隔授業について

事業評価委員である公立鳥取環境大学の千代西尾祐司先生が ICT アドバイザーを兼務いただいていることを受け、既述の通り事業評価委員の先生自ら遠隔授業の試行を行っていただいたことも本県の大きな特徴である。事務局から配信校に端末を貸与して 1 人 1 台端末環境を整えた上で、千代西尾先生からは理科基礎について、また島根大学の中村怜詞先生からは地理 B について、知識構成型ジグソー法を用いた協調学習や、Jamboard やスプレットシート等の web アプリを活用した授業実践を行っていただいた。配信をする上でのイメージを掴むだけでなく、受信校の支援の在り方の重要性を確認するなど、有益な機会となった。なお、事業評価委員による遠隔授業については研修の一環を兼ねている。

また、今年度末の人事異動によって配信を担当することになる教員については、事業評価委員による配信研修も予定している。

③市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

③-1　学校外の教育資源を活用した探究的な学び

各校とも「総合的な探究の時間」を中心に、市町村、高等教育機関、産業界等と協働しながら、主体的･対話で深い学びの実現を目指し取り組んだ。各校の主な協働活

動は以下のとおり。

＜益田高校＞

・益田版カタリバ･･･高校生が地域の若手人材との対話を通して、自分の将来や地域の魅力などについて考える進路探究学習

＜津和野高校＞

・ブリコラージュゼミ（１年生)、マイプロジェクト活動（２年生）を支援

・トークフォークダンスの企画と参加

・探究学習等に関わる人材のマッチングサイト開設

＜江津高校＞

・県立大学･･･バーチャル国際交流会（通年）参加、ラオス絵本プロジェクト

・江津市都野津町･･･街プロジェクト、古民家プロジェクト、小学生学習支援

＜吉賀高校＞

・アントレプレナーシップ教育における都市部大学生の伴走

・目線合わせ講演会(教員、地域伴走者対象）を実施

③-2　発表の場づくり

各校で探究学習の中間発表や成果発表を実施しているが、県でも「しまね大交流会～はまる！高校生の探究沼～」や「しまね探究フェスタ」など、生徒の発表や学びの場を提供している。「しまね探究フェスタ」では、すべての県立高校が発表を行うことで、全県での学び合いの機会となった。ファシリテーターやサポーター、サブファシリテーターとして外部人材に参加してもらうことで、生徒は発表に対するフィードバックを受け、探究の質を高めるためのヒントを得ることができた。

＊生徒　62 発表　179 名参加

ファシリテーター、サポーター、サブファシリテーターとして 48 名が参加（うち、大学関係者５名、大学生 12 名）

③-3　「オンライン探究支援システム」の試行（11 月 10 日：津和野高校）

２年生を対象に、大学生との対話（１対１）を通じた進路学習を実施した。当日は生徒 29 名、大学生 29 名が参加。授業実施までの課題や一人１台パソコンを使って個別最適な学びに対応できるかどうか、教室内の環境等を含めた課題の洗い出しを行った。

生徒にとって学びの多い有意義なプログラムではあるが、大学生を集めること（人数、理系･文系のバランス等）や事前研修、高校との打合せ等、事務局側の負担は大きいと感じた。これをオンラインシステム上だけで行うことが可能かどうか、どうすれば負担の少ないシステムを構築できるか、さらに検証を進めたい。

また、１教室に７～８名の生徒が離れて座ったが、実際に話をする時には周囲の

声を邪魔に感じる生徒もいた。教室の確保は課題となりそうである。

５．遠隔授業の実施状況

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数（対面授業を除く）
津和野高校	英語	英語Ⅰ	1
津和野高校	公民	倫理	1
津和野高校	情報	情報Ⅰ	1
吉賀高校	地理歴史	地理Ｂ	1
江津高校	数学	数学Ａ	1
江津高校	理科	理科基礎	1

６．調査研究の進捗状況、成果、評価（※目標設定シート（別紙様式１　別添 4）を添付）

今年度は遠隔配信に関わる試行が中心であったため、目標設定シートの数値的な成果が十分に表れたとは言い難い。その上で、以下の点について付言する。

①事業成果に対する効果的な評価指標に向けて

まず、１－（１）において、総合学力テストにおける国数英の受信校３校平均偏差値の上昇率についての成果指標としていた。しかし、その数値目標が配信科目（情報、地理、倫理）の学力の向上と相関があるとは必ずしも言えないこと、測る上では配信科目の指標が必要であること、さらに就職志望の生徒が必ずしも地理や倫理の総合学力テストを受験するとは限らないこと、情報の総合学力テストがあるとすれば、早くても２年生の２月以降の可能性が高いこと等、現状において現指標で評価することは不十分である。そこで、該当科目に係る目標設定となるよう見直しをしており、現在のところ、遠隔授業に対する授業アンケート（各学期）から各観点別評価の項目に係る質問（4点満点、4～1）に対し、肯定的な回答をした生徒の割合（配信科目受講生徒平均）とすることで、具体的な指標として成果目標とすることが望ましいと考えている。そのため、１－（４）②の遠隔授業に対する生徒の満足度の変容についても、同様の数値目標にそろえる予定である。

また、１－（４）①において、「将来自分のいまの住んでいる地域で働きたいと思う」に肯定的な回答をした生徒の割合について成果指標としていた。しかし、本事業を通して育成を目指す資質・能力として「広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成」を掲げていることに加え、中山間地域小規模校は県外生（しまね留学）も多く入学しているため、現指標では不十分である。そのため、成果目標については項目を変更・追加し、「将来自分の住んでいる地域のために役立ちたいという気持ちがある」「地域社会の

魅力や課題について自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ考える学習に対して、熱心に取り組んでいる」の２点とすることで、地域愛の醸成と主体性について分析し、コンソーシアムの取組について考察することが望ましいと考えている。

②地域課題の解決に向けた積極的な探究的な学びに向けて

島根県は、シンポジウム等さまざまな機会を通して、コンソーシアムと協働した地域課題の解決に係る探究的な学びが充実していることが分かった。各構成校においてもすでに多くの実践を行っているため、現在行っている学びを推進していくためのコンソーシアム連携に努めていくことを第一とすることにしている。そのため、現在開設されている学校設定科目等については、科目数の維持と内容の向上に努めていきたい。

③公開授業について

今年度については、訪問指導と併せて実施した。内田洋行教育研究所の方のご助言もいただく機会にも恵まれ、遠隔授業の方向性や、島根県の地域との協働体制を実感いただく有意義な機会をいただけたことには感謝したい。

７．次年度以降の課題及び改善点

（１）遠隔授業に係る専用教室

遠隔配信および受信に係る教室については専用の教室を整備することになった。配信校の益田高校は、ホームルーム教室や特別教室から離れた棟での空き教室で調整をすることができたが、受信校については、小規模校であるが故に、必ずしもそのような教室を用意することが叶わなかった。例えば、吉賀高校は要望していた教室は構造上の問題、江津高校においては要望していた教室が据え付けの備品撤去および修繕に係る諸経費等の問題により変更となった。いずれの専用教室も教室や職員室と隣接しており、音響については課題が残っている。津和野高校においては、当初受信だけを想定していた教室に急遽配信も行うことになったことでレイアウトの変更が生じており、いずれもベストな環境での配信には至っていない。授業を行ってく中で修正を図っていきたい。

（２）授業における生徒の見取り、およびそれに係る通信環境

生徒の見取りについては、Web アプリの活用だけで把握できるものではなく、受信校の教員の支援も必要である。受信校にいたっては小規模であることから、専用の教員を充てるのではなく全教員で分担して支援する体制を検討する学校もある。現在大型提示装置を用いての配信を計画しているが、生徒の見取りの状況によっては生徒一人ひとりが配付されているアカウントを基に Google Meet などの Web 会議システムに接

続することも考えられる。ただし、生徒全員がWeb会議システムに入室した試行配信は行えていないため、実施した場合に支障が生じる場合は通信環境について早急に改善を図っていきたい。

なお、年初については配信校教員と受信校生徒の人間関係を図るため、対面での授業を予定している。

（３）４コンソーシアム間の連携推進体制

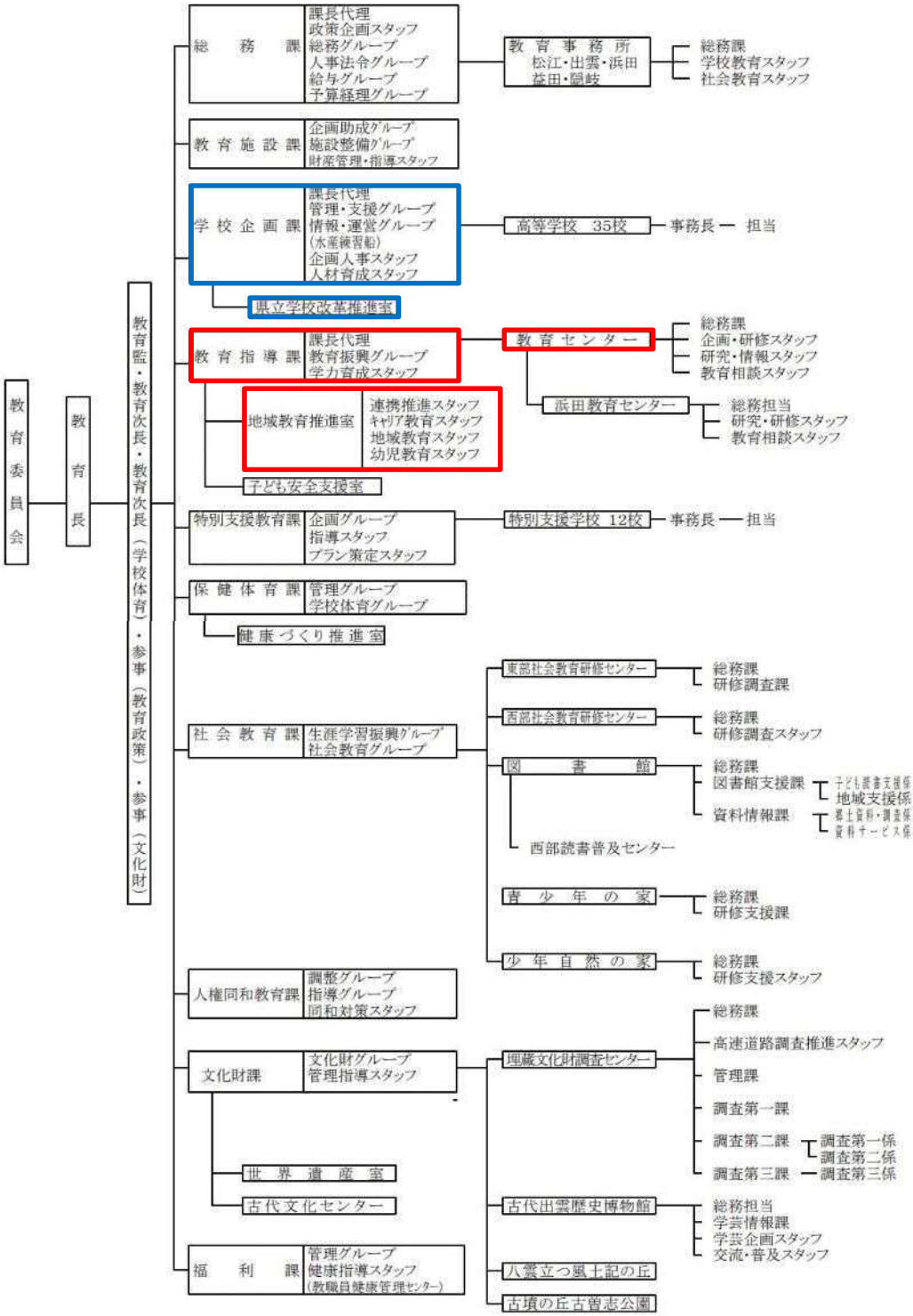
本県における構成校はコンソーシアムが構築済であり、吉賀高校や津和野高校は町内唯一の高校として、それぞれ単独で自治体や関係地域団体と組織化されている。一方で、益田高校は市内の県立高校や私立高校、江津高校は市内の県立高校や特別支援学校と一体化した組織化を図っているのが特徴的である。そのため、益田高校や江津高校がそれぞれのコンソーシアムの枠において単独で他の構成校との連携を円滑に図ることができるかが課題である。

（４）人事および学校再編関係部署との連携

今年度の事業調整で最も難しかったことが、教員の人事配置等に関わることである。本事業の事務局は教育指導課学力育成スタッフであるが、コンソーシアム関係については教育指導課地域教育推進室、遠隔授業研究については教育指導課に位置づけられる島根県教育センターと共同で行っている。しかし、人事配置や学校再編（学校改革）に係る業務は学校企画課という別部局である。このことによって各校間での十分な事業調整が行なえず、結果的に事業変更をせざるを得なくなったことは否めない。他県の遠隔授業配信の発表を聞く上で、有益な事業実践を行っている県の共通することとして、本県における教育指導課ならびに学校企画課に相当する部局が一体となって推進していることが挙げられる。本県の事業においては、次年度からは中心組織である４校運営調整会の構成委員に学校企画課の関連部署に本事業担当を依頼するなど、県として持続可能な遠隔教育の在り方について議論を深め、より密の濃い事業成果を挙げていきたいと考えている。

島根県教育委員会行政機構図

（平成31年4月現在）



別紙様式１　別添４

ＣＯＲＥハイスクール・ネットワーク構想事業　目標設定シート

管理機関	島根県教育委員会

１．本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

（１）総合学力テストにより把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		102．0%	103.0%	104.0%
実績値	なし	なし		
把握のための測定方法及び指標	総合学力テストにおける国数英の受信校３校平均偏差値の上昇率。100.0%を「伸びに変化なし」とする。			

（２）地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		16	18	20
実績値	16	16		

（参考）上記のうち、学校設定科目の数

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		11	13	15
実績値	11	11		

（３）免許外教科担任制度の活用件数

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		5	2	1
実績値	5	5		
構成校	4			

（４）その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：取組を通じて育成を目指す資質・能力に関する生徒の意識変容

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		48.5%	50.0%	55%
実績値	43.5%	41.5%		
目標設定の考え方	高校魅力化アンケートの質問項目「将来、自分のいまの住んでいる地域で働きたいと思う」に肯定的な回答をした生徒の割合（4校平均値）			

成果目標②：遠隔授業に対する生徒の満足度の変容

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
目標値		70%	75%	80%
実績値	なし	なし		
目標設定の考え方	遠隔授業に対する満足度アンケートから、肯定的な回答をした生徒の割合。			

２．ＣＯＲＥハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

（１）ＣＯＲＥネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	２年度	３年度	４年度	５年度
実績	0	試行のみ		
見込み		0	6	8

（２）地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
実績	4	4		
見込み		4	4	4

（３）その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：遠隔授業の公開授業時数

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
実績	0	2		
見込み		2	4	8
活動指標の考え方	校外に対する遠隔授業の公開授業の時数			

活動指標②：成果発表の場の回数

	２年度（実績）	３年度	４年度	５年度
実績	0	0		
見込み		1	2	4
活動指標の考え方	構成校以外の学校等を対象とする成果発表の場の回数			

※このページの構成を変えないこと。

１　関係機関事業担当者会議ならびに訪問調査

本年度は、採択された関係機関に係る事業担当者会議については、以下の３回実施された。

第１回：令和３年６月２５日　（事業計画の概要説明）

第２回：令和３年１２月２０日（実証地域シンポジウム）←事例発表

第３回：令和４年３月１１日　（事業成果報告）

なお、第２回の実証地域シンポジウムの事例発表に際しては、11 月 18 日に株式会社内田洋行教育総合研究所が構成校である益田高等学校を訪問調査され、本県の地域協働体制について意見交換等を行った。訪問調査時の取り組み（『益田版カタリ場』）は以下の通りである。

＜益田版カタリ場＞

１　目的：　同世代間から他世代間による本音の対話の場を設け、普段あまり考えたり、言葉にしたりすることがない自分自身のことについて先輩と語り合い、自身の人生観（ライフキャリア）を育む

２　日時　令和３年 11 月 15 日(月)、18 日（木)、19 日（金）　５～７限相当

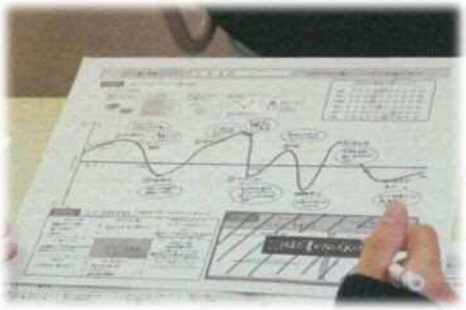
３　場所　いわみの記念館

４　対象　益田高等学校１年生全員を３展開で実施

５　内容

＜事前準備＞

・各教室で説明を受け、生徒が自身の「人生チャート」を作成



人生チャート

＜カタリ場実施＞

参加した大人の数 55 人

・導入

・アイスブレイク

＊先輩１ 対 生徒２～３のグループで、すごろくを使いながら自己紹介

・先輩の人生を聞く（準備してきた「人生チャート」を使って説明）

・生徒自身の人生を振り返る（事前に作成した「人生チャート」を使って説明）

・生徒１ 対 先輩１の対話

＊対話の順番でない生徒は、人生紙芝居（先輩３人のうち２人を選んで）を聞く

・まとめ

すごろくを使ったアイスブレイク

人生紙芝居を聞く生徒

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

取組事業の特色

いわみ

いろんな教科を
わかちあう環境で
みんなで探究！

2021年6月25日

島根県教育委員会

1. 事業の背景と課題

- ①人口が県東部に偏在し、西部（石見地区）は減少
- ②学校内資源の活用や視点の硬直化
- ③西部にある高校は全て中小規模校
- ④西部出身の教員が少なく、安定しにくい学校経営
- ⑤高校魅力化コンソーシアム同士の連携

2―1. 事業の目的

島根県立益田高等学校

島根県立津和野高等学校

広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す

島根県立江津高等学校

島根県立吉賀高等学校

2―2. 設定理由（1）

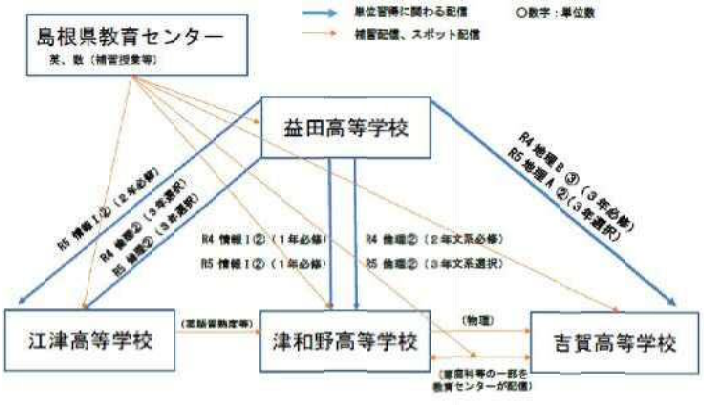
島根県教育センター

- 教育課程の共通化
- ICT機器を最大限利用した遠隔授業

2―2. 設定理由（2）

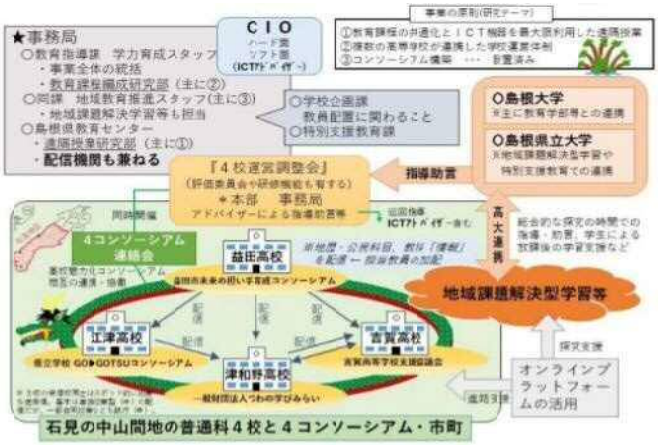
- 複数の高等学校が連携した学校運営体制
- 各校コンソーシアムの構築と連携

3. 事業の概要と計画（1）



3. 事業の概要と計画（2）

4. 事業の組織構成と役割分担



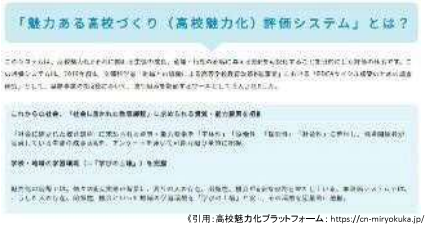
5. 事業を実施する上で考えられる障害要素・遅延要素

- 人事異動
- 時間割
- 通信・機材
- 研修
- 事業調整

6. 事業の検証と評価の方法、体制、考え方

●免許外教科担任制度の活用件数
令和2年度5人 → 令和5年度1人

●高校魅力化アンケート
「将来、自分のいまの住んでいる地域で働きたいと思う」
令和2年度43.5% → 令和5年度50.0% （4校平均）



（引用：高校魅力化プラットフォーム：https://cn-miryokuka.jp/ ）

●遠隔授業に対する満足度アンケート
令和2年度なし → 令和5年度80.0% （受信校平均）

7. 将来展望

広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す

- 遠隔教育推進教員（指導主事）の育成
- ICTに関するセンター的機能の充実
- 「オンライン探究支援システム」の構築

「しまね教育魅力化ビジョン」
～ ふるさと島根を学びの原点に未来にはばたく 心豊かな人づくり ～

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

取組事業の特色

いわみ　いろんな教科を わかちあう環境で みんなで探究！

2021年6月25日

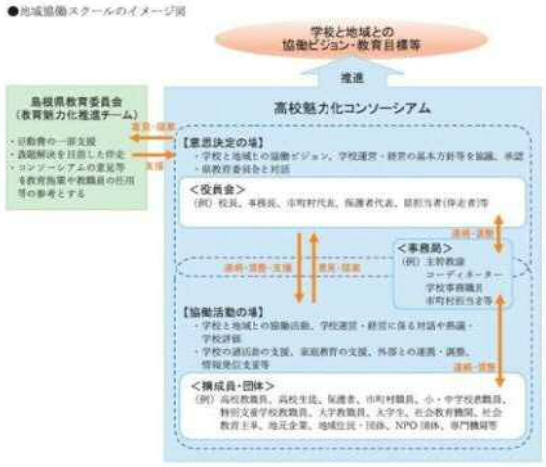
島根県教育委員会

島根県における「高校魅力化コンソーシアム」

島根県教育委員会教育指導課
地域教育推進室
調整監　吉川めぐみ

1

はじめに



2

34校/36（分校1含）で構築済

○１校１コンソーシアム（24校+残り２校）

○複数校１コンソーシアム（10校）

- 大東、三刀屋、掛合分校
- 江津、江津工業、江津清和養護
- 浜田、浜田商業、浜田水産、浜田養護、浜田ろう
- 益田、益田翔陽、明誠、益田東（私立）、益田養護

3

■ コンソーシアム会議の年間スケジュール（例）

協働活動に対する中間評価・
次の打ち手の協議
（魅力化アンケート結果）

翌年度の学校運営に関する基本方針
（グランドデザイン案）の確認

今年度の取組に対する評価・振り返り
→取組の改善、次年度計画への反映

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

共有された目的・目標に向けた取組

ワーキンググループ　部会

学校運営に関する基本方針
（グランドデザイン）の確認

今年度の学校と地域との協働に
関わる取組や、コンソーシアムの
活動に関する協議

例:「山中鹿之助カレーで人物や歴史を紹介したい。食材に鹿肉を使うことについて見解を聞きたい。また人物に詳しい人を紹介してほしい。」（学校）
「夏季休業を利用した長期インターシップの受け入れをお願いしたい。」（学校）
「地域を担うIT人材の育成に向けたカリキュラムを一緒に作っていきたい。」（市町村）
「小中学校のふるさと学習と連携した地域課題解決型学習を実施したい。」（市町村教委）　etc.

4

■ 学校と地域との協働活動

地域の若手職員・企業人とのカタリ場

課題研究（大学での実験）

フィールドワーク

大学生とのキャリア探究

課題研究
（総合病院 リハビリスタッフと）

5

空き家プロジェクトのプレゼン

駅100周年　３校合同プロジェクト

駅前のプランター整備

ブランド米販売戦略
デザイナーとの打合せ

6

町営の住まい整備
（運営、ハウスマスターの配置等）

地域型部活動での活動

学校・地域連携型公営塾

「ふるさと納税」を活用したオンライン学習支援システムの構築

7

本日お話しする内容

（1）コンソーシアム構築までの流れ

（2）コンソーシアム推進のポイント

（3）コンソーシアムの成果と
今後に向けて

8

本日お話しする内容

（1）コンソーシアム構築までの流れ

（2）コンソーシアム推進のポイント

（3）コンソーシアムの成果と
今後に向けて

9

「県立高校魅力化ビジョン」

県立高校魅力化ビジョンの策定
（平成31年２月）

「地域社会との協働による
魅力ある高校づくり」

2020年代の教育の基本的な方向性と直近５年間（2019-2023）の具体的な取組を示したもの

10

県立高校魅力化ビジョンより

＜具体的な取組＞
○全ての高校において、地域と協働しながら「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、特色ある教育課程及び「求める生徒像」等の明確化を図る。
○教職員、生徒・保護者、市町村、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、関係団体等の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（以下「高校魅力化コンソーシアム」という。）を、全ての高校において構築する。

項　目	2018 H30	2019 H31	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)
高校魅力化コンソーシアムの構築	高校魅力化推進協議会等	構築・展開			全ての高校で構築	推進

※高校における新学習指導要領が実施される2022年までに、全ての高校において構築

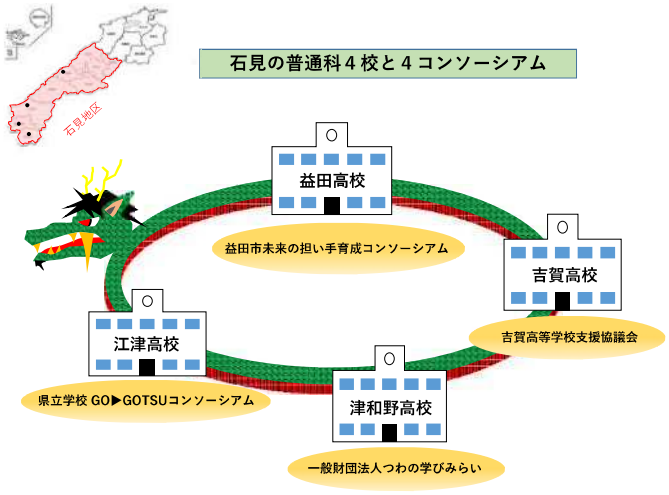
11

■ コンソーシアムの前身

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
事業スパン	第１ステージ			第２ステージ			第３ステージ			第４ステージ		
取組名	「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業」						「教育魅力化推進事業」			「教育魅力化推進事業」		
支援対象地域	離島・中山間地域（町村）						離島・中山間地域 市部（松江、出雲を除く）			全県（すべての市町村）		
支援高校数	５校		８校				16校（分校１含む）			36校（すべての県立高校）		
	（横田、飯南、島根中央、矢上、津和野、吉賀、島前、隠岐）											
設置状況	対象の地域・高校において、コンソーシアムの前身となる「高校魅力化推進協議会」（高校と市町村との「協働運営」を志向した協議の場）を設置									R3年度末までにすべての県立高校でコンソーシアムを構築		学校運営協議会導入
	＜平成30年5月時点　13協議会（16市町村21校）で設置＞											
	–								高校魅力化コンソーシアム構築支援事業 ・都市型、一市町村一校、一市町村複数校、複数町村一校、専門高校モデル ・研修の開催	学校運営協議会制度導入に向けた説明会等の実施		コンソーシアム、学校運営協議会研修

⇨ 主幹教諭の配置（H30年度～）

12



13

コンソーシアム構成団体

益田高校	江津高校	津和野高校	吉賀高校
益田市	江津市教育委員会	津和野町	島根県議会議員
益田市教育委員会	江津高等学校	津和野町教育委員会	吉賀町役場
益田商工会議所 （松永牧場　シマネ益田電子）	江津工業高等学校	津和野町教育魅力化推進協議会	吉賀町議会
益田市公民館	江津清和養護学校	津和野町営英語塾HAN-KOH	吉賀高等学校振興会
益田青年会議所	島根県立大学	津和野高後援会	吉賀高等学校同総会
益田市幼稚園協議会	ポリテクカレッジ島根	津和野高校同窓会	吉賀長教育委員会
益田市保育研究会	江津市校長会	津和野高校	吉賀高等学校PTA
益田市小学校長会	江津市保育研究会		吉賀町小中校長会
益田市中学校長会	江津市PTA連合会		七日市公民館
益田市PTA連合会	江津高校卒業生会		吉賀町商工会
益田高校	江津工業高校卒業生会		吉賀高等学校学校評議会
益田翔陽高校	江津清和養護学校卒業生会		吉賀高等学校
明誠高校	江津市商工観光課		
益田東高校	江津市地域振興課		
益田養護学校	島根県西部県民センター		
島根県立大学	NPO法人てごねっと石見		
一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー			

コンソーシアムを構築することで、「何を目指したいのか」「どんな課題を解決したいのか」「どんな協働活動を行うのか」等を明確にし、そのために必要な構成団体やメンバーを各高校や地域の実情に応じて設定します。

14

本日お話しする内容

（１）コンソーシアム構築までの流れ

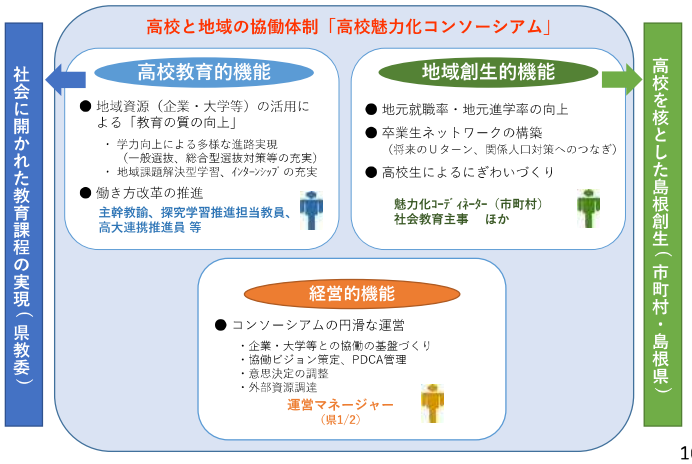
（２）コンソーシアム推進のポイント

（３）コンソーシアムの成果と
今後に向けて

15

■ 高校魅力化コンソーシアム　3つの機能

高校と地域の持続可能な好循環を生み出すためには、次の３つの機能を備える「高校魅力化コンソーシアム」の構築が必要



16

①　地域課題解決型学習の推進
（「総合的な探究の時間」の取組）

②　「教育魅力化人づくり推進事業交付金」

③　学校と地域をつなぐコーディネーターの配置

17

①　地域課題解決型学習の推進
（「総合的な探究の時間」の取組充実）

県立高校魅力化ビジョンより

全ての高校において、市町村、大学、社会教育機関、地元企業等と連携し、地域等を題材とした課題解決型学習（以下「地域課題解決型学習」という。）を行う。
- 地域課題解決型学習を高校の活動として明確化し、校内における実施体制を構築する。
- 地域課題解決型学習と教科教育をつなぐ効果的な指導方法や教材の研究を進める。

⇩

Ｒ２年度～

●探究学習推進担当者（各校１名）を設定
●探究学習推進担当指導主事の配置

18

②「教育魅力化人づくり推進事業交付金」

項目		対象経費	対象者	事業費上限（年額）	交付率
コンソ運営支援	運営費	コンソ運営経費	・コンソ ・市町村	600千円／コンソ	1/2
	運営マネージャー	コンソ運営マネージャー配置費、活動費		7,000千円／コンソ	
高校魅力化教育活動推進事業	地域連携教育活動推進費	学校と地域が協働して取り組む独自の教育活動等（地域課題解決型学習等）	・コンソ ・協議会 ・高校	・1,500千円／高校 ・分校、定時制、通信制 1,000千円／校 （コンソ又は協議会が構築されている場合は1高校あたり2,000千円を増額）	
	しまね留学	・県外生徒募集 ・県外生と県内生の交流		300千円／高校	10/10
	学校・地域創生推進費	地方創生（県内就職率、県内進学率、関係人口化等）に資する、先駆的な要素を含んだ特色ある教育活動等		申請に応じて所要額を交付	

19

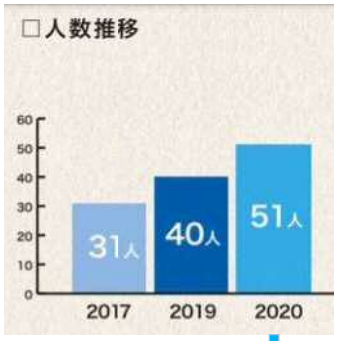
③ 学校と地域をつなぐコーディネーターの配置

（R2年度データ）

20

■ 島根県におけるコーディネート人材の配置

（R2年度データ）



21

■ コーディネート人材の育成

22

本日お話しする内容

（１）コンソーシアム構築までの流れ

（２）コンソーシアム推進のポイント

（３）コンソーシアムの成果と
今後に向けて

23

＜高校魅力化アンケート結果より＞　　対象：県立高校１～４年生

質　問　項　目	令和元年度	令和２年度	令和３年度
自分の将来について明るい希望を持っている。	69.8	71.3	72.8
地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる。	50.6	54.4	56.3
地域に、尊敬している・憧れている大人がいる。	53.9	54.6	56.1
将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい。	68.7	69.3	70.9
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う。	51.9	52.7	53.1

＊肯定的な回答をした生徒の割合（%）

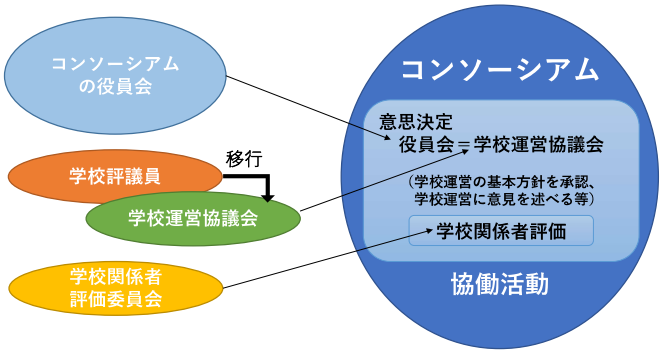
＊R元年度･･･10月実施　　R2年度･･･10月実施　　R3年度･･･6月実施

24

■ 今後の展開

学校運営協議会制度導入（R4.4～）

コンソーシアムと協議会を一体的に運用することで、
法的権限を持つ組織的・継続的な協働体制を確立



25

【参考】

★高校魅力化コンソーシアムに関すること

★高校魅力化コーディネーターに関すること

島根県トップページ ＞ 子育て・教育 ＞ 教育・学習 ＞ 高校魅力化

★「県立高校魅力化ビジョン」

島根県教育委員会トップ ページ ＞ 学校企画課 ＞ 県立高校の在り方

26

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

取組事業の特色

いわみ

いろんな教科を
わかちあう環境から
みんなで探究！

2022年3月11日

島根県教育委員会

1. 事業の背景と課題

- ①人口が県東部に偏在し、西部（石見地区）は減少
- ②学校内資源の活用や視点の硬直化
- ③西部にある高校は全て中小規模校
- ④西部出身の教員が少なく、異動サイクルが早い
- ⑤高校魅力化コンソーシアム同士の連携

2. 事業の目的

島根県立益田高等学校

島根県立津和野高等学校

広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す

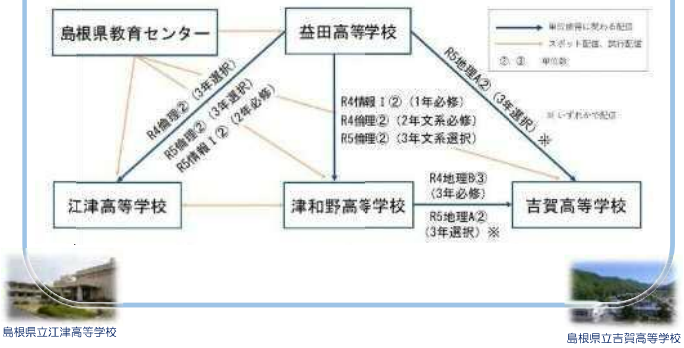
島根県立江津高等学校

島根県立吉賀高等学校

3. 遠隔授業（単位認定）

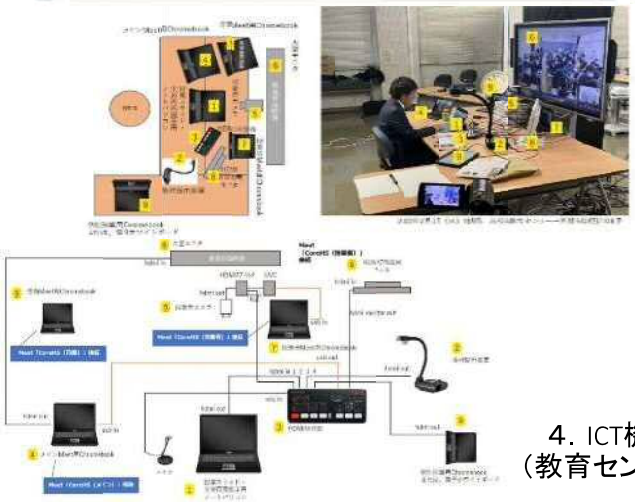
島根県立益田高等学校

島根県立津和野高等学校



島根県立江津高等学校

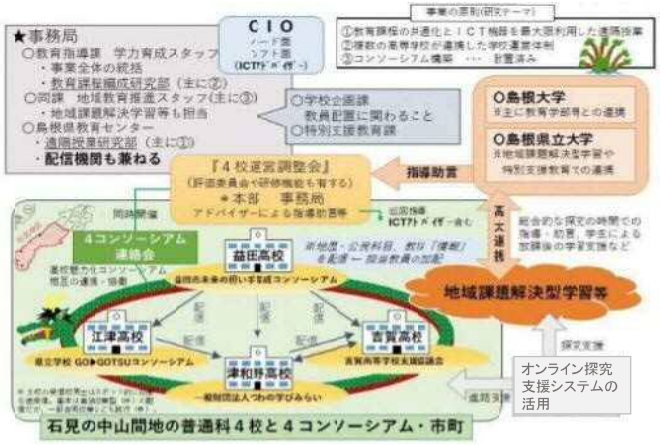
島根県立吉賀高等学校



4. ICT機器（教育センター）

4. ICT機器（益田高校）

5. 事業の組織構成と役割分担



6. コンソーシアム

7. シンポジウム発表

8. 今年度の具体的な協働活動 ①

＜益田高校＞

■魅力化部会　年3回実施

■1年生　地域巡検発表会

**　2・3年生　理数科課題研究、普通科課題探究発表会**

■益田市議会訪問

■益田版カタリバ

8. 今年度の具体的な協働活動 ②

＜津和野高校＞

■評議員会

■「総合的な探究の時間」支援（ゼミ、マイプロ、トークフォークダンス等）

■町営寮・下宿事業、生徒募集活動、公営塾の運営等

■益田コンソーシアムとの情報交換

■マッチングサイト開設

■小学生との体験活動

8. 今年度の具体的な協働活動 ③

＜吉賀高校＞

■理事会　年2回、総会　年1回

■大学生交流プロジェクトチーム協議　年3回

■アントレプレナーシップ教育（座談会、成果発表会、オンライン大学生交流、
**　オンラインフィールドワーク、伴走者ミーティング）**

■研修会（教職員、地域伴走者の目線合わせ）

■中高一貫ロードレース大会、小学生向け実験教室

8. 今年度の具体的な協働活動　④

＜江津高校＞

■ワーキング会議　年3回実施
■情報誌「アオハル」 年6回発刊
■1・2年生 「総合的な探究の時間」校内発表会、校外発表会への参加
■都野津古民家プロジェクト、街プロジェクト、小学生学習・体験活動支援
■県立大学との連携（ラオス絵本プロジェクト、バーチャル国際交流会）
■中学校との部活動連携（黒板アート）

9. オンライン探究支援システム　①

9. オンライン探究支援システム　②

＜津和野高校＞

「オンライン探究支援システム」構築に向けた試行

津和野高校2年生キャリアワークショップ

日　時：令和3年11月10日（水）12:20～16:15
（11月5日　大学生事前研修）

参加者：津和野高校2年生
（文系コース・理数コース29名）
大学生29名

目　的：進路選択を前に自らの進路イメージを広げ、自らの興味関心・学びたいことを振り返り、進路選びにおいて大事にしたい要素を言葉にする

内　容：大学生と1対1で、進路に関する対話を行う

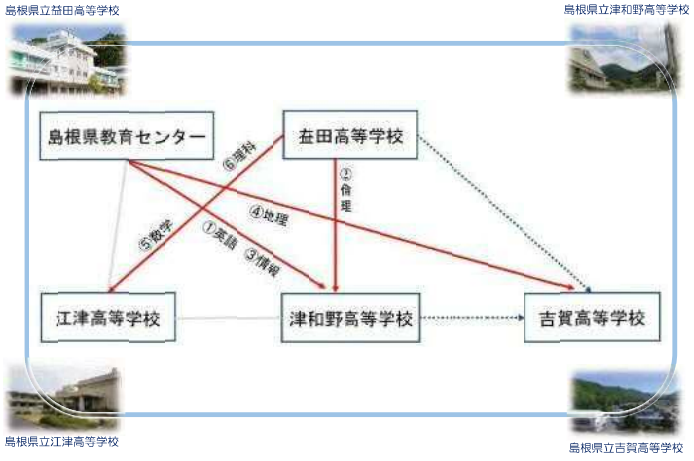
＜4校＞

・3月　R4年度 「オンライン探究支援システム」試行に関する説明、ヒアリングの実施

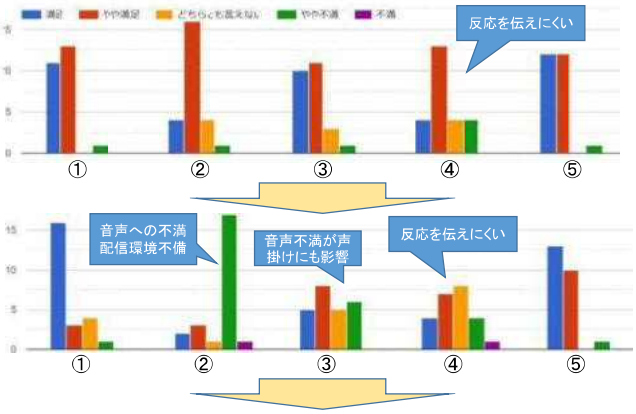
10. 今年度の取組に対する障害要素

- 事業調整
- 研修
- 通信・機材
- 時間割

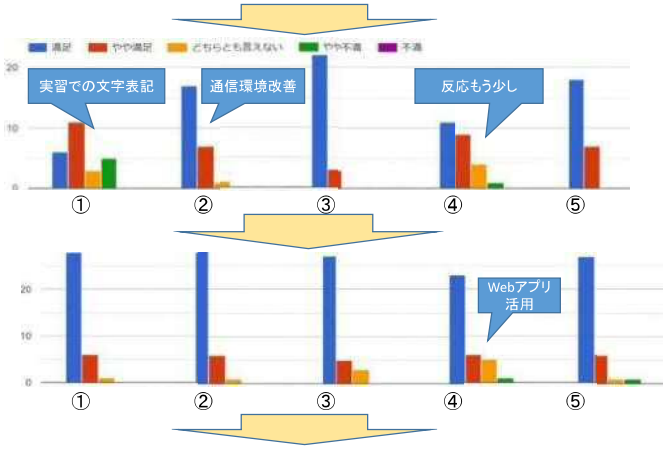
11. 今年度の取組総括（R3遠隔試行配信）



【生徒への質問項目】
①文字がはっきりと見える　②音声がはっきりと聞こえる　③先生からの声かけが分かる
④先生に自分の反応を伝えることができる　⑤先生からのPC操作やペアワークの指示が分かる



【生徒への質問項目】
①文字がはっきりと見える　②音声がはっきりと聞こえる　③先生からの声かけが分かる
④先生に自分の反応を伝えることができる　⑤先生からのPC操作やペアワークの指示が分かる



石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

【生徒への質問項目】
①文字がはっきりと見える　②音声がはっきりと聞こえる　③先生からの声かけが分かる
④先生に自分の反応を伝えることができる　⑤先生からのPC操作やペアワークの指示が分かる

○普通の授業と変わらないくらいなめらかだった。
○パソコンの使い方や授業がわかりやすい説明で良かった
○近未来な感じがしてわくわくした。
●音声が途切れるときに指示が出ると聞き取りづらい
●先生にとってのメリットはわかりますが、私達にとってのメリットがあるのか疑問に思いました
●面白いですけど、ちゃんとやれるか少し不安でした

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

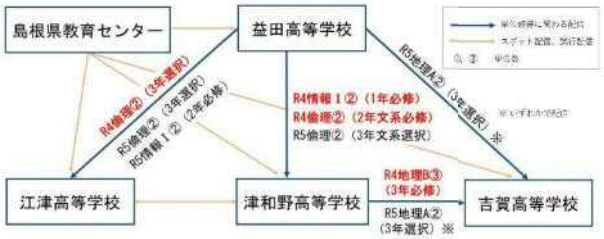
12. 今年度の取組総括（地域協働学習）

○コンソーシアムの連携推進による地域協働活動の充実
△「オンライン探究支援システム」
２校（津和野、吉賀）での試行予定→１校のみで実施
●4コンソーシアムをつなげる取組
「すでに各校でコンソーシアムが構築され、独自の取組が進んでいる」
「複数校でコンソーシアムを構築している高校がある」
「高校に関わるステークホルダーがすでに多くいる」
といった状況で、どのように４コンソーシアムをつなげていくかが、次年度の課題

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

13. 令和4年度の主な取組

・遠隔授業配信



・地域協働学習
○「オンライン探究支援システム」の4校での試行
○津和野高校、吉賀高校2校での探究学習授業の実施
○4コンソーシアム連絡会の実施

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

13. 将来展望

広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す

- 遠隔教育推進教員（指導主事）の育成
- ICTに関するセンター的機能の充実
- 「オンライン探究支援システム」の構築

「しまね教育魅力化ビジョン」
～ ふるさと島根を学びの原点に未来にはばたく 心豊かな人づくり ～

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業　令和3年度成果報告会

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

取組事業の特色

いわみ

いろんな教科を
わかちあう環境から
みんなで探究！

2022年3月11日

島根県教育委員会

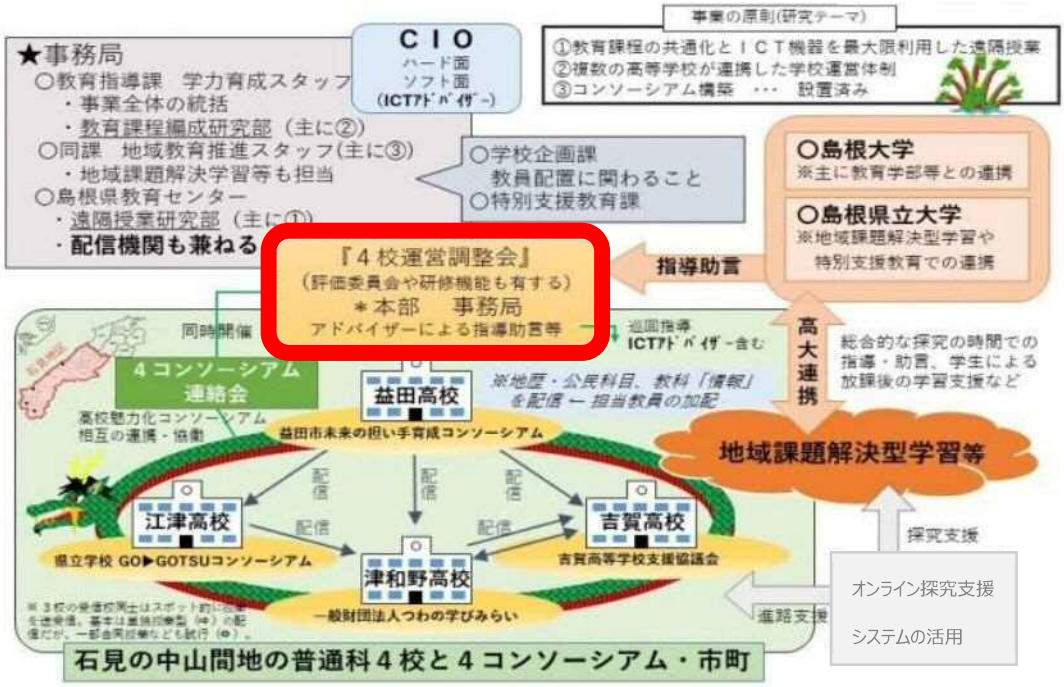
２　４校運営調整会ならびに研修会

学校間連携をスムーズに行うため、本事業では「４校運営調整会」を中心に位置づけている。４校運営調整会は、評価委員会や研修機能を有すると定めている。そのため、事業運営に関する内容についてはこの会で諮ることにしている。構成委員については、事務局、各構成校管理職ならびに担当（主幹教諭）、事業評価委員、CIO としている。

今年度については、４校運営調整会を３回実施し、主に遠隔授業に関することや遠隔機器の配備等を中心に協議した。なお、構成校が遠隔地であることやコロナ禍であることから、すべてオンラインで実施している。また、研修については島根県教育センターの大屋指導主事や、事業評価委員の島根大学中村怜詞准教授を講師として、配信担当教員に対し３月末に実施した。

なお、令和４年度からは地域課題解決型学習に関わる「４コンソーシアム連絡会」を開催し、オンライン探究支援システムの構築の試行に関わる協議を行う予定にしている。

第１回	第２回	第３回	研修会
令和３年８月３１日	令和３年１２月８日	令和４年３月１７日	令和４年３月３０日
構成校ならびに事業評価委員等紹介、遠隔授業イメージ、遠隔機器、コンソーシアムの取組、今年度の大まかな計画、第２回運営調整会整理、訪問調査など	ヒアリング・アンケート内容の共有、遠隔授業配信報告、配備機材等の追加検討、地域協働学習、内田洋行関連事業、第３回運営調整会整理など	事業成果報告会(３月)報告、遠隔授業配信今年度の事業報告、来年度の大まかな取組、令和４年度第１回運営調整会整理など	遠隔授業担当教員に対する配信機器の取り扱い、1人1台端末の活用を想定した Web アプリを活用した授業展開など



益田高校　吉賀高校

いろんな教科を　わかちあう環境から　みんなで探究！

島根の創生

石見オロチCORE ハイスクールネットワーク構想

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

４校運営調整会（第１回）

江津高校　令和3年8月31日16:00～　津和野高校

本日の流れ

- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- コンソーシアムの取組等
- 今年度の大まかな計画
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

COREハイスクール・ネットワーク構想

令和３年度予算額 2.1億円（新規）

非域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築：**CO**llaborative **RE**gional High-school Network

背景・課題

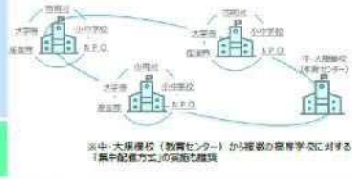
○ 中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校において、地域唯一の高等学校として、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うことが必要であるが、生徒数減少により、生徒のニーズに応じた多様な科目開設や習熟度別授業等が困難。

→ 複数の高等学校の教育課程の共通化やICT機器の最大限の活用により、中山間地域や離島等の高等学校においても生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援を可能とする高等学校教育を実現し、持続的な地方創生の核としての機能強化を図る。

事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築

1 同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働
⇒自校では受けることのできない授業の受講を可能化
⇒免許外教科担任制度の利用解消
● 文部科学省「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」の活用による実施

2 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築
⇒学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化
⇒地域を築く担い、コミュニティを支える人材の育成



※中・大規模校（教育センター）から複数の高等学校に対する「集中配信方式」の実施も検討

【事業の検証のための調査研究】
全体俯瞰に向けて、各ネットワークにおける成果・課題を抽出・分析する調査研究を実施

生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

本日の流れ

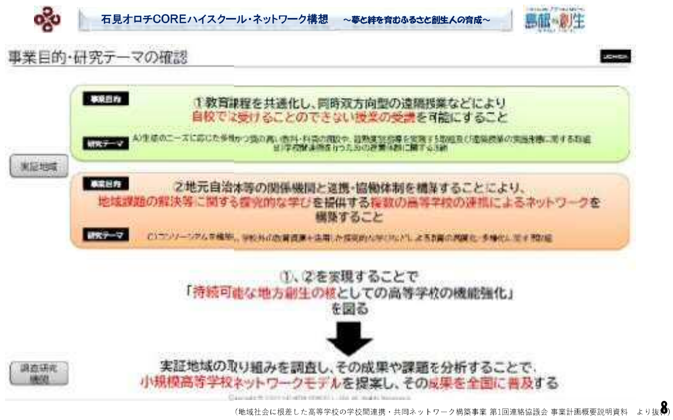
- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- コンソーシアムの取組等
- 今年度の大まかな計画
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

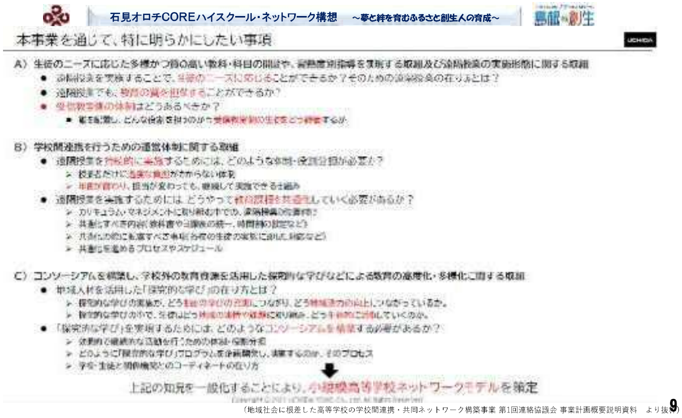
事務局	教育指導部	木原　和典	参事（課長）
		神谷　好弘	学力育成スタッフ　上席調整監
		井上　修	学力育成スタッフ　調整監
		柳原　勝	学力育成スタッフ　企画幹
		福髙　淳一	学力育成スタッフ　指導主事
		川村　昇	学力育成スタッフ　企画員
		松田　敏史	学力育成スタッフ　主任
		吉川　めぐみ	特別教育推進室　特別教育スタッフ　調整監
		福原　希美代	特別教育推進室　キャリア教育スタッフ　企画幹
	教育センター	村　秀樹	教育企画部長
		髙口　純子	研究・情報スタッフ　企画幹
		大塚　純一	研究・情報スタッフ　指導主事
		舟越　真悟	研究・情報スタッフ　指導主事
		古川　吉信	研究・情報スタッフ　指導主事
		森本　久美子	研究・情報スタッフ　指導主事

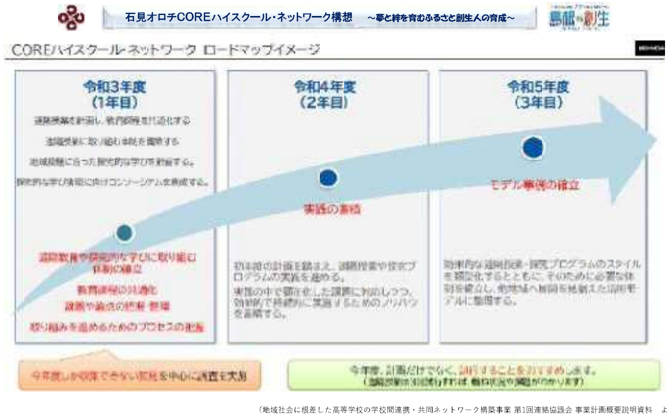
構成校	江津高等学校	江川　敏司	校長
		山崎　秀雄	教頭
		平井　孝	主幹教諭
	益田高等学校	長尾　正和	校長
		岩永　和江	教頭
		真鍋　立哉	主幹教諭
	吉賀高等学校	小林　三治	校長
		羽井　俊晃	教頭
		長谷川　照明	主幹教諭
	津和野高等学校	宮島　忠史	校長
		原田　公治	教頭
		佐々木　登二	主幹教諭
		山根　幸久	教諭

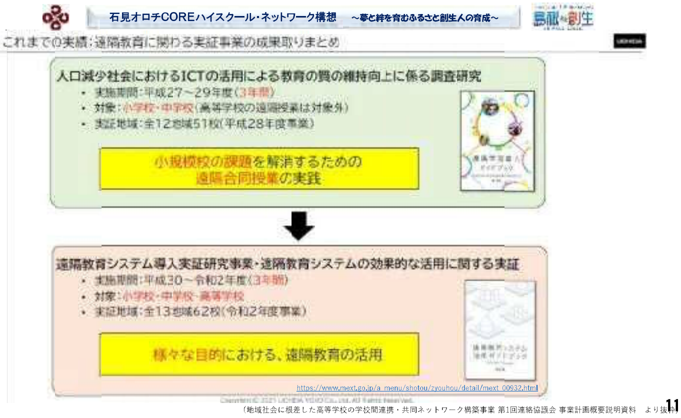
アドバイザー	事業評価委員（兼ICTアドバイザー）	千代西尾　祐司	鳥取環境大学　教授
	事業評価委員	赤坂　一浩	島根県立大学　教授
	事業評価委員	中村　竹羽	島根大学　准教授
	CIO	山口　悟	島根県地域振興部地域政策課 CIO補佐官

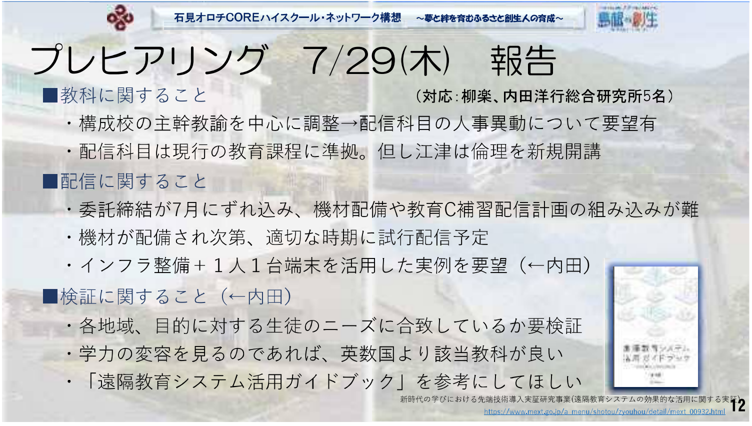
石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本日の流れ
• はじめに
• 構成校、事業評価委員等紹介
• 遠隔授業イメージ
• 遠隔機器
• コンソーシアムの取組等
• 今年度の大まかな計画
• 第２回運営調整会に向けての整理
• その他
7


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
事業目的・研究テーマの確認
①教育課程を共通化し、同時双方向型の遠隔授業などにより
自校では受けることのできない授業の受講を可能にすること
実証地域
②地元自治体等の関係機関と連携・協働体制を構築することにより、
地域課題の解決等に関する探究的な学びを提供する複数の高等学校の連携によるネットワークを
構築すること
①、②を実現することで
「持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化」
を図る
実証地域の取り組みを調査し、その成果や課題を分析することで、
小規模高等学校ネットワークモデルを提案し、その成果を全国に普及する
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）
8


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本事業を通じて、特に明らかにしたい事項
上記の知見を一般化することにより、小規模高等学校ネットワークモデルを策定
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）
9


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
COREハイスクール・ネットワーク ロードマップイメージ
令和3年度
（1年目）
令和4年度
（2年目）
令和5年度
（3年目）
モデル事例の確立
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）
10


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
これまでの実績：遠隔教育に関わる実証事業の成果取りまとめ
人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る調査研究
• 実施期間：平成27～29年度（3年間）
• 対象：小学校・中学校（高等学校の遠隔授業は対象外）
• 実証地域：全12地域51校（平成28年度事業）
小規模校の課題を解消するための
遠隔合同授業の実践
遠隔教育システム導入実証研究事業・遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証
• 実施期間：平成30～令和2年度（3年間）
• 対象：小学校・中学校・高等学校
• 実証地域：全13地域62校（令和2年度事業）
様々な目的における、遠隔教育の活用
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）
11


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
プレヒアリング　7/29(木)　報告
■教科に関すること
（対応：柳楽、内田洋行総合研究所5名）
・構成校の主幹教諭を中心に調整→配信科目の人事異動について要望有
・配信科目は現行の教育課程に準拠。但し江津は倫理を新規開講
■配信に関すること
・委託締結が7月にずれ込み、機材配備や教育C補習配信計画の組み込みが難
・機材が配備され次第、適切な時期に試行配信予定
・インフラ整備＋１人１台端末を活用した実例を要望（←内田）
■検証に関すること（←内田）
・各地域、目的に対する生徒のニーズに合致しているか要検証
・学力の変容を見るのであれば、英数国より該当教科が良い
・「遠隔教育システム活用ガイドブック」を参考にしてほしい
新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業(遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html
12

新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証）

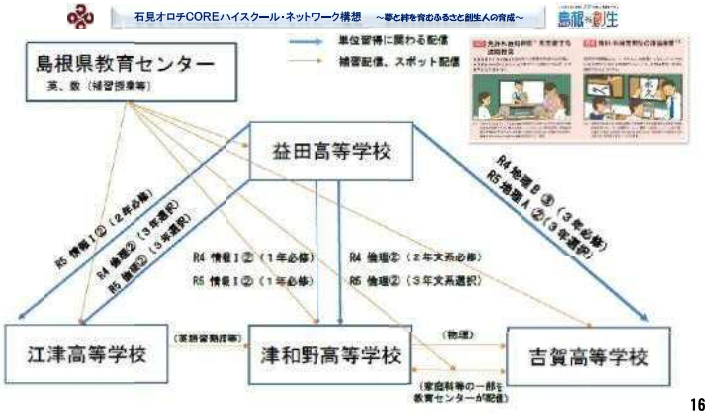
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html

13

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html

14

15



16

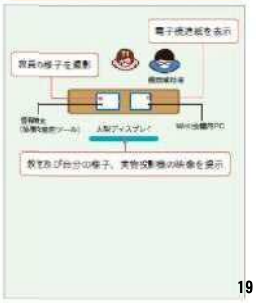
17

https://www.youtube.com/watch?v=qIjvMNy_E80

18

学校
徳島県立海部高等学校
8人・授業補助者（教員）

配信校
徳島県立徳島中央高等学校
教員・機器補助者



19

▼配信校

▼受信校

20

実物投影機を用いた資料提示・説明

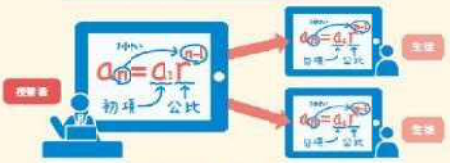
▼配信校

▼受信校

▲板書代わりに、実物投影機を用いて説明を行う。

21

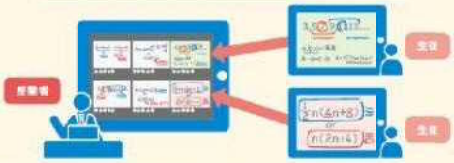
タブレット端末を用いた資料提示・説明



授業者が例題の解法を行う際は、タブレット端末が協働学習用ツールを使用する。
授業者の書き込んだ画面は、生徒が1人1台ずつ持っているタブレット端末にも表示される。

22

タブレット端末を用いた生徒の活動・状況把握



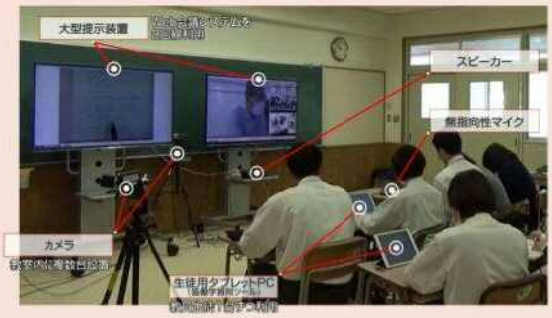
一方、生徒が問題演習に取り組む際、協働学習用ツールを使う。
生徒がタブレット端末に記入した内容は授業者にも共有される。授業者は書き込み状況を見ながら、各生徒の理解度や進捗を確認する。
また、生徒の画面を全員に共有し、解説を加えたり生徒自身に説明させたりする活動を行う。

23

機器構成（徳島県立徳島中央高等学校）　配信側（授業者）

24

機器構成(徳島県立海部高等学校)　受信側(生徒)



25

機器構成(高知県教育センター)　配信側(授業者)

26

高知県立椎原高等学校　(受信側)

27

本日の流れ

- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- コンソーシアムの取組等
- 今年度の大まかな計画
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

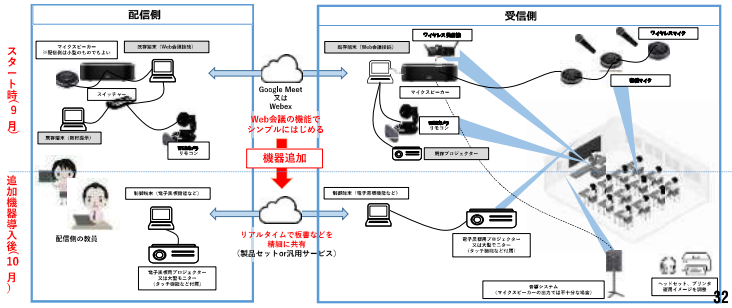
28

29

30

島根県の機器整備内容（8/31時点）

○ スタート時はシンプルな構成で。配信側、受信側とも簡易に操作ができる形をめざしたい。
○ 各校の環境にあわせて追加機器（プロジェクター、音響システム）を調整、決定。
○ 追加機器は設置場所や運用方法（教室固定か移動式か等）により変わってくる。



使用する機器の検討状況（■は使用、◆は使用しない場合あり。×は使用予定がない）

区分	遠隔教育ガイドラインの例示機材	想定機器等（現時点のもの）	備考、製品画像等
遠隔教育システム	× ビデオ会議システム ■ Web会議システム	・Cisco Webex 又は Google Meetを想定	・解像度に制約あり(ex Google Meet 720pまで) ・精緻な教材の提示は別の方法で行う必要あり
カメラ	× 専用カメラ　■ Webカメラ ◆ ビデオカメラ　◆ 実物投影機 ■ 映像スイッチャー	・Webカメラ ﾛｼﾞｸｰﾙ PTZ Pro(可動・リモコン付) ・映像スイッチャー Blackmagic ATEM mini pro ※映像スイッチャー経由で既存のビデオカメラや実物投影機(HDMI出力できるもの)を使用できる	
マイク	■ ヘッドセット ■ 指向性マイク ■ 無指向性マイク	・ヘッドセットは1人1台端末との併用を想定 ・指向性マイク(ワイヤレス) WMS40 PRO MIX*2 ・無指向性マイク(有線) YVC-MIC1000EX*2 （いずれもマイクスピーカーシステムYVC-1000に接続）	
スピーカー	× ディスプレイ内蔵スピーカー ■ 個別スピーカー × 多分岐アダプタ	・マイクスピーカーシステム YAMAHA YVC-1000 ※狭い40人までの会議用 ・PA(音響)システムは設置場所によっては不要。 ポータブルPAシステム STAGEPAS 400BT	
大型提示装置	◆ 大型ディスプレイ ■ プロジェクタ	・インタラクティブプロジェクタ(EPSON EB725WI)を想定。 タッチ機能があるもの。 ・固定しない学校は、大型ディスプレイを選択する必要あり(その場合は、共通のサービスが使えるもの)	
生徒用情報端末	■ 資料共有用端末 ■ 学習者接続用端末	・資料共有用端末はWindowsPC想定 （ただしWeb会議システムの接続はChromebookで可能） ・学習者接続用端末はChromebookを想定	
ソフトウェア	■ 協働学習用ツール ■ 電子掲示板	・Google Workspaceサービス及び協働学習用ツール ・プロジェクタ付属のサービスや、Google Jamboardなど	・スクールタクトなどの使用を検討 ・電子黒板ツールは比較検討が必要
無線LAN AP	■ 固定AP ／ □ 可搬(モバイルWiFi)	・既存APを使用(フレッツ光回線に接続)	

本日の流れ

- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- **コンソーシアムの取組**
- 今年度の大まかな計画
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

コンソーシアム等、学校外の教育資源を
活用した探究的な学びなどによる教育の
高度化・多様化に関する取組

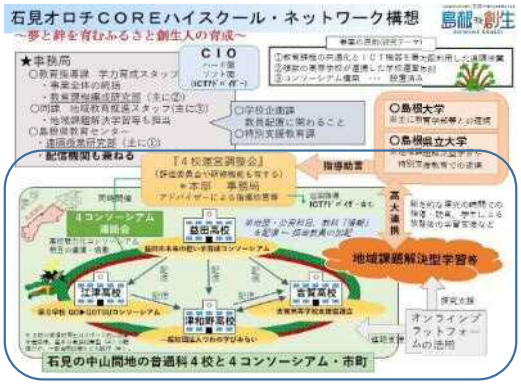
●コンソーシアム

益田高校
　名称：益田市未来の担い手育成コンソーシアム

江津高校
　名称：県立学校GO▶GOTSUコンソーシアム

津和野高校
　名称：一般財団法人つわの学びみらい

吉賀高校
　名称：吉賀高等学校支援協議会



37

CORE事業取組

①「オンライン探究支援システム（仮）」を活用した学校外・地域外の教育資源（外部人材）活用による探究学習（キャリア教育）の充実

②総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）の４校合同での一部実施

③「４コンソーシアム連絡会」での情報交換による各校コンソーシアムの充実

38

39

３年間（Ｒ３～５年度）の展開 ＜予定＞

R3年度（１年目）	オンライン探究支援システムの試行、構築	津和野高校、吉賀高校
R4年度（２年目）	オンライン探究支援システムの活用	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を２校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校
	4校連携コンソーシアムの実施	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム
R5年度（３年目）	オンライン探究支援システムの活用	全県展開
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を４校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	4校連携コンソーシアムの実施	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム

40

津和野高校

２年生進学希望者対象　大学生との座談会【10月】

希望者数：40名程度
希望分野：文系20名、理系10名、学際系10名
形式：１対１での対話を想定
時間：平日の13:05～15:40
内容：大学・学部学科選び、大学生活、学問の実際、進路実現までの過程
準備物：上記いずれかの事柄が入ったスライド１枚
留意事項：対話的に引き出す感じで

（２年生　プロジェクトの伴走）

総探：各月３コマまとめ取り
間が任意の活動となる。任意の活動をサポートする人材の不足。
インターバルの期間に、大学生による相談などの時間がとれるとよい。

41

吉賀高校

○「伴走」ではなく、「スポット」としての関わり

○インプット支援（インタビュー相手、フィールドワーク等）として活用するイメージ

○町にない仕事や学問分野に携わっている人など、リスト化されていればニーズはある

42

43

３年間（Ｒ３～５年度）の展開 ＜予定＞

R3年度（１年目）	オンライン探究支援システムの試行、構築	津和野高校、吉賀高校
R4年度（２年目）	オンライン探究支援システムの活用	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を２校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校
	４コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム
R5年度（３年目）	オンライン探究支援システムの活用	全県展開
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を４校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	４コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム

44

３年間（Ｒ３～５年度）の展開 ＜予定＞

R3年度（１年目）	オンライン探究支援システムの試行、構築	津和野高校、吉賀高校
R4年度（２年目）	オンライン探究支援システムの活用	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を２校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校
	４コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム
R5年度（３年目）	オンライン探究支援システムの活用	全県展開
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を４校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	４コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム

45

CORE事業取組

①「オンライン探究支援システム（仮）」を活用した学校外・地域外の教育資源（外部人材）活用による探究学習（キャリア教育）の充実

②総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）の４校合同実施

③「４コンソーシアム連絡会」での情報交換による各校コンソーシアムの充実

46

本日の流れ

- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- コンソーシアムの取組
- 今年度の計画（予定）
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

47

年月	実施スケジュール（案）	機器整備スケジュール（案）
3年5月～7月	●各校への事業説明・ヒアリング ●文部科学省との委託契約締結 ●各校コンソーシアム役員会 ●各校で地域課題解決型学習を実施	
8月	●第1回４校運営調整会（事業全体説明、教育センター）	○スタート用機器の調達開始（教育指導課） ○マイクスピーカーの先行配布（津和野高校）
9月	●配信の試行（教育センター－津和野高校） （ソフト・ハード面での課題等把握、公開授業に向けての動作確認） ●ＣＩＯ協議(配信試行を踏まえた現場検討) ●各校で地域課題解決型学習を実施 ●第2回運営調整会 ・津和野高校での配信試行報告 ・公開授業について ・構成校への配置及び試行について	○スタート用機器の調達、各校送付（教育指導課） ○配信試行（教育センター）用機器の調達（教育指導課） ○スタート用機器の配置、動作確認（津和野） ○配信試行機器の動作確認（教育センター） ○配信試行のタイミングで各校の追加機器の決定 （各校－教育指導課協議）
10月	●配信の試行（教育センター－構成校）（ソフト・ハード面での課題等把握） ●公開授業（大学生との座談会（津和野）） ●コンソーシアム役員会（各校） ●グランドデザインＰＤＣＡ研修 ●オンラインプ探求支援システムの活用試行（津和野・吉賀） ●各校で地域課題解決型学習	○追加機器の調達 ○スタート用機器の配置、動作確認（構成校） ○追加機器の配置、動作確認（構成校）
11月	●探究学習中間発表会（各校または地域） ●第3回運営調整会 ・構成校での配信試行報告 ・公開授業報告 ・各校間でのスポット配信について ・該当科目履修予定生徒への説明 ※中間事業評価 ●各校で地域課題解決型学習	

48

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

年月	実施スケジュール（案）	機器整備スケジュール（案）
12月	●配信の試行（益田高校－各受信校）①インフラ関係（指導課、CIO協議） ●オンライン探求支援システムの活用試行（津和野、吉賀） ●学校評価アンケート ●各校で地域課題解決型学習 ●受信校において該当科目履修予定生徒に対する遠隔授業説明 ★スポット配信 ★次年度協議	●通信設備の追加配備の検討
4年1月	●配信の試行（益田高校－各受信校）②指導関係（センター） ●各校選択科目希望調査 ●各校で地域課題解決型学習の実践 ●配信校・受信校の時間割調整 ★スポット配信 ★次年度協議	●機材の追加配備の検討
2月	●年度末事業評価の作成 ●しまね探究フェスタ（探究学習発表会）（生徒・大人） ●コンソーシアム役員会（各校） ●第４回４校運営調整会 ・年度末事業評価報告 ・次年度の計画 ・受信校、配信校の指導体制について ・遠隔授業に関わる研修会	
3月	●本事業の取り組みについての総括 ●配信担当教員、受信校担当教員研修（視察） ●ICT支援員協議 ●新年度の体制準備	

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

●第2回運営調整会

・９月下旬（または10月上旬）予定
・津和野高校での配信試行報告
・公開授業について
・構成校への配置及び試行について
・その他

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

本日の流れ

- はじめに
- 構成校、事業評価委員等紹介
- 遠隔授業イメージ
- 遠隔機器
- コンソーシアムの取組
- 今年度の大まかな計画
- 第２回運営調整会に向けての整理
- その他

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

予定している主な調査(案)

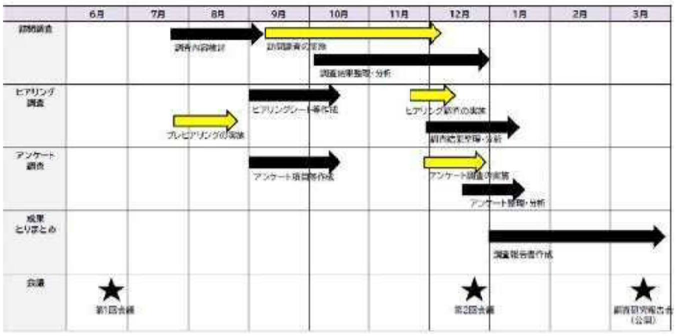
調査	項目	概要
訪問調査	日程	・9~12月頃の実施を予定しています。 ※調査時期は、各地域の進捗状況を踏まえ、個別に相談しながら調整いたします。 ※今年度の進捗状況によっては、オンライン授業や取り組み報告の提出等で代替することも検討します。
	対象	・実証校
	内容	・遠隔授業、探究的な学びを行う授業の視察 ・遠隔授業を行う環境の把握
アンケート調査	日程	・12月頃の実施を予定しています。
	対象	・実証校の教員・生徒
	備考	・全地域共通のアンケートを実施します。アンケートの集計は事務局が行います。 ・個人・実証地域を特定した分析は行いません。 ・集計した結果は、各地域のデータのみ提供します。各地域独自で分析していただいても構いません。
ヒアリング調査	日程	・12月頃の実施を予定しています。
	対象	・教育委員会実務担当者 ・実証校で本プロジェクトを担当している教員
	備考	・本年度の取り組み成果や課題などについて、把握します。 ・本ヒアリングとは別に、事業計画案・本会議での発言内容を踏まえ、本年度の取組内容について確認するプレヒアリングを検討しています(7~8月頃の予定)

※これらの調査のほか、別途調査にご協力いただく場合がございます

（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

今年度の取組スケジュール(案)



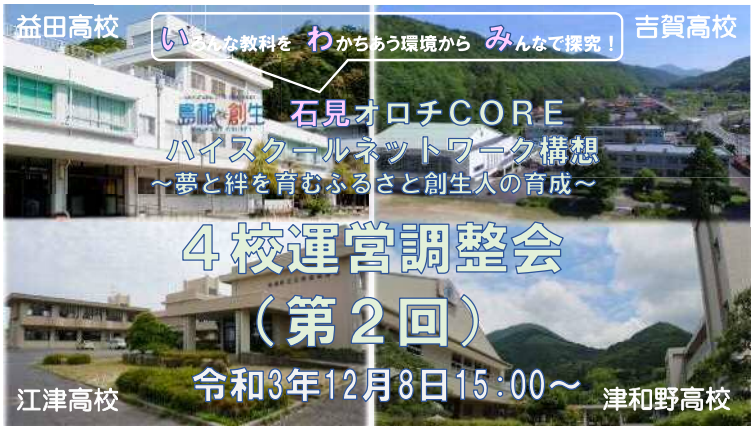
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

課題点の共有

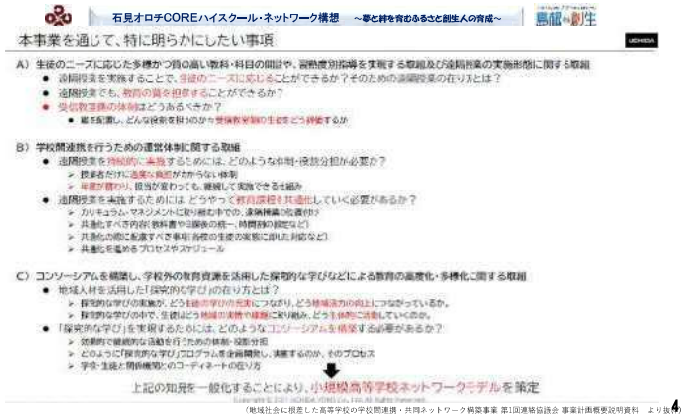
恐れ入りますが、学園祭明け（9/8）までのところで、柳樂まで（庁内）メールでご返信下さい。

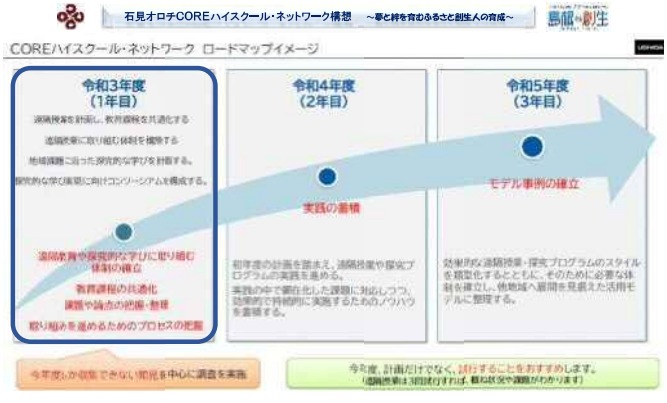
益田高校
吉賀高校
いろんな教科を わかちあう環境から みんなで探究！
石見オロチCORE
ハイスクールネットワーク構想
～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本日はありがとうございました
江津高校
津和野高校


益田高校
吉賀高校
いろんな教科を わかちあう環境から みんなで探究！
島根の創生
石見オロチCORE
ハイスクールネットワーク構想
～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
４校運営調整会
（第２回）
令和3年12月8日15:00～
江津高校
津和野高校

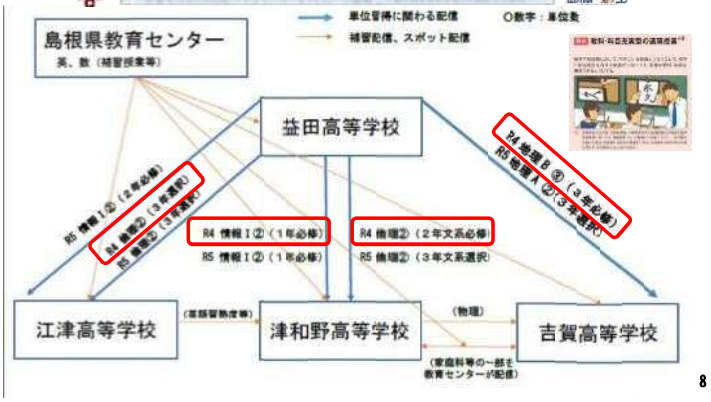
石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根の創生
本日の流れ
・目線合わせ
・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有
・配信(センター→津和野、益田→津和野)報告
・配備機材等の追加検討
・事業評価委員ご助言
・その他
(地域協働学習、次回の日程など)
2

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根の創生
事業目的・研究テーマの確認
①教育課程を共通化し、同時双方向型の遠隔授業などにより
自校では受けることのできない授業の受講を可能にすること
②地元自治体等の関係機関と連携・協働体制を構築することにより、
地域課題の解決等に関する探究的な学びを提供する複数の高等学校の連携によるネットワークを
構築すること
①、②を実現することで
「持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化」
を図る
実証地域の取り組みを調査し、その成果や課題を分析することで、
小規模高等学校ネットワークモデルを提案し、その成果を全国に普及する
3


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根の創生
本事業を通じて、特に明らかにしたい事項
A）生徒のニーズに応じた多様かつ質の高い教科・科目の開設や、習熟度別指導を実施する取組及び遠隔授業の実施形態に関する取組
B）学校間連携を行うための運営体制に関する取組
C）コンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組
上記の知見を一般化することにより、小規模高等学校ネットワークモデルを策定
4


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根の創生
COREハイスクール・ネットワーク ロードマップイメージ
令和3年度
（1年目）
令和4年度
（2年目）
令和5年度
（3年目）
実践の蓄積
モデル事例の確立
5

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根の創生
コンソーシアム関係
A 多様な人々とのつながりを実現する遠隔教育
A1 遠隔交流学習
A2 遠隔合同授業
B 教科等の学びを深める遠隔教育
B1 ALTとつないだ遠隔学習
B2 専門家とつないだ遠隔学習
B3 免許外教科担任を支援する遠隔授業
B4 教科・科目充実型の遠隔授業
遠隔授業 https://www.youtube.com/watch?v=qIjvMNy_E80
6



プレヒアリング　7/29(木)　報告

■教科に関すること　（対応：柳楽、内田洋行総合研究所5名）

・構成校の主幹教諭を中心に調整→配信科目の人事異動について要望有

・配信科目は現行の教育課程に準拠。但し江津は倫理を新規開講

■配信に関すること

・委託締結が7月にずれ込み、機材配備や教育C補習配信計画の組み込みが難

・機材が配備され次第、適切な時期に試行配信予定

・インフラ整備＋**１人１台端末を活用した実例を要望（←内田洋行）**

■検証に関すること（←内田）

・各地域、目的に対する生徒のニーズに合致しているか要検証

・**学力の変容**を見るのであれば、英数国より**該当教科が良い**

・「遠隔教育システム活用ガイドブック」を参考にしてほしい

新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業(遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html

本日の流れ

・目線合わせ

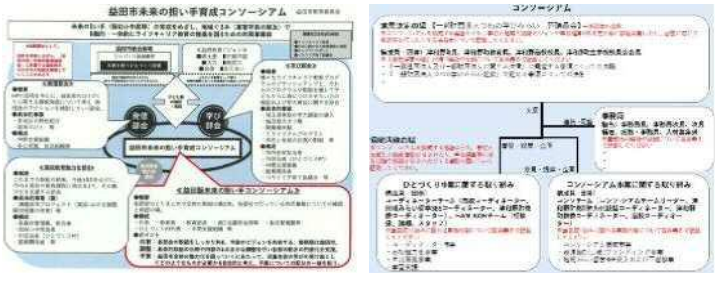
・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有

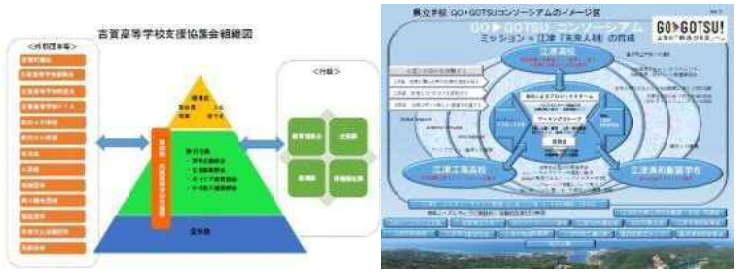
・配信(センター→津和野、益田→津和野)報告

・配備機材等の追加検討

・事業評価委員ご助言

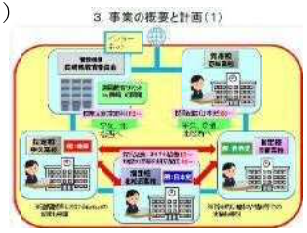
・その他
(地域協働学習、次回の日程など)





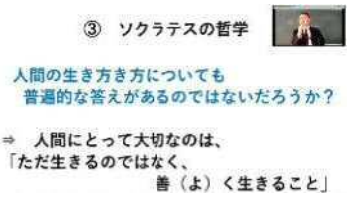
長崎遠隔教育サミット参加報告

- 壱岐357+離島留学39、北松西28、奈留36、宇久20
- Teams利用、Windows端末（1人1台）
- CIO雇用
- 地歴科目の相互授業（R5単位認定）
- その他の科目については教員配置の実情による
- R4から県独自の遠隔構築体制予定



本日の流れ

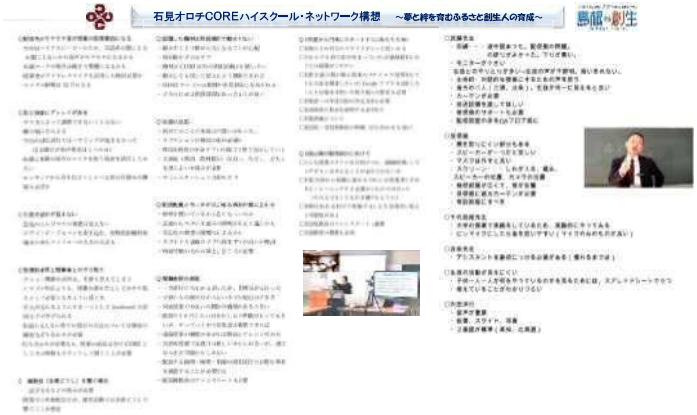
- 目線合わせ
- 12/7 文科省とのヒアリング内容の共有
- 配信(センター→津和野、益田→津和野)報告
- 配備機材等の追加検討
- 事業評価委員ご助言
- その他
  （地域協働学習、次回の日程など）



教育センター → 津和野
（英語：高田企画幹）
（9月）

益田 → 津和野
（倫理：武藤主幹教諭）
（11月） ★訪問調査

資料提示	スライド、実物投影機、板書（ホワイトボード）	スライド　※マスク→外す
話し合い等	ペアワーク、発表	ペアワーク
受信画面	２画面	１画面
大型スピーカー	有り	無し
ファシリテート	山根先生	（なし）
評価委員等	中村先生、山口CIO	赤坂先生、千代西尾先生 内田洋行（3名）



●配信機材はできるだけシンプルに
●教室の固定
●配信校のマイク
●受信校のスピーカー
（説明あり）

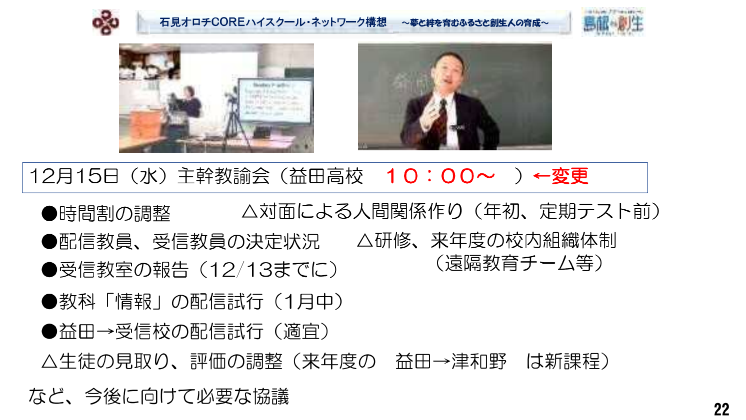
《●対応　○検討》

○受信校、配信校の画面は最低２台必要
（１台は整備予定）
○受信校の追加カメラ設置
（Chromebook、webカメラ等）
○Chromebook追加調達
（受信校１人１台端末用）
○活用アプリの検討
（Schooltact、Jamboard）
○配信教員、受信教員の決定→活用研修

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
Question カメラを設置する際に注意するポイントを教えてください。
Answer 接続先からどのように見えるかを意識して設置しましょう。
Question 授業者や児童生徒の音を、うまく拾うにはどのようにしたら良いでしょうか?
Answer マイクに口を近づけましょう。
Answer マイクを使い分けましょう。
遠隔教育システム活用ガイドブック
19

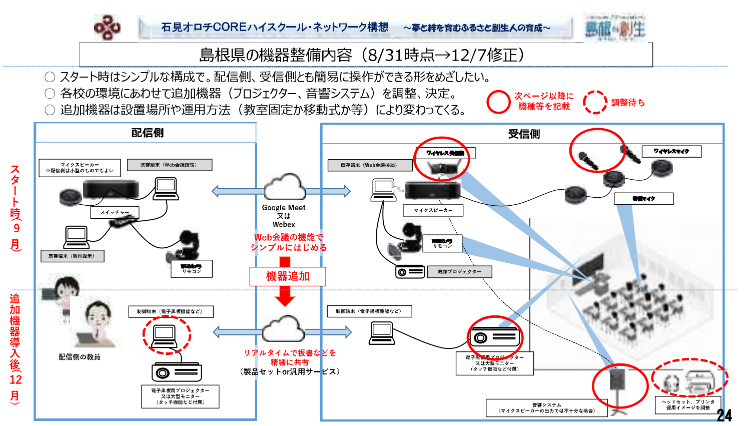
石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
Question 遠隔授業で教材を共有する方法について教えてください。
Answer 共有する教材の種類によって、いくつかの方法があります。
1 実物投影機の映像を共有する方法
2 PCの画面を共有する方法
3 協働学習用ツールや電子掲示板を利用する方法
遠隔教育システム活用ガイドブック
20

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
Question 遠隔教育を行う際、どのような体制をとる必要がありますか。
Answer 遠隔教育に関わる内外の関係者全員で、遠隔教育の意義や目的を共有しましょう。
Answer 授業者だけに負担がかからない、支援体制を作りましょう。
21



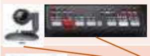
石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
12月15日（水）主幹教諭会（益田高校　１０：００～　）←変更
●時間割の調整
△対面による人間関係作り（年初、定期テスト前）
●配信教員、受信教員の決定状況
△研修、来年度の校内組織体制（遠隔教育チーム等）
●受信教室の報告（12/13までに）
●教科「情報」の配信試行（1月中）
●益田→受信校の配信試行（適宜）
△生徒の見取り、評価の調整（来年度の　益田→津和野　は新課程）
など、今後に向けて必要な協議
22

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本日の流れ
・目線合わせ
・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有
・配信(センター→津和野、益田→津和野)報告
・配備機材等の追加検討
・事業評価委員ご助言
・その他
(地域協働学習、次回の日程など)
23



石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
島根県の機器整備内容（8/31時点→12/7修正）
○ スタート時はシンプルな構成で。配信側、受信側とも簡易に操作ができる形をめざしたい。
○ 各校の環境にあわせて追加機器（プロジェクター、音響システム）を調整、決定。
○ 追加機器は設置場所や運用方法（教室固定か移動式か等）により変わってくる。
次ページ以降に機種等を記載
調整待ち
配信側
受信側
スタート時（9月）
追加機器導入後（12月）
マイクスピーカー ※配信側は小型のものでもよい
既存端末（Web会議接続）
スイッチャー
既存端末（教材提示）
Webカメラ リモコン
Google Meet 又は Webex
Web会議の機能でシンプルにはじめる
機器追加
ワイヤレス受信機
ワイヤレスマイク
有線マイク
マイクスピーカー
既存プロジェクター
制御端末（電子黒板機能など）
配信側の教員
電子黒板用プロジェクター 又は大型モニター（タッチ機能など付属）
リアルタイムで板書などを精細に共有
（製品セットor汎用サービス）
音響システム（マイクスピーカーの出力では不十分な場合）
ヘッドセット、プリンタ 運用イメージを調整
24

使用する機器の検討・整備状況（■は使用。◆は使用しない場合あり。×は使用予定がない）

区分	遠隔教育ガイドラインの例示機材	想定機器等(現時点のもの)	備考、製品画像等
遠隔教育システム	× ビデオ会議システム ■ Web会議システム	・Cisco Webex 又は Google Meetを想定	・解像度に制約あり(ex Google Meet 720pまで) ・精細な教材の提示は別の方法で行う必要あり
カメラ	× 専用カメラ　■ Webカメラ ◆ ビデオカメラ　◆実物投影機 ■ 映像スイッチャー	・Webカメラ ロジクール PTZ Pro(可動・リモコン付) ・映像スイッチャー Blackmagic ATEM mini pro ※映像スイッチャー経由で既存のビデオカメラや実物投影機(HDMI出力できるもの)を使用できる	
マイク	■ ヘッドセット ㊍未 ■ 指向性マイク ■ 無指向性マイク	・ヘッドセットは1人1台端末との併用を想定 ・指向性マイク(ワイヤレス) XD-V35 ~~WMS40 PRO MINI*2~~ ・無指向性マイク(有線) YVC-MIC1000EX*2 (いずれもマイクスピーカーシステムYVC-1000に接続)	購入済（各校分）
スピーカー	× ディスプレイ内蔵スピーカー ■ 個別スピーカー × 多分岐アダプタ	・マイクスピーカーシステム YAMAHA YVC-1000 ※概ね40人までの会議用 ・音量やや不足。PA(音響)システム)との併用が必要。 ポータブルPAシステム STAGEPAS 400BT	
	■ 大型ディスプレイ ■ プロジェクタ　未	・インテリジェントプロジェクタ(EPSON EB725WI)を想定。タッチ機能があるもの。 ・大型ディスプレイを別途調達予定(予算確認中) あり(その場合は、共通のサービスが使えるもの)	年度末納品予定 ※品薄
生徒用情報端末	■ 資料共有用端末 未 ■ 学習者接続用端末	・資料共有用端末はWindowsPC想定 (ただしWeb会議システムの接続はChromebookで可能) ・学習者接続用端末はChromebookを想定	設置場所決定(10月)にあわせて調達
ソフトウェア	■ 協働学習用ツール ■ 電子模造紙	・Google Workspaceサービス及び協働学習用ツール ・プロジェクタ付属のサービスや、Google Jamboardなど	・スクールタクトなどの使用を検討 ・電子黒板ツールは比較検討が必要
無線LAN AP	■ 固定AP ／ □可搬(モバイルWiFi)	・既存APを使用(フレッツ光回線に接続)	・一部、校内無線アクセスポイント整備待ち

25

ワイヤレスマイク（LINE6 XD-V35）　※到着済。各校あて発送予定

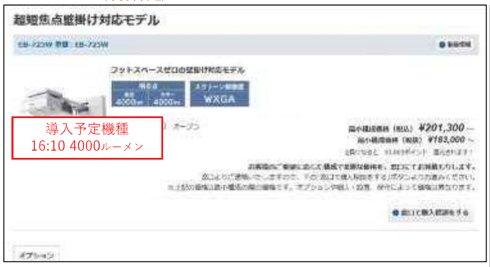
・マイクスピーカー（YVC-1000）の背後からライン入力
・会議用マイクスピーカーよりクリアな入力が可能

ワイヤレスPAシステム　STAGEPAS 400BT　※到着済・各校に配送予定

・教室の広さによりマイクスピーカーの音量が不足する場合を想定
・マイクスピーカー（YVC-1000）の背後からライン出力

26

プロジェクター（**年度末見込**）



・スクリーン一体型を想定
（スクリーンがかなり大きい→搬入経路が問題になる場合がある）
各校の状況によりスクリーンを調整）
・半導体不足の影響で<u>年度末に各校配布となる見込み</u>
<u>・２画面目（大型スクリーン）について、購入を予定して調整中</u>

27

本日の流れ

・目線合わせ
・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有
・配信(センター→津和野、益田→津和野)報告
・配備機材等の追加検討
・**事業評価委員ご助言**
・その他
(地域協働学習、次回の日程など)

28

本日の流れ

・目線合わせ
・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有
・配信(センター→津和野、益田→津和野)報告
・配備機材等の追加検討
・事業評価委員ご助言
・**その他**
(地域協働学習、今後の日程など)

29

３年間（Ｒ３～５年度）の展開　＜予定＞

R3年度（１年目）	オンライン探究支援システムの試行、構築	津和野高校、吉賀高校
R4年度（２年目）	オンライン探究支援システムの活用	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を２校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校
	4コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム
R5年度（３年目）	オンライン探究支援システムの活用	全県展開
	総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を４校合同で一部実施	津和野高校、吉賀高校 益田高校、江津高校
	4コンソーシアム連絡会の開催	津和野、吉賀、益田、江津の４コンソーシアム

30

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

予定している主な調査(案)

調査	項目	概要
訪問調査	日程	・9～12月頃の実施を予定しています。 ※調査時期は、各地域の進捗状況を踏まえ、個別に相談しながら調整いたします。 ※今年度の進捗状況によっては、オンライン視察や取り組み報告の提出等で代替することも検討します。
	対象	・実証校
	内容	・遠隔授業、探究的な学びを行う授業の視察 ・遠隔授業を行う環境の把握
アンケート調査	日程	・12月頃の実施を予定しています。
	対象	・実証校の教員・生徒
	備考	・全地域共通のアンケートを実施します。アンケートの集計は弊社が行います。 ・個人・実証地域を特定した分析は行いません。 ・集計した結果は、自地域のデータのみ提供します。各地域独自で分析していただいても構いません。
ヒアリング調査	日程	・12月頃の実施を予定しています。
	対象	・教育委員会実務担当者 ・実証校で本プロジェクトを担当している教員
	備考	・本年度の取り組み結果や課題などについて、把握します。 ・本ヒアリングとは別に、事業計画書・本会議での発表内容を踏まえ、本年度の取組内容について確認するプレヒアリングを検討しています(7～8月頃の予定)

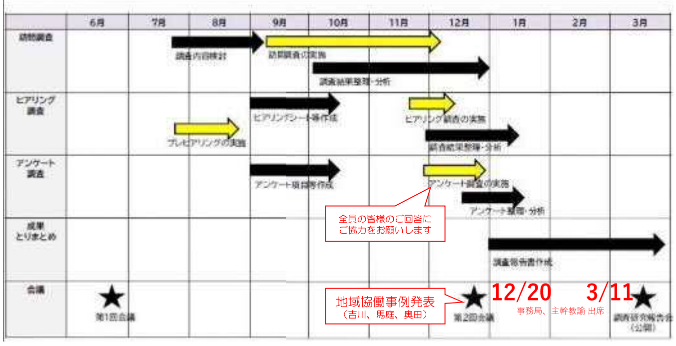
※これらの調査のほか、別途調査にご協力いただく場合がございます

（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

31

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

今年度の取組スケジュール(案)



（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

32

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

年月	実施スケジュール（案）	機器整備スケジュール（案）
3年5月～7月	●各校への事業説明・ヒアリング ●文部科学省との委託契約締結 ●各校コンソーシアム役員会 ●各校で地域課題解決型学習を実施	
8月	●第1回４校運営調整会（事業全体説明、教育センター）	〇スタート用機器の調達開始（教育指導課） 〇マイクスピーカーの先行配布（津和野高校）
9月	●配信の試行（教育センター－津和野高校） （ソフト・ハード面での課題等把握、公開授業に向けての動作確認） ●ＣＩＯ協議(配信試行を踏まえた環境検討) ●各校で地域課題解決型学習を実施 ~~●第2回運営調整会~~ ~~・津和野高校での配信試行報告~~ ~~・公開授業について~~ ~~・構成校への配置及び試行について~~	〇スタート用機器の調達、各校送付（教育指導課） 〇配信試行（教育センター）用機器の調達（教育指導課） 〇スタート用機器の配置、動作確認（津和野） 〇配信試行機器の動作確認（教育センター） 〇配信試行のタイミングで各校の追加機器の決定 （各校－教育指導課協議）
10月	●配信の試行（教育センター－構成校）（ソフト・ハード面での課題等把握） ●コンソーシアム役員会（各校） ●グランドデザインＰＤＣＡ研修 ~~●オンライン探究支援システムの活用試行（津和野・吉賀）~~ ●各校で地域課題解決型学習	〇追加機器の調達 〇スタート用機器の配置、動作確認（構成校） 〇追加機器の配置、動作確認（構成校）
11月	●探究学習中間発表会（各校または地域） ●訪問調査（公開授業、地域協働学習（益田高校）） ●各校で地域課題解決型学習	

33

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

年月	実施スケジュール（案）	機器整備スケジュール（案）
12月	●ヒアリング調査 ●第2回運営調整会 ・配信(センター→津和野、益田→津和野)の報告と協議内容の共有 ・12/7 文科省とのヒアリング内容の共有 ・配備機材等の追加検討　・その他 ●主幹教諭会 ●配信の試行（益田高校－江津、吉賀）①インフラ関係（指導課、CIO協議） ●学校評価アンケート ●各校で地域課題解決型学習 ●受信校において該当科目履修予定生徒に対する遠隔授業説明 ★スポット配信　★次年度協議	●通信設備の追加配備の検討
4年1月	●配信の試行（情報） ●配信の試行（益田高校－各受信校：適宜）②指導関係（センター） ●各校選択科目希望調査 ●各校で地域課題解決型学習の実践 ★配信担当教員、受信校担当教員研修 ★スポット配信　★次年度協議	●機材の追加配備の検討
2月	●年度末事業評価の作成 ●しまね探究フェスタ（探究学習発表会）（生徒・大人） ●配信校・受信校の時間割調整 ●コンソーシアム役員会（各校）	
3月	●第３回４校運営調整会 ・年度末事業評価報告 ・次年度の計画 ・受信校、配信校の指導体制について ・遠隔授業に関わる研修 ●配信担当教員、受信校担当教員研修（視察） ●ICT支援体制協議 ●新年度の体制準備	

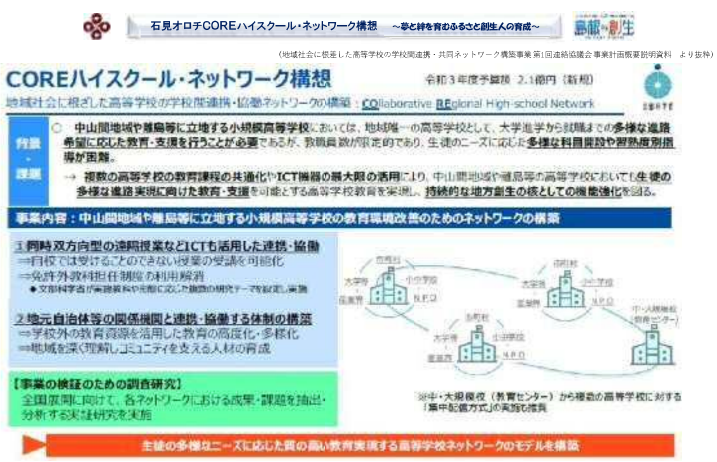
34

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

益田高校
いろんな教科を　わかちあう環境から　みんなで探究！
吉賀高校
石見オロチＣＯＲＥ
ハイスクールネットワーク構想
～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
４校運営調整会
（第３回）
令和4年3月17日11:30～
江津高校
津和野高校

1

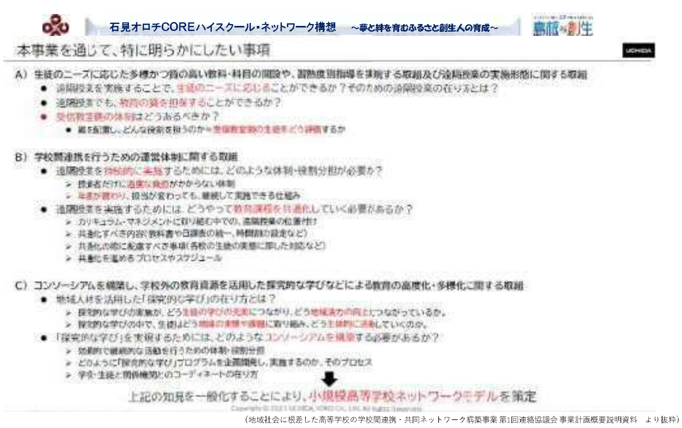
石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本日の流れ
・目線合わせ
・事業成果報告会（3月)報告
・来年度の取り組みについて
・事業評価委員ご助言
・その他
(次回の日程など)
2


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）
COREハイスクール・ネットワーク構想
令和３年度予算額　2.1億円（新規）
地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築：COllaborative REgional High-school Network
背景・課題
事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築
１同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働
２地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築
【事業の検証のための調査研究】
生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

3

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
事業目的・研究テーマの確認
①教育課程を共通化し、同時双方向型の遠隔授業などにより
自校では受けることのできない授業の受講を可能にすること
実証地域
②地元自治体等の関係機関と連携・協働体制を構築することにより、
地域課題の解決等に関する探究的な学びを提供する複数の高等学校の連携によるネットワークを
構築すること
①、②を実現することで
「持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化」
を図る
実証地域の取り組みを調査し、その成果や課題を分析することで、
小規模高等学校ネットワークモデルを提案し、その成果を全国に普及する
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

4


石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
本事業を通じて、特に明らかにしたい事項
B）学校間連携を行うための運営体制に関する取組
C）コンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組
上記の知見を一般化することにより、小規模高等学校ネットワークモデルを策定
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

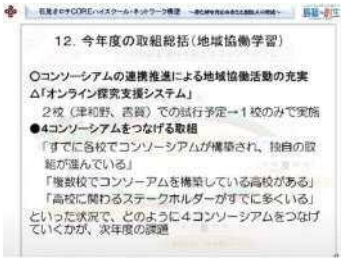
5

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
COREハイスクール・ネットワーク ロードマップイメージ
令和3年度
（1年目）
令和4年度
（2年目）
実践の蓄積
令和5年度
（3年目）
モデル事例の確立
（地域社会に根差した高等学校の学校間連携・共同ネットワーク構築事業 第1回連絡協議会 事業計画概要説明資料　より抜粋）

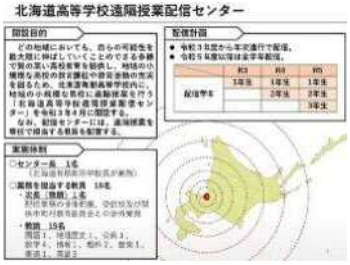
6

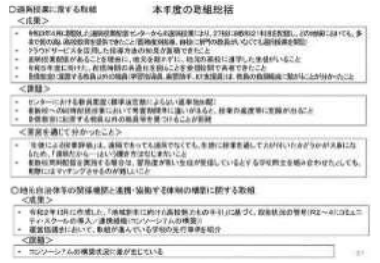
本日の流れ

- 目線合わせ
- 事業成果報告会（3月)報告
- 来年度の取り組みについて
- 事業評価委員ご助言
- その他
  （次回の日程など）



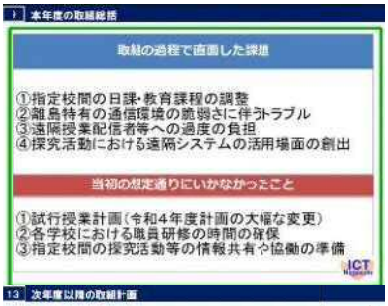
13

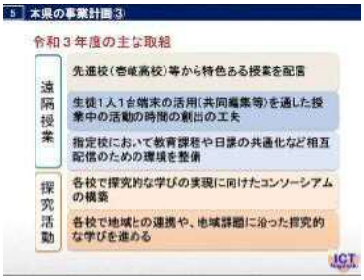


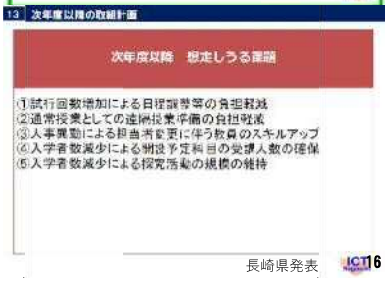


14

15







長崎県発表

16

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育む ふるさと創生人の育成～

- **授業評価等について（北海道）**
  受信校と場面を確認（シラバス等で）
  遠隔授業は多くても10名程度
  遠隔授業は対面授業と遜色ない形で
  受信校教員との生徒情報共有、受講情報の共有
  受信校ははっきりとしたリアクションが大事
- **定期考査の是非（北海道）**
  受信校で判断、作問は配信校も手伝う
- **事業変更の理由（長崎県）**
  配信のスキルを上げるため
  地理、日本史、世界史の人事配置を各校にそれぞれ配置し、同じ学校（チーム）として取り組む
- **人事配置計画について（荒瀬委員長）**
  人事配置は大人の都合。こどもの学びを主眼におくことが必要。
  こどもがどう学ぶのか、何を身に付けるのか、それを地元でも学べるのか、ということが最も重要ではないか。

17

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想 ～夢と絆を育む ふるさと創生人の育成～

運営指導委員コメント

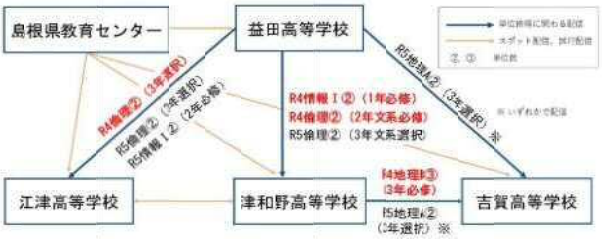
- **大辻雄介先生**
  オンラインによる探究活動の可能性
- **荒瀬克己先生**
  遠隔授業から学びを深める信頼関係
- **東原義訓先生**
  生徒のニーズの確認、実技教科ができないと決めつけないで
- **岡崎エミ先生**
  小規模校の困り感≠経済的な効率、5人以上は対面（高知県）という
- **貞広斎子先生**
  失敗を恐れず試行錯誤を認める＋最終年度に向けての構築
- **北村善春先生**
  学校の教育課程デザインにこの事業を対応させる（校内の理解）

18

本日の流れ

- 目線合わせ
- 事業成果報告会（3月)報告
- 来年度の取り組みについて
- 事業評価委員ご助言
- その他
  （次回の日程など）

・**遠隔授業配信**



・**地域協働学習**

○「オンライン探究支援システム」の４校での試行
○津和野高校、吉賀高校２校での探究学習授業の実施
○４コンソーシアム連絡会の実施

オンライン探究支援システム　①

オンライン探究支援システム　②

＜津和野高校＞

「オンライン探究支援システム」構築に向けた試行

津和野高校２年生キャリアワークショップ

日　時：　令和３年11月10日（水）　12:20～16:15
（11月５日　大学生事前研修）

参加者：　津和野高校２年生
（文系コース・理数コース29名）
大学生29名

目　的：　進路選択を前に自らの進路イメージを広げ、自らの興味関心・学びたいことを振り返り、進路選びにおいて大事にしたい要素を言葉にする

内　容：　大学生と１対１で、進路に関する対話を行う

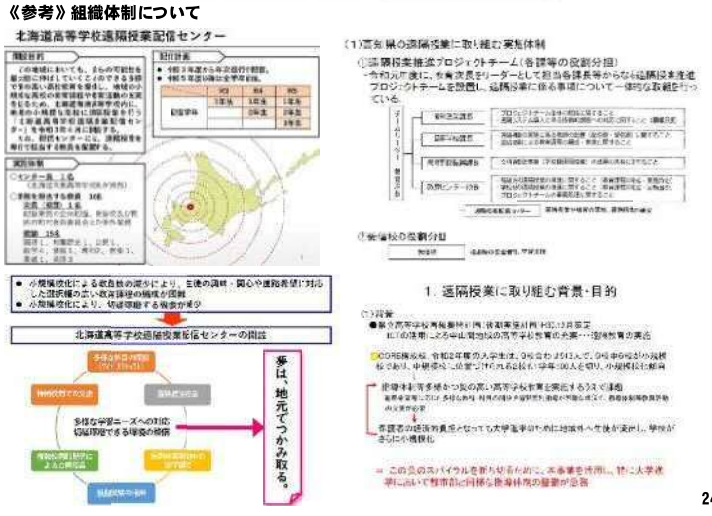
＜４校＞

・３月　Ｒ４年度　「オンライン探究支援システム」試行に関する説明、ヒアリングの実施

↑ 構成メンバーについて・・・4月4日までに柳楽までご提出ください。

・4校運営調整委員・配信担当教員・受信教員（担当、組織など）・４コンソーシアム委員

《参考》組織体制について



1．本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

（1）学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			3.0以上	3.2以上
実績値				
指標のための測定方法及び指標	遠隔授業に対する授業アンケート（各学期）から、各観点別評価の項目に係る質問（4～1）に対し肯定的な回答をした生徒の割合（配信科目受講生徒平均）　（4点満点における80%の3.2が最終目標値）			

成果目標①：　取組を通じて育成を目指す資質・能力（地域愛の醸成）に関する生徒の意識変容

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			75.0%	75.0%
実績値	71.3%	69.0%		
目標設定の考え方	高校魅力化アンケートの質問項目「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合（4校平均）			

成果目標②：　取組を通じて育成を目指す資質・能力（主体性）に関する生徒の意識変容

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			62.0%	65.0%
実績値	59.0%	60.8%		
目標設定の考え方	高校魅力化アンケートの質問項目「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ考える学習に対して、熱心に取り組んでいる。」に肯定的な回答をした生徒の割合（4校平均）			

成果目標③：遠隔授業に対する生徒の満足度の変容

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値			3.0以上	3.2以上
実績値				
目標設定の考え方	遠隔授業に対する授業アンケート（各学期）から、授業満足度（4～1）に対し肯定的な回答をした生徒の割合（配信科目受講生徒平均）（4点満点における80%の3.2が最終目標値）			

活動指標①：遠隔授業の公開授業時数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0			
見込み		4	4	4
活動指標の考え方	校外に対する遠隔授業の公開授業の時数			

活動指標②：成果発表の場の回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0			
見込み		1	2	4
活動指標の考え方	構成校以外の学校等を対象とする成果発表の場の回数			

●配信担当予定者研修会
日時：3/30(水)9:30～12:00
場所：島根県教育センター
講師：中村怜詞先生
（島根大学）

●時間割について
（益田高校：武藤先生）

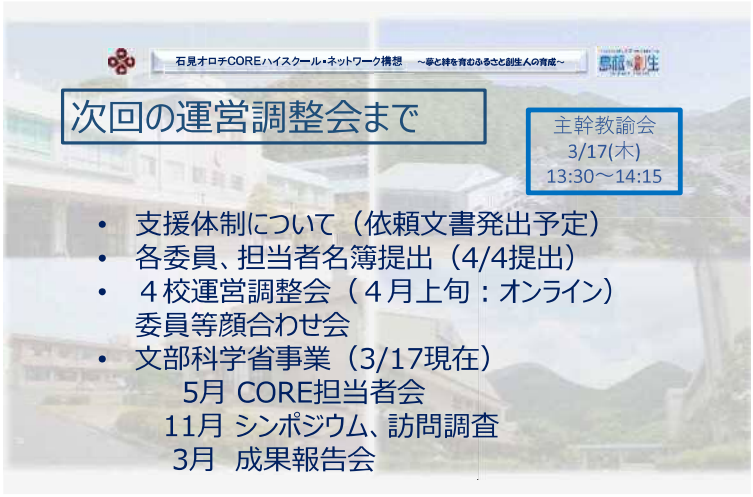
本日の流れ

・目線合わせ
・事業成果報告会（3月)報告
・来年度の取り組みについて
・事業評価委員ご助言
・その他
（次回の日程など）

本日の流れ

・目線合わせ
・事業成果報告会（3月)報告
・来年度の取り組みについて
・事業評価委員ご助言
・その他
（次回の日程など）

※計画（予定案）です

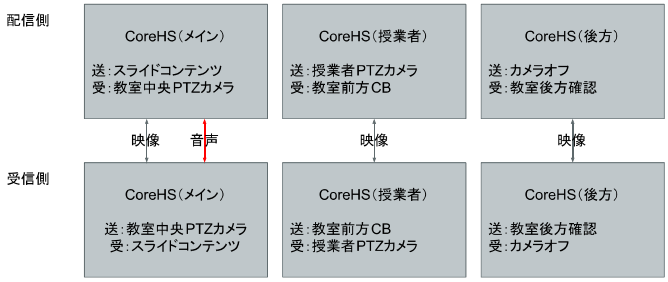

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想　～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～
次回の運営調整会まで
主幹教諭会
3/17(木)
13:30～14:15
• 支援体制について（依頼文書発出予定）
• 各委員、担当者名簿提出（4/4提出）
• ４校運営調整会（４月上旬：オンライン）
委員等顔合わせ会
• 文部科学省事業（3/17現在）
5月 CORE担当者会
11月 シンポジウム、訪問調査
3月 成果報告会

30

Core High School

Meet接続方法

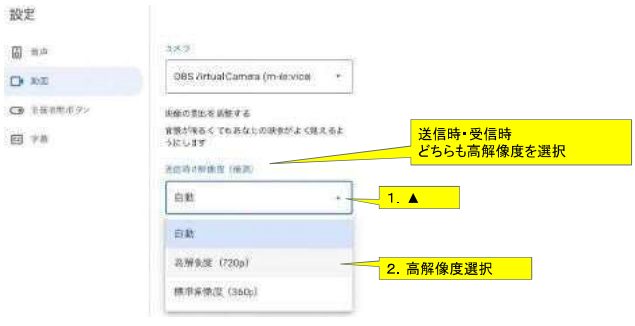
3つの接続方法



ポイント1：マイク・映像のオン・オフ

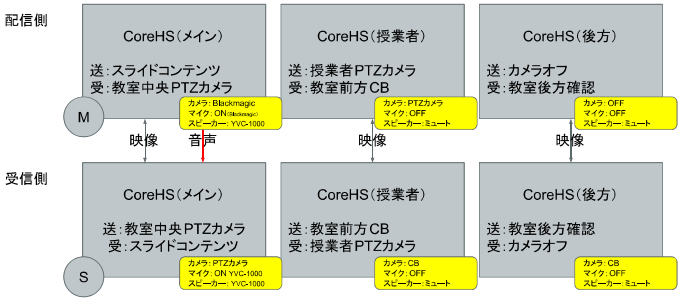
ポイント2：カメラの切り替え

ポイント3：カメラ解像度の設定



ポイント4：配信音声の切り替え

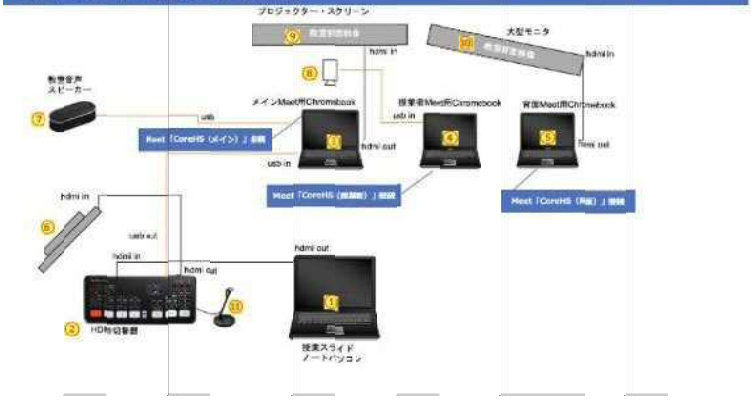
3つの接続方法



ATEM mini

Coreハイスクール　配信システム（並田高校）

Coreハイスクール　配信システム（並田高校）



配信側：メイン

配信側：授業者

配信側:後方

受信側:メイン

受信側:授業者

受信側:後方

効果的なICT活用授業

島根大学教職大学院　准教授　中村怜詞

本日のお品書き

①色々なアプリと特徴

- スプレッドシート～ジャムボードまで

②活動とアプリの組み合わせ

- 思考とアプリ
- 様々な組み合わせを考える

演習・実践

効果的な遠隔授業

STEP0：環境整備

＜配信側＞

☑高性能マイク、スピーカー、カメラ
☑高性能PC
☑ネット環境
☑大画面モニター（受講者状況確認用）

機器構成（高知県教育センター）　配信側（授業者）

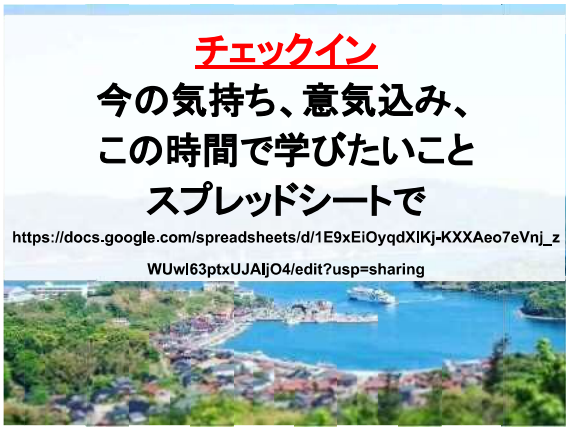
STEP0：環境整備

＜受信側＞
☑高性能マイク、スピーカー、カメラ
☑高性能PC
☑ネット環境（1人1台PC用にWIFI）
☑大画面モニター複数（授業者、資料など投影）

27

STEP1：まずは使いましょう

- スプレッドシート
- ジャムボード
- スライド
- フォーム



スプレッドシートの効果的な使い方とは？

ジャムボードを用いてアイディア出しと整理をしましょう
https://jamboard.google.com/d/1sM6HJhBqBtOzN0hXk4Exphwdp1R0eQvtkg0qlH9x8B0/edit?usp=sharing

スプレッドシートとジャムボードの使い分けはどうする？

スライドを使ってチームの考えを整理してみましょう

https://docs.google.com/presentation/d/1mNW7NY-6U3kA5n_yyEFKtJ9i8aIAU5na6i9T1ouaD8w/edit?usp=sharing

ここまでのアプリについて感想を教えてください。

フォームでアンケートにお答えください。
https://forms.gle/FrKPTf9DVqqXZ42r6

アプリの様々な使い方

スプレッドシート

受講番号	本日学びたいこと	理想
1	他者、特に地域との関わりについての具体的な方策 地域連携をするに当たっての継続的な運営	物事に対して多面的に考えることができる生徒 全教室電子黒板 ネガティブな発言をしない教員集団 教員の間違いを許容できる生徒集団
3		
4	学校・地域との連携を進めるうえで大切なこと。	自分で考えて行動できる児童 先生の出番の少ない授業 広い教室、校舎、校庭や快適なICT環境
5		社会で自立し続ける生徒。楽しく学び、大学受験合格できる授業。
6	キャリア教育の視点におけるコミュニティ	一生懸命を楽しめる生徒、感謝できる生徒、教師も生徒も一緒に思い切り活動
7		地域で活躍できる児童
8	"地域連携"と盛んに言われますが、具体的にどういう事例があるのか、それを自分の学校でどのように応用できるのか、などを考え、学びたいと思います。	自然と学びたくなってしまいたくなるような生徒。勉強するのが楽しいと思ってくれる生徒。悩みを気軽に語り合える職場環境。
9	言葉の意味と具体的な指導の方向性 組織としての推進方法	夢を語り合い、高め合える生徒集団 学校生活が幸せで、未来を幸せに生きるための準備の場
10	地域との関わりの中での学校の在り方や、授業や学校組織に活用できるようなヒント	感謝を忘れない生徒　自分の考えを自分の言葉で表せる授業
11	地域連携推進教師という立場でもあるため、連携を進める上で大切なことは何か、どう推進していくのか、どう先生方を巻き込んでいくのかを学びたい。	心身ともに健康な子、ひたすら遊べる大きい体育館が欲しい、学び合える教師集団。

スプレッドシートの特徴

テキスト入力

- ある程度の文章量を入力させたい
- テキストを一覧で見たい
- 多様な考えの表現

比較

- 学習前後の比較
- 他者との比較

学習前後の比較

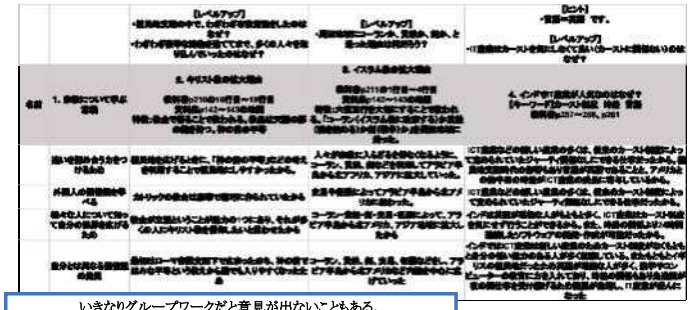
	探究的な学びとは（授業開始時）	探究的な学びとは
1207002	生徒が自分の学習の位置を把握し課題解決を積極的に行うこと	地域社会について自ら課題設定を行いその問いについて「自分であればどうするか」について考える。それを実行し次は何が必要なのかを繰り返し行う。
1207030	自分の持つ課題に対して主体的に調べたり考えたりして学ぶこと	自分の生き方を考えるうえで出た問に対する解決策を見出し、実行すること
1207039	自ら疑問に思ったことを解決するために進んで調べ学ぶこと	答えのない課題に対して自ら課題を設定し自ら解決策を考え、社会をよくするために貢献する
1207045	自分自身で課題を見つけて解決方法を考えること	地域や社会の中に入りながら、自身とのかかわりを見つめ、自分なりの答えを導き出すこと。
1207048	自分自身で考え、いろいろな資料を使って調査・思考し、知識を身につけること。	自分の身の回りから興味のある課題を見つけ、根拠をもって自分なりの答えを導き出すこと
1207061	探究的な学びとは自分で課題を見つけ解決に向かう学び	社会と自分にかかわりがある課題を見つけ出し、答えのない課題に自分なりの答えを出すこと
1207067	自分で興味を持ったこと疑問に思っていることを課題として設定し、学ぶこと。	地域など自分の身近なところから課題を設定し、調べ学習に留まらず自分なりの解決策や結果を出す。
1207075	自分たちが知りたいことや、やりたいことに関して自分で調べる学び	自分で課題を設定してそれを達成するためのサイクルを繰り返し行う 答えのない問いに対して自分なりのアプローチの仕方を考える 教員の立場としては生徒に課題を与えるのではなく生徒に対して手助けをおこなう
1207078	自身で疑問に対して追求する学び	他者と考えを共有して分析し、問題解決に向けて自主的に活動を続けていくこと
1207089	課題を自ら設定して教えられるものではない学び	答えのない事柄に対して自ら課題を見出し社会に参加しながら自分を高めていくこと。
1207102	生徒が自分で課題を決めて調べたりしながら解決していく学び	生徒自身が興味を持つものについて学んでいくこと。 その学びを通して、生徒が自分なりの答えや自信を得られるもの。
1207115	興味を持ったことに関して自分で調べる学び	自ら課題を設定し、それを解決するために自分なりの答えを見つけられるようになること。
1207124	-教科書の内容を超えた応用的な学び -社会生活に深く関わる学習	自分の興味関心があり、社会や生き方とも関係する課題を自ら設定し、自分なりの答えを決められた時間内に導き出せるような学び。

他者との比較

関数を組めば自動で文字数をカウントしてくれる

名前	回答欄	文字数
	人間存在の証明。利便性を求め続ける人間の営みは臨界点に達しているのでは？終身雇用、老後の安定などの日本式の価値基準というレベルではなく、その場所で、[より人間らしい営みをして生きるため]に、技術や知識は「生かす」時代になっている。	115
	高齢化が進み、これまでの常識が通用しなくなってきている。その社会の変化に柔軟に対応しなければならないため。AIの発達により、人間ができる職業が減ってくるため、学び続けないと働き口がなくなることが予想される。	103
	これからの社会は、長寿社会かつ生産人口が減ってきている。生活水準を維持するためには、年を取っても働き続ける必要がある。さらに社会の変化に対応できる力を身につけることが大切である。	89
	常に変化し続けている社会の中で、これまでのような安定した人生、生活を求めるのは不可能であろう。社会の中で生きるためには、自分自身も変化することが求められる。	78

多様な考えの表現、引き出し



いきなりグループワークだと意見が出ないこともある。
自分の回答欄があると意見を書きやすい

スプレッドシートとチャットの違いは？

スプレッドシートとチャットの違い

スプレッドシート	チャット
各自の入力状況把握可	気軽に入力
一覧で表示	流れていく
一定の時間を確保	短時間で使用できる

ジャムボードの特徴

フォームの機能

テストの作成

https://forms.gle/erUcaxk3kn3wwzTMA

STEP2：ICTの3つの効果

Active：主体的、対話的で深い学び
- 動機付け、構成的な学びなど

Adaptive：個別最適な学び
- 指導の個別化と学習の個性化

Assistive：個に応じた支援
- 評価、フィードバック、伴走

何がおかしい？

構成的な学びとは？

これから社会で必要な力

学び続け、変化し続ける力

何故この力が必要？

スプレッドシートに120字以内で入力してください
10分
https://docs.google.com/spreadsheets/d/1dlJfqzrIIRgxHAUp6WzA-bn_VM7OVMEk8zZaIU2rOB0/edit?usp=sharing

練習問題

人生100年時代

現在の高校生世代は平均寿命が90歳を超えるという試算がある。一方で、年金の受給は70歳代後半までずれ込む可能性もあり、引退後に生活水準を維持しようとすると、2000万円以上の貯蓄を持つか、80歳頃まで働く必要性がある。仮に80歳まで働くことを考えると、80歳まで社会から求められる人材であり続ける必要がある。しかし、20歳から80歳までの人生の大半を仕事だけに捧げ続けることが幸せかどうかは分からない。長い人生の中ではリタイアし、学びなおしてからまた働くというサイクルが重要になってきそうだ。また、企業の平均寿命は15～20年であり、長く働こうと思っても、1つの企業で一生を終えることは簡単ではない。(配布資料)

安定の定義

この1年間で大手企業を辞めて、派遣会社に転職する人が急増している。NECなど大手企業に勤め、30代で年収700～800万円を稼ぐような、いわゆる「勝ち組」の人たちが人材派遣会社に転職している。大手でずっと同じ仕事をしているよりも、最先端のプロジェクトに飛び込み続け、多様な人材と交流し、成長し続ける方が、長い目で見ると安定していると考える人が増えている。これまでは良い大学を出て、いい会社に勤めることが安定だったが、現在は最前線で学び、成長し続け、多くの資質・能力を獲得していく方が安定なのである。学歴社会は終わり、学習歴の社会が到来している。(配布資料)

回答例

AI時代に単純労働はなくなっていき、ロボットには出来ない技能を磨き続けていく必要がある。一方で寿命の延びに伴い、生活を維持するためには、学びなおしなどを適宜挟みながら80歳頃まで働き続ける必要がある。働き方も柔軟になり、1つの会社に勤め続けるよりも多様な業務を経験して学び続けることが次のキャリアを形成する。(117字)

まとめ、表現する活動の価値

知識統合
- 学んだことが繋がって「使える」知識になる

深い理解
- 分かったつもり → 分かった

地頭が良くなる
- 言語能力の向上

学習タイプ

2017.8. 11 読売新聞朝刊より作成

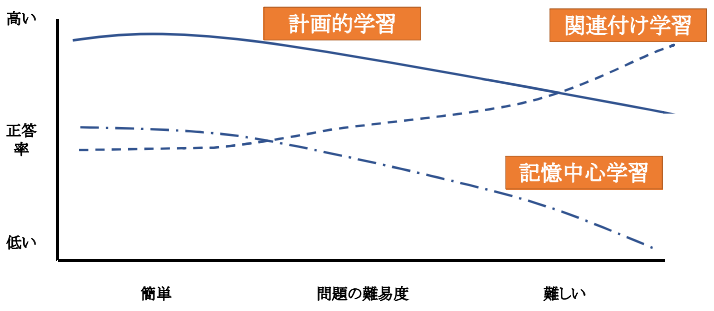
計画的学習
- 自分で目標を決め、優先順位を自分で考えて計画を立て、振り返り見通して進捗状況を管理しながら効率的に学ぶ

記憶中心学習
- 演習やドリルなど繰り返しが中心。質よりも回数や問題数を重視する

関連付け学習
- 図形の勉強で図画工作を思い出すなど、新しい知識を既知の知識や他分野の知識・情報、体験などに結び付ける。理解を強化し、記憶の定着も促す

学習戦略と成績の関係

2017.8. 11 読売新聞朝刊より作成



知識のネットワーク化 ＝ 言語活動

①順序付ける
②比較する
③分類する
④関連付ける
⑤多面的、多角的に見る
⑥理由づける
⑦見通す、結果を予想する
⑧具体化する
⑨抽象化する
⑩構造化する

各教科特有の見方・考え方を駆使

アウトプットが鍵

そもそも知識の習得とは？

どっちが再現力が高い？

チェスの棋譜を再現するテスト

A：ハーバード大学の学生
　チェス歴なし。成績最上位。記憶力抜群

B：10歳の子ども
　チェス歴5年。成績中の中。記憶力は平均的

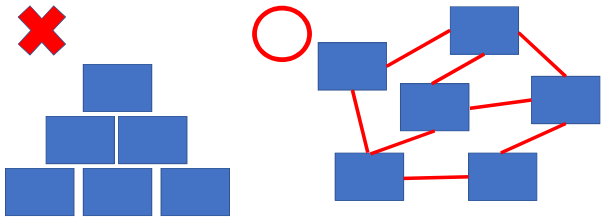
知識の習得力

これまでに蓄積されてきたその分野の知識や経験に左右される。

その分野における知識を習得しているほど学習力は高くなる

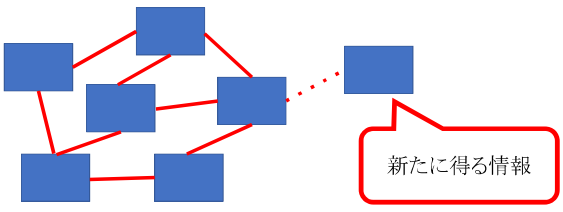
知識はどう構成される？

従来の知識感：基礎から応用へとピラミッド的に積み重ねる
最新の知識感：ネットワーク型で基礎、応用の区別はない



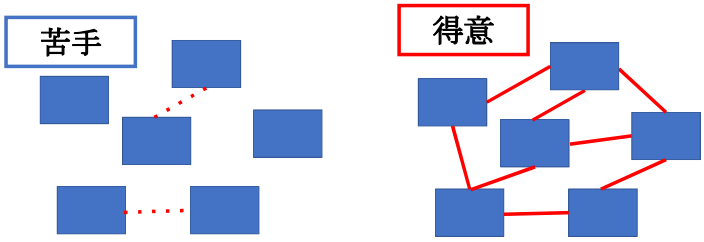
知識はどう構成される？

知識はネットワーク
これまでの知識と接続することで知識を形成していく

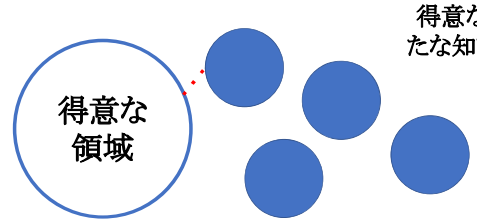


得意な分野と苦手な分野

知識が互いに結びついていて、忘れにくい、すぐに活用できる、組み合わせて応用できる＝得意



得意を伸ばす重要性



ネットワーク化された得意な分野には新たな知識を紐づけやすい

ある能力が伸びると他の能力も伸ばす（汎化）が起きる

好きは努力に勝る

- 脳は好きなものを積極的に取り込む
- 嫌いなものはストレスにより脳が委縮する

好きなこと、興味があることを探究し、得意な分野を創る

学んだことを言語化するのが苦手な子どもをどう支援する？

Adaptiveな学び

指導の個別化

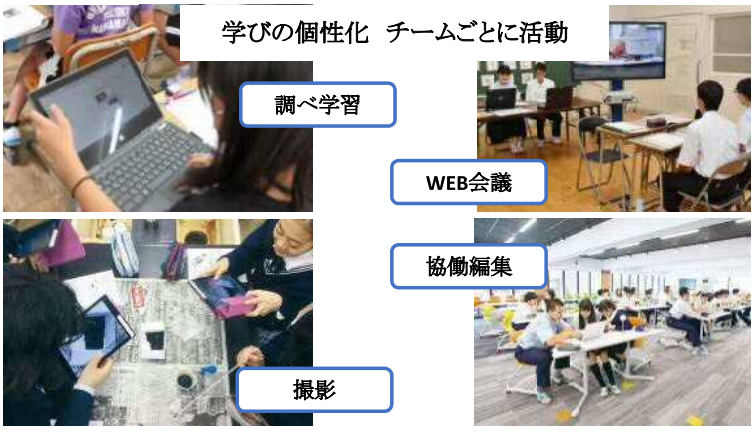
- AIドリルなど個の進捗状況や達成状況に応じた学び

学びの個性化

- 科目選択、探究学習など個の目的や興味に応じた学び

指導の個別化（まつり縫い）

学びの個性化　チームごとに活動



こんなときどうする？①

用意していたスライドだけでは生徒が理解できないとき。

こんなときどうする？②

こちらの音声が相手に届かない

こんなときどうする？③

相手の音声がこちらに届かない

こんなときどうする？④

生徒が理解できているかどうかを把握したい時

こんなときどうする？⑤

生徒がグループ活動してどのような対話がなされたのかを把握したい時

教材を作成してみましょう

最初の授業で何か1つアプリを使用して、「深い学び」、「生徒の状況把握」などを実現する活動を設計してください。

３　遠隔授業試行

令和４年度からの遠隔授業の本格配信に向け、本年度は、試行配信、関係機材の配備、通信環境の整備を中心に取り組んだ。事務局主管の試行配信は、下表のとおりである。試行前に高知県教育センターを視察して遠隔授業についての具体的な取組を参観し、それを受けて、島根県教育センター内で試験的に配信を行った。本県の遠隔配信については Google Meet の会議システムを用いることとした上で、７月のプレヒアリングの際に１人１台環境での遠隔授業配信について依頼されたため、当初は本県で唯一１人１台環境での教育活動が行われている津和野高校において試行配信を行った。また、生徒が入らない形で、適宜各校間で簡易的に配信練習を行った。

遠隔授業の試行に際しては、配信校である益田高校の武藤主幹教諭だけでなく、教育センターの高田企画幹、大屋指導主事、事業評価委員である公立鳥取環境大学の千代西尾教授、島根大学の中村准教授、そして、事務局の事業担当である柳樂指導主事などが授業を行い、遠隔授業について理解を深めることに加え、各校の遠隔授業の校内研修として位置づけることとした。

年月	科　目	配信校	受信校	授業者	担当（役職）
	試行配信の主な目的				
R3.9	英語Ⅰ	教育センター	津和野高校	高田純子	事務局（教育センター企画幹）
	遠隔授業の理解、遠隔機器の確認				
R3.11	倫理	益田高校	津和野高校	武藤立樹	配信校（益田高校主幹教諭）
	スライドを中心とした遠隔授業と機器の確認				
R4.1	社会と情報	教育センター	津和野高校	大屋純一	事務局（教育センター指導主事）
	実習における遠隔授業、受信校の通信環境等確認				
R4.2	地理Ｂ	教育センター	吉賀高校	中村怜詞	事業評価委員（島根大学准教授）
	Web アプリを活用した授業、受信校の通信環境等確認				
R4.2	数学Ａ	益田高校	江津高校	柳樂淳一	事務局（教育指導課指導主事）
	Web アプリを活用した授業、配信校の通信環境等確認				
R4.3	理科基礎	益田高校	江津高校	千代西尾祐司	事業評価委員（鳥取環境大学教授）
	協調学習における遠隔授業、受信校の通信環境等確認				

９月と 11 月の２回の試行配信を行う中で『遠隔教育システム活用ガイドブック第３版』（内田洋行総合教育研究所）を参考にした機器整備を行うこととした。また１月の「社会と情報」におけるプログラミング実習において Web アプリの活用によって円滑な実践が見込めたことから、令和４年度は次のような配信環境を計画した。ただし、人事異動が不透明であること、担当する教員が Web アプリについて不慣れである可能性があることを考慮し、ペーパーベースでの協調学習等にも対応できるよう、ホワイトボード等を用いた遠隔授業形態についても含みを残すように、機器整備を検討している。

【令和 4 年度配信環境計画】

1．環境

(1) 配信の授業環境

・配信側（授業者）当該教科の教員 1 名

・受信側（生徒）　生徒 選択者または 1 クラス（10～40 名の生徒を想定)、授業補助者

2．配信に使用する ICT 機器

ICT 機器等	主な種類	台数
遠隔教育システム	Web 会議システム：Google Meet	3 回線
	PC 端末：Dell Chromebook 3110	2 台
	PC 端末：Apple iPad Wi-Fi256GB	1 台
カメラ	専用カメラ：Logicool PTZ PRO 2	1 台
	映像スイッチャー：Blackmagic Design ATEM MINI PRO	1 台
マイク･スピーカー	指向性マイク：LINE6 XD-V35	1 台
	無指向性マイク：YAMAHA YVC-1000	1 式
	スピーカー：YAMAHA Stagepas 400BT	1 式
大型提示装置	プロジェクタ：EB-725WI	1 式
	ボードスタンド：IWS-10EF3	
	大型ディスプレイ	1 式
生徒用情報端末	PC 端末：Dell Chromebook 3110	生徒人数分
	R4 からは BYAD による生徒端末	生徒人数分

3.　接続方法

(1) 講師－教室接続型

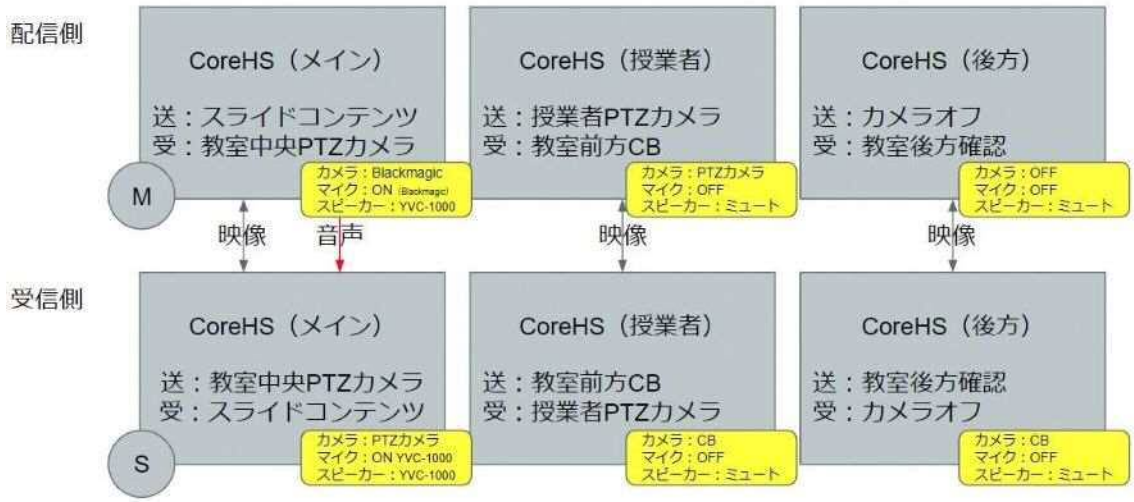
益田高校（講師）　→　津和野高校（教室）

益田高校（講師）　→　江津高校（教室）

津和野高校（講師）　→ 吉賀高校（教室）

4．機器構成（配信側、受信側）

5．機器構成（Google Meet の接続）



6．ネットワーク

(1) ネットワークについては、遠隔教育システム用に独立したものとはせず、学習系ネットワークを用いた無線接続を使用している。

(2) 通信速度や画像等の品質については現段階においては良好であるが、一人一台端末の整備が R4 に１年生から年次進行により行われることから、使用帯域などを確認しながら行う必要がある。

7．著作権

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）へ補償金を支払い、個別の許諾を必要としない形で実施する。なお、補償金は島根県教育委員会（設置者）が支払う。

Hello! Tsuwano High School

□文字がはっきりと見える
□音声がはっきりと聞こえる
□先生とやりとりができる
　□先生からの問いかけが分かる
　□反応を示すことができる
□ペアワークが機能する
□グループワークが機能する

Instructor: TAKATA Junko

Today's topic : NAGATOMO Yuto
in his junior high school days.

☆ From Ehime pref.
in Shikoku

☆ Four members in his family:
His mother, his older sister,
his younger brother, and him

☆ When he was 12, he tried to join the junior youth team of Ehime FC, but he couldn't pass the test.

instead

☆ He joined the soccer team at his junior high school.

・didn't practice very hard
・often went to a video arcade

One day, ・・・

After that, ・・・

Have you ever thought of your mother?
Don't disappoint her.

Do you remember the story?

セリフを自由に考えて

Reading Practice①

NagatomoYutowasborninEhime
in1986Whenhewasninehispare
ntsdivorcedHismotherbegantow
Orkfrommorningtillnightinordert
oraiseherthreechildren

Reading Practice①

Nagatomo/Yuto/was/born/in/Ehime
/in/1986//When/he/was/nine/his/pare
nts/divorced//His/mother/began/to/w
ork/from/morning/till/night/in/order/t
o/raise/her/three/children//

Reading Practice②

At the age of twelve, Nagatomo tried to join the junior youth team of a famous soccer club in Ehime, but he failed. Instead, he joined the soccer team at his junior high school. However, the team did not practice very hard. Nagatomo often went to a video arcade with other members. One day, the soccer coach appeared at the video arcade and scolded all of the members. He said to Nagatomo in a concerned voice, "Have you ever thought of your mother? Don't disappoint her!" After that, Nagatomo began to practice soccer very hard

Reading Practice②

At the age of twelve, Nagatomo tried to join the junior youth team of a famous soccer club in Ehime, but he failed. Instead, he joined the soccer team at his junior high school. However, the team did not practice very hard. Nagatomo often went to a video arcade with other members. One day, the soccer coach appeared at the video arcade and scolded all of the members. He said to Nagatomo in a concerned voice, "Have you ever thought of your mother? Don't disappoint her!" After that, Nagatomo began to practice soccer very hard

At the age of twelve, Nagatomo tried to join the junior youth team of a famous soccer club in Ehime, but he failed. Instead, he joined the soccer team at his junior high school. However, the team did not practice very hard. Nagatomo often went to a video arcade with other members

One day, the soccer coach appeared at the video arcade and scolded all of the members. He said to Nagatomo in a concerned voice, "Have you ever thought of your mother? Don't disappoint her!" After that, Nagatomo began to practice soccer very hard

At the age of twelve, Nagatomo tried to join the junior youth team of a famous soccer club in Ehime, but he failed. Instead, he joined the soccer team at his junior high school. However, the team did not practice very hard. Nagatomo often went to a video arcade with other members

One day, the soccer coach appeared at the video arcade and scolded all of the members. He said to Nagatomo in a concerned voice, "Have you ever thought of your mother? Don't disappoint her!" After that, Nagatomo began to practice soccer very hard

Write one sentence of what you've learned today about NAGATOMO Yuto.

For example:
Nagatomo's failure in his younger days and gratitude to his mother made him devote himself to soccer.

言語学オリンピックに挑戦！！【グループ活動】

①スワヒリ語からの問題です。（１）～（６）のスワヒリ語に対応する英語を（a）～（f）から 見つけ、線で結びましょう。

(1) tarehe tatu Disemba Jumamoshi	(a) Monday, October 5th
(2) tarehe tano Oktoba Jumapili	(b) Tuesday, April 2nd
(3) tarehe pili Aprili Jumanne	(c) Wednesday, October 5th
(4) tarehe tano Oktoba Jumatatu	(d) Tuesday, April 4th
(5) tarehe nne Aprili Jumanne	(e) Sunday, October 5th
(6) tarehe tano Oktoba Jumatano	(f) Saturday, December, 3rd

②次の月日をスワヒリ語にしよう。

Wednesday, April 3rd
Sunday, December 2nd

③スワヒリ語について、発見したことを書こう。

ヒント１： 月の名前は英語からきている

ヒント２： 土曜日が週の最初の日である

(1) tarehe tatu Disemba Jumamoshi	(a) Monday, October 5th
(2) tarehe tano Oktoba Jumapili	(b) Tuesday, April 2nd
(3) tarehe pili Aprili Jumanne	(c) Wednesday, October 5th
(4) tarehe tano Oktoba Jumatatu	(d) Tuesday, April 4th
(5) tarehe nne Aprili Jumanne	(e) Sunday, October 5th
(6) tarehe tano Oktoba Jumatano	(f) Saturday, December, 3rd

次の月日をスワヒリ語にしましょう。

Wednesday, April 3rd → tarehe tatu Aprili Jumatano
Sunday, December 2nd → tarehe pili Disemba Jumapili

スワヒリ語について、発見したことを書きましょう。

- **日にちが月の前にくる**
- **曜日が最後にくる→英語とは逆**
- **月の名前は英語に似ている（イギリス植民地の歴史から）**
- **土曜日が週の最初の日である（アフリカ東海岸のコミュニティーへのイスラム教の影響から）**
- **曜日の最後の言葉は数字になっている**

Thank you for joining my English lesson!

※著作権の関係で、教材の一部を左の模様のように加工しています

石見オロチコアハイスクール事業
配信テスト用授業スライド

古代ギリシアの思想

島根県立益田高等学校　　武藤　立樹

本時のねらい

1　哲学とはどのような学問？

2　なぜ源流思想はギリシアで起こったのか？

3　ソクラテス哲学とはどのようなもの？

4　みんなにとって善く生きるとは？

1　哲学とは何か

みんな何を話しているのかな？

1　哲学とは何か

哲学とは万物や人間の根本原理について探究する学問

自然哲学　⇒　万物の根源とは何か探究

哲学　　⇒　よい生き方とは何か探究

1　哲学とは何か

探究　⇒　飽くなき問いへの挑戦

探究　⇒　人間固有の衝動といわれる

我思う、故に我在り（cogito ergo sum）
by Rene Descartes

１　哲学とは何か

前５～前４世紀ごろに
東西（西洋・東洋）で起こった

⇒　【１　源流思想】

このうち西洋の源流思想について今日以降学んでいきます

7

２　古代ギリシア思想

前５～前４世紀ごろに

西洋（ギリシア）で

源流思想が起こった理由は何だろうか？

8

①　古代ギリシア（アテネ）の様子

前５～前４世紀ごろ（ソクラテスの活躍期）のアテネ社会

アケメネス朝ペルシアをペルシア戦争で破る

アテネの社会構成

市民１２万人　在留外人３万人　奴隷８万人

9

①　古代ギリシア（アテネ）の様子

アテネの市民の一日（太田秀通『ポリスの市民生活』）

起床　日の出とともに起床。すぐに朝食を摂る。
朝食　パンにワインを浸して食べる
　　アゴラ（広場・市場）に出かける：女性は外出しない
　　買い物…荷物は家まで奴隷に運ばせる
　　政治議論…アゴラ（広場・市場）の一角で会話
昼食　正午ごろ　簡単なものを食べる
　　体育館・浴場などで過ごす
晩餐　日没後主な夕食を摂る

10

①　古代ギリシア（アテネ）の様子

再び質問です　前５～前４世紀ごろに

西洋（ギリシア）で

源流思想（哲学）が起こった理由は何？

11

①　古代ギリシア（アテネ）の様子

前５～前４世紀ごろ（ソクラテスの活躍期）のアテネ社会

アケメネス朝ペルシアをペルシア戦争で破る
⇒　アテネはギリシアの中心的ポリスとして繁栄

アテネの社会構成
市民１２万人　在留外人３万人　奴隷８万人
⇒満ち足りた閑暇（スコレー）

12

②　自然哲学の萌芽

フィロソファー　　とは　英語で　哲学者のこと

語源である　フィロソフォス　とは
ギリシア語で　知を愛する　という意味

⇒　知ろうとすることが（自然）哲学の基本

13

②　自然哲学の萌芽

哲学とは事物や人間の根本原理について探究する学問

【２　自然哲学】⇒万物の根源（アルケー）とは

哲学　⇒人間にとってよい生き方とは

14

②　自然哲学の萌芽

自然哲学と哲学では

どちらが先に起こったか？

またその理由は何？

15

②　自然哲学の萌芽

身近なもの（万物）の根源を
理(ことわり)に基づき
言葉で説明する

⇒　自然哲学の萌芽

16

②　自然哲学の萌芽

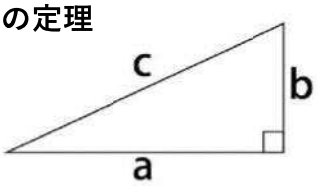
自然哲学　⇒　万物の根源（アルケー）の探究

・タレス：水
・ピタゴラス：数
・ヘラクレイトス：火
・デモクリトス：原子　　など

17

②　自然哲学の萌芽

・ピタゴラスの定理



$$c^2 = a^2 + b^2$$

18

③　ソクラテスの哲学

【3　ソクラテス】は次のような疑問をもった

人間の生き方についても

普遍的な生き方があるのではないだろうか？

※普遍的…いつでも、どこでも、誰にでも

19

③　ソクラテスの哲学

人間の生き方についても
普遍的な答えがあるのではないだろうか？

⇒　人間にとって大切なのは、
「ただ生きるのではなく、
善（よ）く生きること」

21

③　ソクラテスの哲学

善（よ）く生きる

とはどのように生きることだろうか？

22

③　ソクラテスの哲学

「ソクラテスほど知恵のあるものはいない」
…デルフォイの神託

「【4　汝自身を知れ】」
…デルフォイ神殿にきざまれた言葉

23

③　ソクラテスの哲学

自分を含め誰も何も知っていないことを知る
【5　無知の知】を悟ることが重要

無知の知に至るために対話を重ねる

知るために他人と議論を交わす【6　問答法】の実践

24

③　ソクラテスの哲学

問答法に基づき人間の徳【7　アレテー】を探究

※　徳…「善さ・能力・卓越性」
（例）馬の徳…足が速いこと

では、人間の徳とは何か？

25

③　ソクラテスの哲学

ソクラテスの考えた人間の徳とは

第１段階：知識を活用すること⇒【8　知徳合一】

第２段階：善をなすこと
（知識に基づき行動を起すこと）⇒【9　知行合一】

26

③　ソクラテスの哲学

人が悪徳を成すのは徳についての知識不足のせい

自らの魂を傷つけないように
（不善・不正をしないように）
気を配り生きる＝【10　魂への配慮】＝善く生きる

27

③　ソクラテスの哲学

【おまけ】
ソクラテスは
「国家の認める神以外の神霊信仰をもたらし
アテネの青年たちを堕落させた」
として裁判にかけられ死刑を宣告された
この不当と思える判決に対してソクラテスは
どのような行動をとっただろうか？

28

③　ソクラテスの哲学

脱獄を勧める弟子たちに
「悪法もまた法なり」
「哲学は死の訓練」と説き
毒杯をあおり死を選んだ

ソクラテスはなぜ死を選んだのだろうか？

29

③　ソクラテスの哲学

国法を破る（脱獄する）という事で

自らの魂に　不善・不正　という汚点を

残したくなかった

30

③　ソクラテスの哲学

だから、脱獄を勧める弟子たちに
「悪法もまた法なり」
「哲学は死の訓練」と説き
毒杯をあおり死を選んだ

まさに　魂への配慮＝善く生きる　を
貫いた人生であった

31

③　ソクラテスの哲学

あなたにとって

善く生きる　とは

どのように生きることですか？

32

始まるまでに！

1. Chromebookログイン
2. ヘッドセットつなぐ
3. 笑顔で！

社会と情報
プログラミング

配信開始までしばらくお待ち下さい

社会と情報
プログラミング

島根県教育センター　指導主事　大屋純一

島根県教育センター

大屋 純一

人間は一生のうちに
逢うべき人には
必ず逢える
しかも、
一瞬早すぎず、
一瞬遅すぎない時に

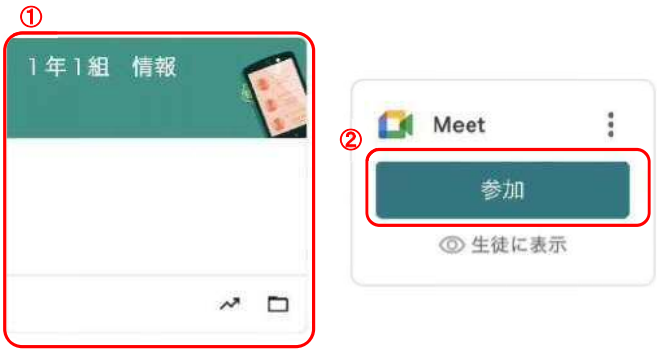
森 信三

この時間の内容

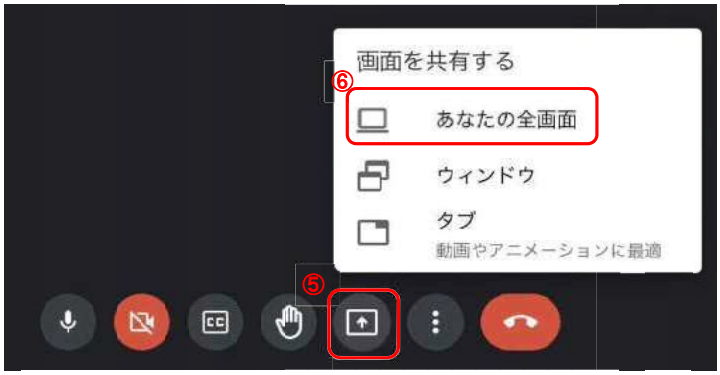
1. 実習環境・遠隔での質問の方法
2. プログラミングって？
3. プログラムを実行してみよう！

1. 実習環境・遠隔での質問の方法

Classroom　1年1組　情報



今はOFF、実際の質問時はON



2. プログラミングって？

プログラミングと聞いて連想することは？

ClassroomからSpreadsheetへ入力

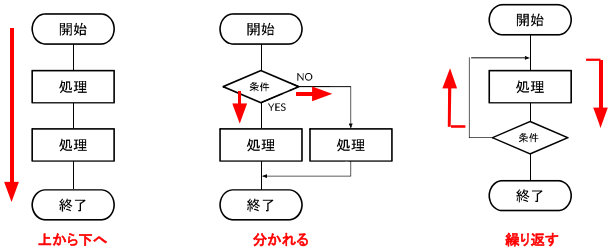
プログラミング

プログラミング　⇒　プログラムをつくること

プログラム　⇒　順番に行うことが書いてあるもの

プログラミングの基本

1. 順次処理　2. 分岐処理　3. 反復処理



HTML/CSS

3. プログラムを実行してみよう！

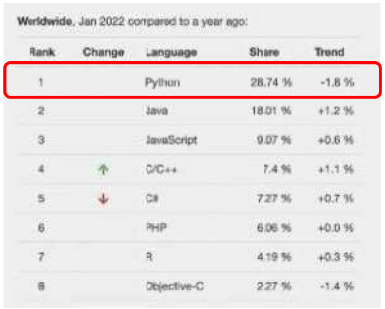
Python（プログラミング言語）

シンプル

ライブラリが豊富（AI、動画処理、画像処理 等）

読みやすい・メンテナンスがしやすい

PYPL PopularitY of Programming Language



Worldwide, Jan 2022 compared to a year ago:

Rank	Change	Language	Share	Trend
1		Python	28.74 %	-1.8 %
2		Java	18.01 %	+1.2 %
3		JavaScript	9.07 %	+0.6 %
4	↑	C/C++	7.4 %	+1.1 %
5	↓	C#	7.27 %	+0.7 %
6		PHP	6.06 %	+0.0 %
7		R	4.19 %	+0.3 %
8		Objective-C	2.27 %	-1.4 %

Googleの検索エンジンによってプログラミング言語のチュートリアルが検索された回数を集計し、対象のプログラミング言語がどれだけ話題となっているかを表したもの

https://pypl.github.io/PYPL.html

Python（プログラミング言語）

シンプル

ライブラリが豊富（AI、動画処理、画像処理 等）

読みやすい・メンテナンスがしやすい

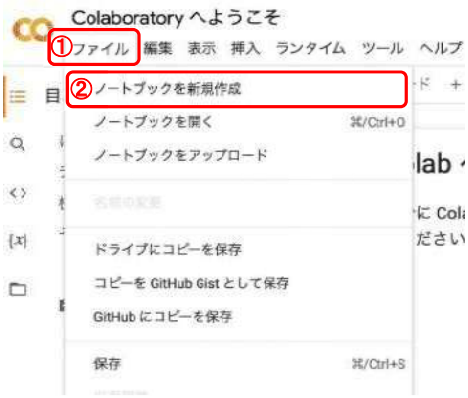
注目の言語！

Google Colaboratory

①Googleのサービス

②Web上から簡単にプログラムを実行できる

③無料で利用できる



GPUの接続

処理するコンピュータへ接続処理、接続処理をしなくてもプログラムの実行処理をしたら自動で接続する

処理結果

実際にプログラムを実行しよう！

Classroomからファイルを送信します

print文（文字列、数値および変数の値を出力）

print(データ)　　**文字列は’ ’または” “で囲む**

お届け先 大屋純一さん

690-0876

このHTMLって？

少し簡単に表現

```
<a>
  <span>お届け先 大屋純一さん</span>
  <span>690-0876</span>
</a>
```

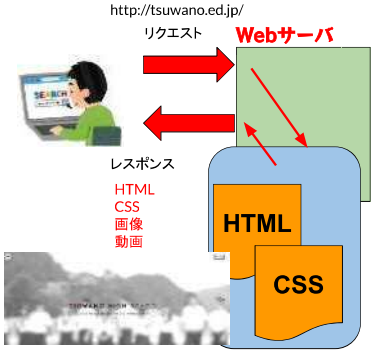
出力結果

```
<a><span>お届け先 大屋 純一さん</span>
<span>690-0876</span></a>
```

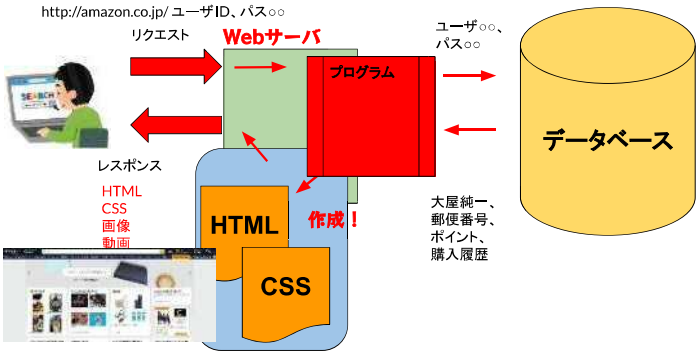
プログラム

```
name = '大屋 純一'
post_code = '690-0876'
print('<a><span>お届け先 %sさん</span>' % name)
print('<span>%s</span></a>' % post_code)
```

インターネットの情報の流れ



インターネットの情報の流れ



静的なサイト（事前にHTMLなど準備されいる）

一方通行で情報伝達

動的なサイト（アクセスによりHTMLを書き換えている）

ユーザごとのページ
双方向のやりとり
プログラムで処理
何でも自由自在！

おわりに

私たちの身の回りには、
プログラムで動作しているもので
あふれています。
あなたは
プログラムを学ぶことの価値は
どのようなことだと思いますか？

地理B
世界の宗教

PCにログインし、google classroom
「地理B」に入ってください

チェックイン

宗教について学ぶことはあなたにとってどんな意義や価値がありますか？

スプレッドシート

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1wkE2U8ltqmHHonHxd5gxA5--KQP_OY0JHLuDsz5QEgw/edit?usp=sharing

何の写真？

何の写真？

何の写真？

儀礼と宗教　正しい組み合わせは？

①初詣　　A：キリスト教
②葬式　　B：神道＋仏教
③クリスマス　　C：仏教

1．①―A、②―B、③―C
2．①―B、②―C、③―A
3．①―C、②―B、③―A

そもそも宗教とは？

個々の人間の生き方や同じ信仰を持つ人々の社会に規範を示すもの

世界宗教と民族宗教

世界宗教

- キリスト教、イスラム教、仏教

民族宗教

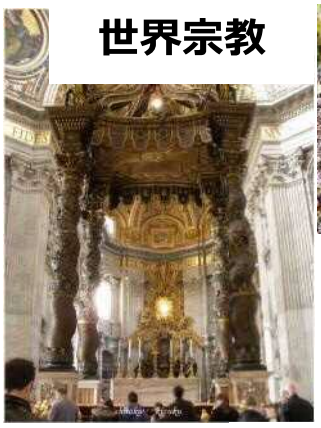
- ヒンドゥー教、ユダヤ教

宗教人口

- キリスト教　32.9%
- イスラム教　23.6%
- 仏教　7.0%
- ヒンドゥー教　13.7%

仏教よりヒンドゥー教の方が宗教人口が多いのに世界宗教と認められないのはなぜ？
資料集P１４２－１４３の地図を見て考えてください

世界宗教



世界宗教

キリスト教

- 一神教、『新約聖書』、聖地：ローマ、イエルサレムなど、

イスラム教

- アッラーのみの一神教、『コーラン』、聖地：メッカ、イエルサレムなど

仏教

- 仏陀が創始。バラモン教とヴェーダ（カースト制）を否定。

キリスト教の拡大背景（１－５班）

次の３つの資料を踏まえて、キリスト教が世界に広がる宗教となった背景を説明してください。10分
グループでスプレッドシートに入力
①教科書P210　16行目～19行目
②資料集P142～143の地図
③キリスト教（カトリック）の特徴
・カトリック・・教会で祈ることで救われる。教皇は天国の扉の鍵を持つ。神の前の平等。

イスラム教の拡大背景（６－９班）

次の３つの資料を踏まえて、イスラム教が世界に広がる宗教となった背景を説明してください。10分
グループでスプレッドシートに入力
①教科書P211　1行目～4行目
②資料集P142～143の地図
③イスラム教の特徴
６信（アッラー、預言者、コーランなど）５行（礼拝、断食、喜捨、巡礼、アッラーの崇拝）を大切にすることで救われる。「コーラン（イスラム教に改宗するか）か貢納（税を納める）か剣（戦争）か」を周辺地域に迫った。

仏教

仏陀が創始
道徳的生活の実践による生老病死（四苦）からの解脱を目標とする

上座仏教
解脱を目指した出家僧のための教え。戒律を守って修行することで解脱を目指す。
ミャンマー、タイ

大乗仏教
菩薩信仰。悟りを開いた菩薩によって救済される。
中国、朝鮮半島、日本

資料集P143の写真から特徴を見出せますか？

民族宗教

ユダヤ教
- ヤハウェー神教、啓典：『旧約聖書』、救世主思想、選民思想（ユダヤ人だけが救われる）

ヒンドゥー教
- 多神教、『マヌ法典』（生活規範）、カースト制、複数の民族宗教がバラモン教に結びついて成立

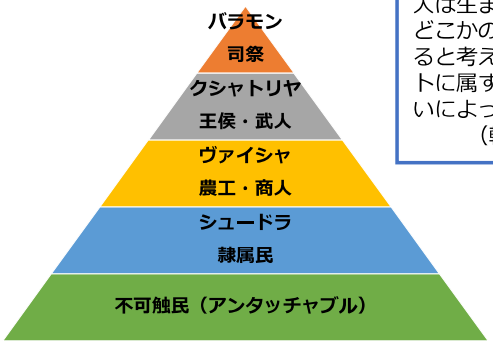
ヒンドゥー教

- 様々な民間信仰がバラモン教と結びついて成立
- 多神教＆偶像崇拝
- 輪廻からの解脱を目指す
- 伝統的な制度や慣習の総体となる

マヌ法典

マヌの教えは繁栄に導く最上の手段である。これは判断力を増幅させる。名誉と寿命を獲得させる。最高の至高に導く。手足は水によって清められる。心は真実によって清められる。人間の本体は学問と苦行によって清められる。判断力は[redacted]によって清められる。

カースト制



人は生まれながらにしてどこかのカーストに属すると考える。どのカーストに属するかは生前の行いによって決まっている（輪廻転生）

現代のインド

カースト制は憲法で禁止されているが、根強く残っている

▼

IT関係の職が大人気！なぜ？

一神教と多神教

一神教

- キリスト教、イスラム教、ユダヤ教など
- 神の前の平等　→　寄付文化・・なぜ？
- 他の神を認めないため他宗教と対立　→　戦争、支配へ

多神教

- ヒンドゥー教など
- 他の宗教や神に寛容

宗教と生活

- **イスラム教徒・・（　　）を食べることを禁止**
- **→　教科書P212「トピック」を読んでください**
- **ヒンドゥー教徒・・（　　）を神聖視して食べることを禁止**
- **ヒンドゥー教徒の中には徹底した菜食主義のものもいる**

この写真の中で、宗教的・文化的配慮が見られるところはどこ？この写真にもう１つ配慮を加えるとしたら何をすれば多様な国籍、文化の人々が快適に利用できるようになる？

グーグルスライドに書き込んでください

①加えたいもう一工夫
②その理由
（５分）

https://docs.google.com/presentation/d/16W_U3mEI-bZbTSBQe8qLCixOIGmNRqxEicmB8E23Zwg/edit?usp=sharing

振り返り

**本日の授業で最も大切だと思った
キーワードを1つ選択し、理由を書い
てください**

遠隔授業の施行配信（数学）

Classroomに入室しておいてください。
よろしくお願いします。

島根県教育庁教育指導課
学力育成スタッフ　　柳樂　淳一

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

自己紹介

名前　柳樂　淳一
出身　東京都武蔵野市（大学院まで生活）
※10年前、浅利に1年間住んでいました
趣味　卓球、アカペラ、スキー、ジャム作り
最近　最近はまった動画は、NHK一橋アナが、
なかやまきんに君のギャグに吹き出して
ニュースが読めない放送事故です。

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

自己紹介

Classroomに配信をしたURLから
自己紹介を打ってみてください。
自分の名前のフレームに入力しましょう。
※自分の名前の前にある番号が
今日の出席番号になります。

2分程度で作れるかな？

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

今日のアジェンダ　①伝わる

・文字がはっきり見える、伝わる
・音声がはっきり聞こえる、伝わる
・先生の問いかけが分かる、伝わる
・先生に自分のリアクションが、伝わる
・先生からのPCの指示が分かる、伝わる

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

今日のアジェンダ　②深まる

・複数の考え方の良さを通して、深まる
・分数についての興味関心が、深まる
・webアプリを使って理解が、深まる

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

お願い

・リアクション（頷きなど）
・協働＋笑顔（^^♪
・困ったら平井先生

※著作権の関係で
加工しています

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/ja/gallery）

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jp/gallery）

$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}$

を計算しましょう。

$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}$

どのように解いたか、
確認してみましょう。

$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}$

他にはどんな解法があるでしょう？
話し合ってみましょう。

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{18}{7}-\frac{12}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{18}{7}-\frac{12}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=1\frac{11}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{18}{7}-\frac{12}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=1\frac{11}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=2\frac{6}{7}-1\frac{7}{7}=\frac{6}{7}$$

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根×創生

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{18}{7}-\frac{12}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=1\frac{11}{7}-1\frac{5}{7}=\frac{6}{7}$$

$$2\frac{4}{7}-1\frac{5}{7}=2\frac{6}{7}-1\frac{7}{7}=\frac{6}{7}$$

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根×創生

今日のアジェンダ　①伝わる

- 文字がはっきり見える、伝わる
- 音声がはっきり聞こえる、伝わる
- 先生の問いかけが分かる、伝わる
- 先生に自分のリアクションが、伝わる
- 先生からのPCの指示が分かる、伝わる

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jp/gallery）

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根×創生

今日のアジェンダ　②深まる

- 複数の考え方の良さを通して、深まる
- 分数についての興味関心が、深まる
- webアプリを使って理解が、深まる

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jp/gallery）

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根×創生

では、もうひとつ・・・

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jp/gallery）

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根×創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\bigcirc}+\frac{1}{\bigcirc}$$

〇に入る自然数を求めましょう。

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\bigcirc}+\frac{1}{\bigcirc}$$

○に入る自然数を求めましょう。

○は同じ数字？

☞ では、同じ数字の場合で求めてみよう。

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\bigcirc}+\frac{1}{\bigcirc}$$

○に入る自然数が同じ数字なら

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{4}+\frac{1}{4}$$

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\bigcirc}+\frac{1}{\bigcirc}$$

○に入る自然数を求めましょう。

○を違う数字にしたいときは
問題をどう変えればよいですか？

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{ア}}+\frac{1}{\boxed{ア}}$$

ア　に入る自然数を求めなさい。

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$$

イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ < ウ　とします。

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$$

イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ < ウ　とします。

では、Let's Try!

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$$

イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ < ウ　とします。

どうやって求めましたか？

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$

イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ ＜ ウ とします。

≪中学入試頻出問題≫

〇〇〇にどうやって教えますか？

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$\frac{3}{5}=\frac{1}{\boxed{エ}}+\frac{1}{\boxed{オ}}$

エ，オ に入る自然数を求めなさい。ただし，エ ＜ オ とします。

〇〇〇にどうやって教えますか？

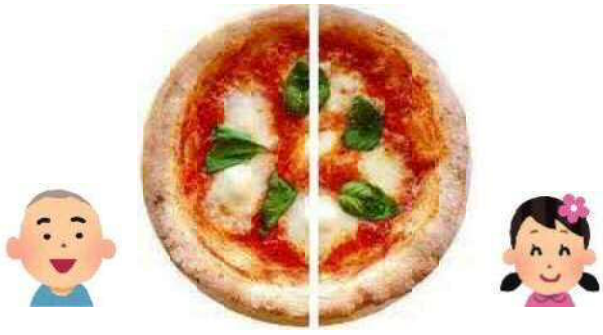
理屈が分かればできる＼(^o^)／

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ ＜ ウ とします。

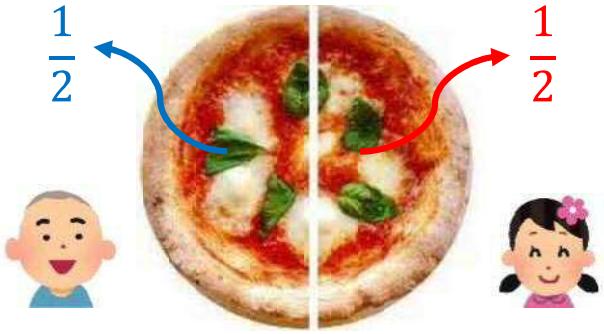
石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ ＜ ウ とします。



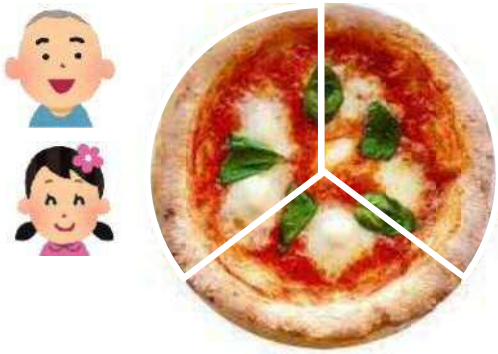
石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ ＜ ウ とします。

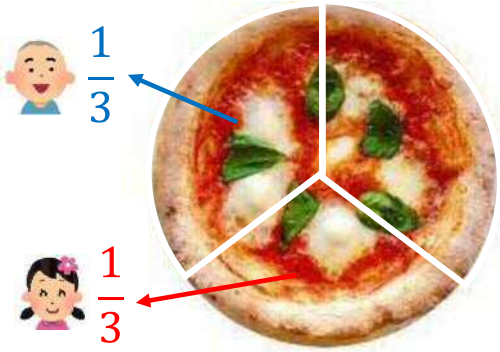


石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ イ，ウ に入る自然数を求めなさい。ただし，イ ＜ ウ とします。



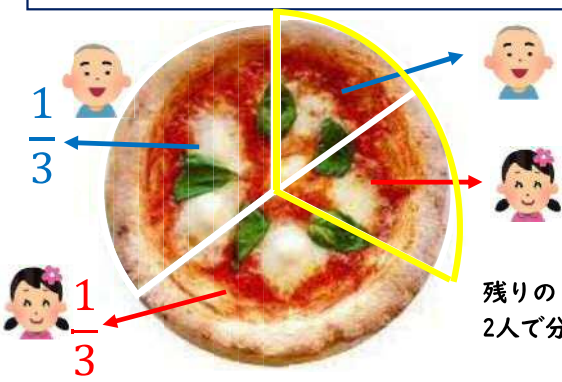
$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ $\boxed{イ}$, $\boxed{ウ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし, $\boxed{イ}<\boxed{ウ}$ とします。



残りの1/3を
2人で分けると

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根で創生

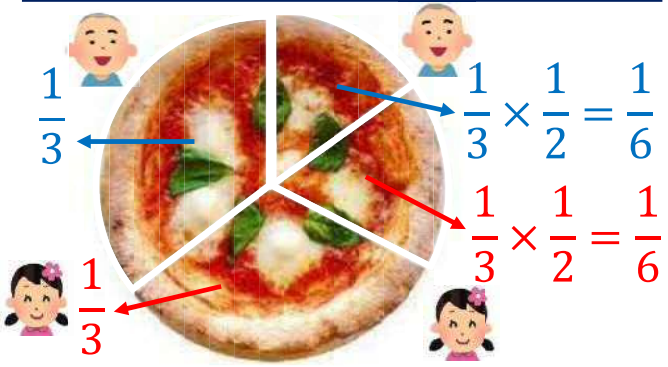
$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ $\boxed{イ}$, $\boxed{ウ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし, $\boxed{イ}<\boxed{ウ}$ とします。



残りの $\frac{1}{3}$ を
2人で分けると

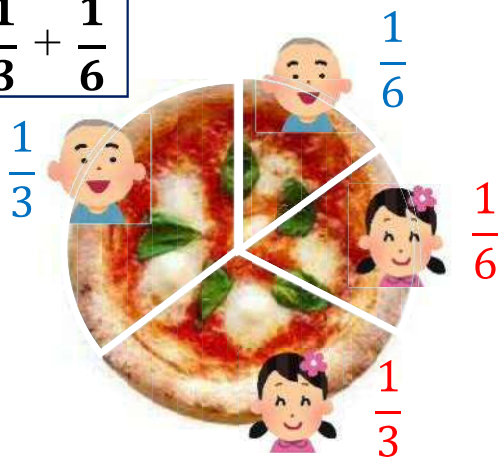
石見COREハイスクールネットワーク構想 島根で創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$ $\boxed{イ}$, $\boxed{ウ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし, $\boxed{イ}<\boxed{ウ}$ とします。



石見COREハイスクールネットワーク構想 島根で創生

$\frac{1}{2}=\frac{1}{3}+\frac{1}{6}$



石見COREハイスクールネットワーク構想 島根で創生

$\frac{3}{5}=\frac{1}{\boxed{エ}}+\frac{1}{\boxed{オ}}$

$\boxed{エ}$, $\boxed{オ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし, $\boxed{エ}<\boxed{オ}$ とします。

「◆個のピザを■人で分けると…」

では、Let's Try!

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根で創生

高校数学との関連は...

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jp/gallery）

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$$

$\boxed{イ}$，$\boxed{ウ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし，$\boxed{イ}<\boxed{ウ}$ とします。

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{\boxed{イ}}+\frac{1}{\boxed{ウ}}$$

$\boxed{イ}$，$\boxed{ウ}$ に入る自然数を求めなさい。ただし，$\boxed{イ}<\boxed{ウ}$ とします。

$\frac{1}{2}=\frac{1}{x}+\frac{1}{y}$ $(x<y)$ とおくと…

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{x}+\frac{1}{y}$$

通分して

$$\frac{1}{2}=\frac{x+y}{xy}$$

分母を払って

$$xy=2x+2y$$

移項して

$$xy-2x-2y=0$$ この次は…

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$xy-2x-2y=0$$

この次は…

$$(x-2)(y-2)=◈$$

の形に因数分解できるようにするため

$$xy-2x-2y+4=0+4$$

と両辺に+4を加えてあげれば

$$(x-2)(y-2)=4$$

4は 1×4，2×2ですが、$x<y$ より…

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$(x-2)(y-2)=4$$

4は 1×4，2×2ですが、$x<y$ より…

$$(x-2,y-2)=(1,4)$$

両方の成分に+2を加えてあげれば

$$(x\quad,y\quad)=(3,6)$$

よって

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{3}+\frac{1}{6}$$

石見COREハイスクールネットワーク構想 島根の創生

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{3}+\frac{1}{6}$$ 『単位分数の和に分解する』

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{4}+\frac{1}{12}+\frac{1}{7}+\frac{1}{42}$$

$$\frac{1}{n}=\frac{1}{n+1}+\frac{1}{n(n+1)}$$

単位分数の和の分解の表し方は無限通り

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{3}+\frac{1}{6}$$

『単位分数の和に分解する』

通称『ＢＢＢ』

☞ $\frac{1}{6}=\frac{1}{2}-\frac{1}{3}$

有理式（あるいは分数式ともいう、多項式の商で表される式のこと）に対し、その有理式の分母が互いに素な多項式の積で表されるとき、その有理式を多項式と複数の有理式（ただし、分子の次数は分母の次数より小さい）の和あるいは差で表すこと

$$\frac{1}{n(n+1)}=\frac{1}{n}-\frac{1}{n+1}$$

数Ⅱ、数Ⅲ、数Bで超頻出！！

$$\frac{3}{5}=\frac{1}{\boxed{エ}}+\frac{1}{\boxed{オ}}$$

エ，オ に入る自然数を求めなさい。ただし，エ < オ とします。

○○○にどうやって教えますか？

理屈が分かればできる＼(^o^)／

定理も証明もできると力がつくよ！

$$\frac{1}{2}=\frac{1}{x}+\frac{1}{y}$$

これってどんな関数？

参考：GeoGebra

https://www.geogebra.org/?lang=ja

画像：JR山陰本線（島根県観光写真ギャラリー　https://www.kankou-shimane.com/jo/gallery）

今日の授業について

環境大学　千代西尾祐司

本日のお題

「葉」は，なぜ緑色ですか？

エキスパート活動用メモ　名前＿＿＿＿＿＿＿＿　1

・エキスパート活動でのメモ用紙です

A. 色はどうして見えるのか

（1）可視光線の波長の範囲はどれくらいか。

（2）リンゴが赤色に見えるのはなぜだろうか。

B. 葉緑体の光吸収スペクトル

（1）クロロフィルとは何か？

（2）クロロフィルが吸収しにくい光の波長の範囲はどのあたりか。

C. エンゲルマンの実験

（1）好気性細菌が集まっているところでは何が活発に行われているか。

（2）好気性細菌は何色の光の部分に集まりやすいか。

A. 色はどうして見えるのか　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿　Ⓐ

可視光線とは

太陽の光をプリズムに通すと，虹のような色の帯ができることを知っていますか？

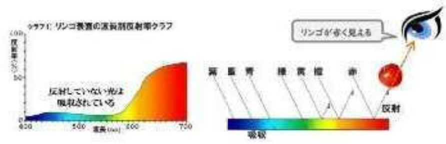
この色の帯を「スペクトル」，光をスペクトルに分けることを「分光」といいます。

スペクトルは，赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の順に並んでいますが，これはそれぞれの光の波長（波の周期的な長さ）が違うために生じる現象です。

人間は特定の波長の光を色として感じる（見る）ことができ，この光を「可視光線」といいます。人が見ることができる「可視光線」の波長は380〜780nm（ナノメートル）※1の範囲です。この特定の波長が人間の目の奥にある網膜に刺激を与えて，色として感じさせているわけです。

※1：1nm（ナノメートル）＝10億分の1メートル

赤く見えるリンゴの色の正体は



上のグラフから，リンゴに当たった光のうち，橙〜赤色の光は反射率が大きく，他の青色や緑色の光はリンゴに吸収されていることがわかります。リンゴは赤色を多く反射するため赤く見えますが，私たちの目に映るリンゴの赤色には，わずかながら青色や緑色も含まれています。物体で反射され，視覚で色として認識される光には，さまざまな波長の光が混じり合っているのです。

B. 葉緑体の光吸収スペクトル　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿　Ⓑ

さんさんと降り注ぐ太陽の光は，光合成によって化学エネルギーに変換され，地球上ほとんどの生命のエネルギー源として利用されています。

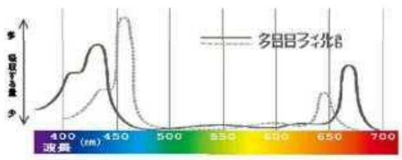
光合成とは，細胞の中にある葉緑体が光を受けて，水と二酸化炭素からデンプンなどの栄養分をつくり出すはたらきのことで，このときに酸素も発生します

葉は，植物細胞からできており，その中には葉緑体という緑色の小さな器官があります。

葉緑体の中にはクロロフィル（葉緑素）と呼ばれる色素が含まれており，植物の光合成反応は，このクロロフィルが光を吸収しエネルギーとして使われることにより行なわれます。クロロフィルがどの波長の光を強く吸収するかを測定したグラフ（光吸収スペクトル）を見ると，ある特定の波長の光を強く吸収していることがわかります。

この光吸収スペクトルは，いろいろな光をあてて光合成の速度を測定したグラフともほぼ一致し，クロロフィルが光エネルギーを吸収していることが分かります。

クロロフィルの光吸収スペクトル



※1nm（ナノメートル）＝10億分の1メートル）

C. エンゲルマンの実験　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿　Ⓒ

エンゲルマン（ドイツの植物生理学者）は，アオミドロと好気性細菌を同じ容器の中に入れて密封し，

（実験①）白色光のスポットをアオミドロのいろいろな部分に当てて，好気性細菌の動きを観察する

（実験②）プリズムで分光したいろいろな色の光をアオミドロに当てて，好気性細菌の動きを観察する

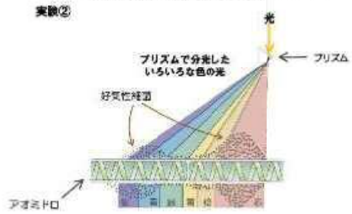
という2つの実験を行い，好気性細菌がどこに集まるか確かめました。好気性細菌というのは，酸素が存在するところで正常に生育する細菌類のことをいい，酸素がある場所を好みます。

その結果，好気性細菌は光のスポットを当てた葉緑体の部分や，特定の色の光が当たっている部分に多く集まることが明らかになりました。

実験①　　白色光をスポットで当てる

好気性細菌は，光をあてた葉緑体の部分にだけ集まる

実験②



ジグソー活動用メモ　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿　②

・エキスパート活動で各班で話し合ってきたことを相手に伝え，メモしましょう

（１）各班の説明を聞きながらのメモ（ただのメモ欄です丁寧に書く必要はありません）

・エキスパートの発表が終わったら，班で話し合いましょう

（２）葉はなぜ緑色なのか（答えがまとまったら，Jamboardに書き込みましょう）

（３）他の班の発表を聞いてメモをしましょう

４　その他

４．１　ICT 関連の視察ならびにイベントへの参加

本事業の円滑な実施に向け、以下の視察ならびにイベントに参加した。

・視察　　(1)高知県教育センター（遠隔授業配信の仕組み）
　　(2)岡山県立林野高等学校（1 人 1 台端末の活用）
・イベント (1)長崎県遠隔サミット（オンライン）
　　(2)高知版 CORE 遠隔教育ネットワーク構想研究発表会（オンライン）

視察については 7 月に行い、本事業のイメージを掴む貴重な機会となった。高知県教育センターにおいては、遠隔授業配信センターを設置し、そこから授業を配信するといった「拠点型」で運営していること、遠隔授業の受講生徒は各校 1 名から最大で 7 名で、複数校同時配信の場合は 2 校 8 名で行っていること、また配信機材や通信環境等についての説明を受けた。さらに、その前提としてどの地域の高校でも等しく教育を受けられるために県の施策として組織的に遠隔配信を行っていることなどを聞き、大変参考になった。

機器構成（高知県教育センター）　配信側（授業者）

高知県立林原高等学校　（受信側）

また、岡山県立林野高等学校においては、実際の各教科における端末活用だけでなく、生徒会選挙（この日は補欠選挙）についても 1 人 1 台端末を活用して行っている様子を見学した。全国初の公立高校での BYOD 実践校として効果的な活用を行っている背景には核となる教員への管理職の理解や支援があることや、プレヒアリングにおいて、事業検証に際しては 1 人 1 台端末を活用した実例を要望されていることなどから、本事業につながる有意義な視察となった。

なお、遠隔授業を実施する科目については、本県の CORE ハイスクール構成校に対し端末を貸与する予定である。

理科の実習に端末活用を併用

生徒会選挙に Google Form を活用

４．２　Google Classroom での情報共有

島根県では県立高等学校の生徒ならびに教職員に対して Google アカウントを発行し、Google Classroom（以下「Classroom」）を活用した連絡共有を進めている。本事業においても遠隔授業の試行配信において活用しており、令和４年度からの本格配信でも活用することとしている。

その流れの中で、構成校、関係機関、事業評価委員等との連絡、調整を行う際も Classroom を活用してプラットフォーム化を図り、事業の円滑化に努めた。

Classroom を活用した際の効果は以下の通りである。

(1)情報の一元化

資料や情報の一元管理ができたことは、最大のメリットである。急な依頼にも即時に全体で共有できることで速やかな対応が可能になった。加えて Google Meet との連携も図られており、コロナ禍により対面での協議が困難な中でもオンライン協議が容易になった。Classroom での情報の一元化は事業運営に極めて有効であったと考えられる。

(2)ペーパーレス化

全体に共有できるため、各自の端末で資料も共有される。そのため、協議の際に資料を印刷する手間が省けたことも特筆できる点である。さらにフィードバック、進捗確認、フィードバック、保管など、Classroom の中で一元的に管理できるため、ペーパーレス化は本義業の業務効率向上にも貢献している。

(3)関係者相互のコミュニケーションの活性化

情報の一元化によって、事業の担当者間のコミュニケーションについても活性化を図ることができた。各校の事業担当である主幹教諭との担当者連絡会（通称「主幹教諭会」）を適宜開くことができ、事務局では気づかない細かい点を指摘してもらい修正することも可能となった。主幹教諭の人柄もあるが、Classroom を活用したことでコミュニケーションの活性化につながったと考えている。

４．３「オンライン探究支援システム」構築に向けた試行

1　本事業の背景

新学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現には、地域人材など学校外の人材の活用が欠かせないが、手間がかかり教員の多忙化にもつながる恐れがある。また、特に探究学習やキャリア教育を行う際には、学校外の人材活用にあたり、学校が人材の幅や専門性などに触れる機会が不足しているといった課題がある。そこで、島根県では学校外の教育資源を簡易に教員がオンライン上で調達できる手法の構築を目指している。

2　目指す効果

（１）探究学習、進路指導等における授業の質の向上（県内外の多様な人材からのインプット・アウトプット機会の拡大、良質教材の確保、指導力向上）

（２）大学入試（主に「総合型・推薦型選抜」）への着実な対応

（３）生徒一人ひとりの意思に基づく、多様な進路の実現

（４）教員の働き方改革の推進

3　今年度の具体的な取組

＜津和野高校＞　オンラインによる大学生との１対１の対話によるキャリアワークショップ試行

日　時：　令和３年 11 月 10 日（水）　12:20～16:15　（11 月５日　大学生事前研修）

参加者：　津和野高校２年生（文系コース・理数コース 29 名）
大学生 29 名

目　的：　進路選択を前に自らの進路イメージを広げ、自らの興味関心・学びたいことを振り返り、進路選びにおいて大事にしたい要素を言葉にする

＜吉賀高校＞　教職員等向け伴走者研修の実施

日　時：　令和３年８月 27 日（金）　放課後

参加者：　教職員・地域の関係者 18 名

目　的：　教育課程の中で「探究的な学び」を支えるポイントや伴走者の役割等を共通理解する

4．令和４年度に向けて

・令和４年度は、津和野高校、吉賀高校に加えて、益田高校、江津高校の４校で「オンライン探究支援システム」を試行し、システムを活用して実践できることやシステム構築に向けて必要な要素、運用の流れ等に関する情報を収集していく。

・３月 10 日（木）・11 日（金）に、４校に対して「オンライン探究支援システム」の導入の背景や目指す効果、システムの概要等を説明するとともに、次年度の試行に向けたヒアリングを実施した。